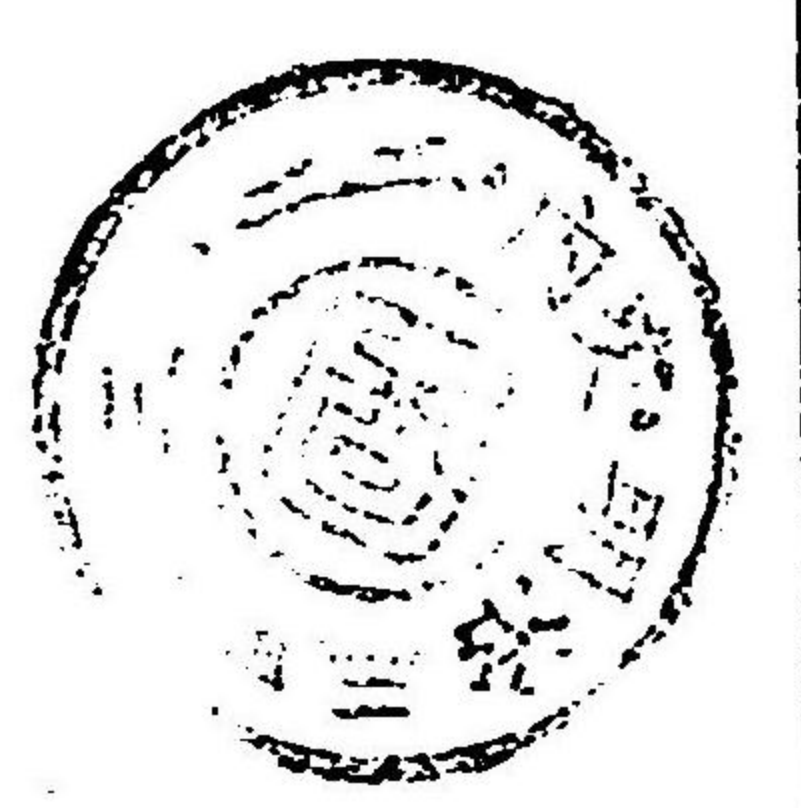


築城本部長陸軍少將石本新六君叙  
外務一等書記官文學士國府寺新作君閱  
東京郵便電信學校講師下里世民君著

# 交戰 論

全



東京

兵林館發兌



卷之三

火體橫以繞  
馬吞山河  
日瑤乾坤戰  
雲未嘗白小清  
聖教氣稜  
勇



少壯橫江涉  
馬吞山河  
日臨乾坤戰  
雲未高以清  
聖教氣程勇  
南豐原善露  
臨恩波帝  
識法英協力士  
王存之尹獨酒  
賈生之淚以筆  
轉沐福源

庚子十二月上澣

文戰汎瑞

陸軍少將石本新六





交 戰 汎 論 目 次

戰爭ノ原理	一
宣戰ノ理由	九
宣戰令	一四
交戰國ノ資格	一七
内亂ニ關スル交戰國	一九
交戰國ノ權利義務	二四
交戰者ノ權利義務	二九
兵力	三五
戰術	四二
銃戰	五〇



砲戰 ..... 五六

城戰 ..... 六二

戰事使節 ..... 六九

休戰 ..... 七二

投降條約 ..... 七九

俘虜 ..... 八五

俘虜ノ義務 ..... 九三

俘虜ノ分限及處分 ..... 一〇一

俘虜ノ交換 ..... 一〇七

占領 ..... 一一一

占領ノ性質 ..... 一一八

征服者ノ權利 ..... 一二七

占領國民ノ尊敬 ..... 一二九

侵地課金 ..... 一三五

課金及徵發 ..... 一四三

兵害賠償 ..... 一四九

間諜 ..... 一五九

マニチヅア條約 ..... 一六五

聖彼得堡宣言 ..... 一七八

海牙條約 ..... 一八二

陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約 ..... 一八三

陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則 ..... 一八九

海戰ニ於ケル交戰國ノ權利義務 ..... 二一一

封港ノ性質 ..... 二一二



封港定義	二二〇
有効ノ封港	二二五
封港ノ通知	二二九
封港ノ違反	二三三
平和ノ封港	二三八
海戦ニ於ケル私有財産臨檢搜查及捕獲	二三九
海上財産	二四一
臨檢搜查	二四四
拿捕船舶	二四五
捕獲審檢所	二四八
海上捕拿物	二五一
搜查權	二五八

捕拿船	二六二
出港停止外船徵發	二六九
避難權	二七四
戰時禁賣品	二八二
戰時禁賣品ノ種目	二八九
海戰條約	二九五
局外中立	
局外中立ノ沿革	三〇五
局外中立ノ原理	三一五
局外中立ノ義務	三一九
局外中立ノ權利	三二五
局外中立ノ結論	三三四



局外中立ノ種類	三四四
國際擔保	三四七
國際軍備	三五九
國際仲裁	三六六
國際仲裁裁判	三七四
國際仲裁裁判條約	三七七
國際平和	三九五
國際平和條約	四〇二
平和會議ノ決議	四一二

戰況論

○戰爭ノ原理

夫レ平和ハ人類狀態ノ正道ニシテ猶ホ社會及秩序アル政府ノ自然ニ屬スル者ノゴトキナリ之ニ反シテ戰爭ハ猶ホ野蠻ノゴトク事物ノ自然ノ秩序ニ背馳スル者ト謂ハサルベカラス然レトモ今一個人ノ現狀ニ就キテ之ヲ熟觀スレハ則チ實ニ不正不理ノ行爲アルヲ免カレス或ハ權利ヲ毀傷シ或ハ之ヲ擅越シ或ハ之カ回復ヲ企ツルニ至ラシムル者ニシテ其國民ヨリ成レル社會モ亦之ト同一轍ニ歸スルヲ見ル故ニ國際公法ナル者ハ凡ソ國民間ニ戰爭或ハ爭鬪ノ必ス存在スベキ者ト假定シ其戰爭及ヒ爭鬪ヲシテ正義仁惠ノ制限内ニ行ハレシメンカ爲

世民居士 下里子 著



ニ之カ規則ヲ定ムルヲ力ムル所以ナリ實ニ戰爭及國民カ相對立スル關係即チ交戰國或ハ局外中立國等ノ問題ハ是レ固ニ國際公法主要ノ部分ヲ占ムル者ナリ然レトモ若シ國民間ノ平和ニシテ萬古不易ノ者トナランカ則チ斯學ノ必要ヲ見サルニ至ルベシ而シテ此傾向ノ起ルヤ是レ斯學自身カ其必要ノ大半ヲ喪失スル時ニ在ル者ナリ

余ハ戰爭ニ就キテノ意見及德義上ノ標準開戰ノ方法及ヒ戰爭ト平和トノ間ニ於ケル國際上ノ狀態其戰爭ニ因テ交戰國タラシメタルノ關係及權利義務等ニ就キ論及セムト欲ス

戰爭トハ腕力ニ因リ幸福ヲ得或ハ災害ヲ防グノ目的ヲ以テ平和ノ狀態ヲ防止スルノ謂ナリ而シテ其正義ノ戰爭トハ如何ナルモノヲ謂フヤ曰ク正義ヲ守ランガタメ或ハ不正義ヲ防ガンガタメ之ヲ腕力ニ訴フ之ヲ換言セバ其害ヲ蒙ラシムル徒ヲシテ之ニ相當シタル災害ヲ與

二

ヘ以テ其心術及其行爲ヲシテ正義ニ皈セシムルコト是ナリ而シテ又其正義軍ナル者ハ當初平和ノ方便ヲ以テセシモ其回復ヲ獲ザリシ時或ハ自身防禦ノ已ムヲ得ザル時ニ用ヰラル、最後ノ手段ナリ是レ其正義ヲ守ルタメ平和ナル方法其効ヲ奏セサル時ハ暴行シテ他人ニ災害ヲ蒙ラシメ以テ其ノ損害ノ償還ヲ得ルノ權利ヲ有セザレハナリ

然レトモ其曲直ヲ斷スルヤ之ヲ客觀的ニ爲スヲ企ツルモノニ非ズ而シテ實際ニ見ユルガ如ク且ツ成立セル請求ニ關スル交戰双方ニ於テスルナリ

凡ソ國民ハ獨立ノ者タルヲ以テ各自カ其自國ノ事件ニ對シ權利ニ關シテ自己ノ說ヲ抱キ且ツ之ヲ正確ノモノトシテ主張スルノ權利ヲ有スルモノニシテ若シ兩國間ニ爭論ノ起リシ時ハ他國ハ之ニ關涉ス可カラス何トナレハ則チ其場合ニ於ケル權利ニ對スル意見大ニ其關係

三



國ト異ナル所アレバナリ或ハ若シ其戦争ノ不正ナルト明白ニシテ各國民全躰ノ福利ヲ害スル理由アルニ非ラザレバ其關涉ヲ爲スコト能ハザルナリ然レトモ一國民ニシテ權利ヲ主張スルノ口實ヲ有セスシテ戦争ヲ爲サンカ他國ハ之ニ對シテ非難ヲ與フルノミナラス其不正ヲ滅絶センガタメ兵力ヲ用ユルコトヲ得ヘキナリ

一個人ハ自己ニ私ニスル判決ヲ下ス可ラザルガ如ク國民ニ於テモ亦其諍論ヲ第三者ニ委托シ其裁決ニ賴ラザル可ラザルナリ勿論其災害療治ノ最後手段即チ戦争ノ起ラザルニ當リ仲裁手段ヲ用ユルコトハ是レ大ニ望ムベキ所ニシテ世運日ニ至善ニ赴ケハ益此慣用ノ流行スルニ至ルナルベシ然レトモ往時ニ於テハ戦争ヲ防止セント欲スルモ得テ爲シ難ク且最モ迅速ナル方法ヲ以テ驅除スヘキ所ノ蠶食手段亦大ニ蜂起シタリ而シテ又人民ノ聰明正直ノ度トナルヘキ善良ノ仲裁

人ヲ求メ得ルコト能ハザリキ然レトモ此問題タルヤ亦義務ニ關係セラル者ニシテ國民ガ他ヨリ補助セラレザリシ理由ニ基キ自己ニ適シタル理由ニ據リテ惹起シタル戦争ノ正不正ニハ毫モ關セザルモノトス今茲ニ一國アリテ戦争ノ場合ニハ之ヲ援助スヘキ條約ヲ訂盟シタリトセンカ則チ其國ハ該條約ノ目的ノ成立スルト否トヲ判決セザル可ラズ而シテ又條約ハ不正ヲ允許セザル者ナルガ故ニ其戦争ノ性質ニ基キ判定ヲ下サザル可ラザルナリ

凡ソ戦争ノ正當ナルト否トハ何ヲ以テ之ヲ判定スヘキヤ曰ク社會ノ神聖ナル組織上ヨリシテ國家及ヒ人民ヲ保護スルノ義務並ニ回復權若クハ懲罰權ハ皆是レ國家ニ屬スベキ者ナルコトヲ察スレハ則チ明瞭ナルナラン

夫レ眞害ニ抵抗シ正義ヲ守リ將來ヲ戒ムル爲メ其暴行者ニ十分有効



ナル教訓ヲ授クルコトハ是レ此世ノ造物者ガ其組織セラレタル社會ニ委托セラレタル特權ニシテ若シ此特權ヲ奉行セハ則チ大ニ德義力ヲ鍊磨シ人類ノ判決力ヲ高ムル所ノモノナリ且夫戰爭ナルモノハ其苦難及被害ヲ顧ミルトキハ實ニ人ヲシテ恐怖セシムルモノナリ然レ其戰爭ヤ反テ國民的德義ヲ恢復セシメ其專恣豪奢ナル平和ノ勢力ヨリシテ恰ソド滅絶ノ悲境ニ陥キリタル德義ヲ奮起セシムルコト往々之レアルナリ

余ハ左ニ其戰爭ヲ始ムルニ適當ナル理由ヲ列叙スベシ

凡ソ戰爭ハ國家ガ保護セザル可ラザル權利若クハ災害ノ賠償ヲ請求セザル可ラザルノ權利若クハ恐ルベキ損害ヲ防禦セザル可ラザルノ權利ハ都テ之ヲ保護スル爲メ宣戰セザルヘカラス

第一國家ハ其君主權及ヒ獨立ヲ保ツ爲メ之ヲ詳言セバ其政治的生

活及ヒ其土地保守ノ爲メ出兵スルモノナリ今此ニ掲クルモノハ一個人ガ自己ヲ防護スル爲ニ有スル權利及ヒ他ヨリ襲撃ヲ蒙ムリシ時自家ヲ防護スルノ權利ト同一ナリトス

第二國家ハ一個人ノ有スル一切ノ權利ヲ保護スルノ義務ヲ有スルモノナルヲ以テ其人民ガ外國ヨリ暴行ヲ被ムリシ時之ヲ保護スル唯一ノモノニシテ又戰爭ニ由テ其災害賠償ヲ請求スルコトモ亦之アルヘシ然レモ又其災害ノ範圍及ヒ其療法ニ關スル損害ノ大小ヲ考察スルコト至當ト謂フベキナリ乃チ國家ハ往々其災害ノ公ニ關スルモノト雖モ之ガ賠償請求ヲ忍ブコトアリ況ンヤ一個人ノ小ナルモノニ於テヤ

第三國家ハ其名譽毀損或ハ其國旗國使或ハ國名ニ關スル侮辱ニ對シテ其満足ヲ得ンガタメ戰爭ヲ爲スコトアリ吾人ハ知ル國家



ハ名譽權ヲ有スルモノニシテ其權タルヤ非常ニ重大ナルモノニシテ其權ノ毀損ハ高尚ナル精神ヲ抱有セル人民ニ取テハ大ニ敵愾心ヲ奮起セシムルモノナリ故ニ個人間ニ成立スル名譽回復訴訟ノ如ク其賠償請求ハ正義ニシテ且ツ自然ノ理ニ適シタルモノトス然レトモ瑣々タル鬪禮ノ場合或ハ細小ナル侮辱如キハ固ヨリ詰問スベキモノタリト雖モ之ヲ兵力ニ訴ヘ戰端ヲ開ラクノ策ヲ用ヒザルモノトス

第四條約ニ因リ相互ニ讓與セラレタル權利ヲ毀損スル時ハ戰爭ニ因テ之ガ賠償請求ヲ爲スコトアリ是レ金錢支拂ノ契約破ラレタル時其違約者ヲ召喚スヘキ法庭之レアラサルヲ以テナリ

第五其企圖セル損害ヲ防止スルコトハ實ニ戰端ヲ開クヘキ一理由ニ屬ス是レ自身防禦ノ場合ニシテ其損害タルヤ遠隔或ハ想像

ノモノニ非ズ其準備其企畫ニ因テ明ニ推定セラレベキモノヲ謂フ又其必ス防止セサルベカラサル損害ハ直接ニ特殊ノ國ニ對シテ爲ズ者ニ非ス各國制度ニ影響ヲ及ホス者モ亦然リトス即一主要國カ其野心ヲ以テ歐洲ノ國力平均ヲ攪亂シ因テ以テ大陸庶國ノ交渉ヲ惹起スコトアルカ如キモノ是ナリ

第六他國民カ宗教或ハ自由ニ關シ莫大較著ナル損害ヲ加ヘタル時ハ直接ニ影響ヲ蒙ラサル國ニ於テモ之ニ對シテ正當ニ敵意的關涉ヲ爲ストテ得而シテ其加害國ヲ脅迫スルノミナラス又其被害國ヲ助クルナリ蓋シ文明國民ノ感情ハ自ラ禁スルコト能ハサルヲ以テナリ

### ○宣戰之理由

國民ハ獨リ自己ニ對シ責任ヲ負フベキモノナリ而シテ其國ト他國ト



ノ關係ヲ判定スルコトハ常ニ是レ國民自己ノ當ニ行フベキ所ノモノニシテ隨意ニ其關係ノ性質ヲ變更シ而シテ平和ノ狀勢ヨリ戰爭ノ狀勢ニ變化スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ戰爭ナル者ハ常ニ之ニ對シテ口實若ハ理由ノ存スルアル者ニシテ若シ豫シメ此口實ヲ發表スルコトヲ得ル時ハ之ヲ稱シテ宣戰ノ理由ト謂フナリ蓋其戰爭ニ對シ種々ノ理由ヲ列擧スルハ是レ得テ爲シ難キ所ノモノトス故ニ宣戰ノ理由ハ偶然ニ生スル事情ニ基ク者ニシテ彼ノ一君主ガ隣國ノ王位ヲ繼承セントスルガ如キ或ハ其政體ヲ變更セントスルガ如キ或ハ其自衛心ノ毀傷セラレタルガ如キコト是ナリ然レモ余ハ茲ニ此問題ヲ論ズルニ當テ徒ニ特別ノ場合ヲ論ゼスシテ一般ニ戰爭ヲ生ズル主要ナル理由ノミ之ヲ概論セント欲ス乃チ其理由トハ一國民ノ權利ヲ他國民ノ爲ニ傷害セラレタル時或ハ其國民ノ利益ヲ他國民ノ爲ニ損害セ

ラレタル場合ナルカ否ラズンベ國民ノ威嚴ニ對シ無禮ヲ加ヘラル場合ニ生ズルモノナリ

クルーベル氏曰ク國家ノ權利ハ個人ノ權利ヲ妨害スルト同一ノ方法ニ因テ妨害セラレ、モノニシテ即チ其權利ノ妨害ニ直接ト間接トノ二アリ若シ國家全軀ニ對シテ加ヘラル、場合ハ是レ即チ直接ノ妨害ナリ若シ其國家ノ個人的人民ニノミニ加ヘラル場合ハ即チ是レ間接ノ妨害タルナリ又其國民ノ爲ニ其政府ガ害ヲ被ラシメラレタルガ如キモ亦此類ニ屬スト

同氏ハ更ニ一步ヲ進メ論シテ曰ク今最モ卓見アル法學家ノ說ニ從フ時ハ凡ソ國家ハ猶ホ孤立シ且ツ自然ノ狀勢ニテ生活セル人類ノ如ク已ニ實行セラレ若クハ恐ルベキ損害ニ對シ其必要ノ度ニ應シ暴行ヲ以テ自國ヲ防護スルノ權利ヲ有スルモノナリ故ニ國家ハ其隣國ノ過



度ニ領地ヲ擴充シタル事實ニ因テ被害セラレタリト謂フコトヲ得ル者ニシテ即チ其過度ニ擴充シタル事實ヲ稱シテ宣戰ノ理由ト謂フナリ

其他種々ノ口實ヲ以テ干戈ヲ動スコトアリ即チ道德ノ襲撃、智識ノ傳染、政治的流行病等ノ如キハ恐怖スヘキモノニシテ或ハ此等ヲ恐ル、口實ヲ用ヒテ以テ戰ヲ爲スコトアリ

然レトモ革命或ハ謀反ノ如キ國民的ノモノニシテ他國ニ對シ直接ノ危險ヲ生セサル場合ニ於テハ他國ヨリシテ此等ノ事件ニ關涉スルノ理由存セザルモノナリ

ブルンチユリ、氏ハ其著萬國法典ニ之ヲ論シテ曰ク吾人ハ當時ノ政治上ノ必要ニ從ヒ各國並ニ其人民タル者ノ改造スベキ必要アル時ハ之ヲ承認シ且ツ之ヲ許容セザル可ラザルモノナリ乃チ歴史的權利ガ

其當時世人ノ許容スル原理ト相牴觸セザル限ハ之ヲ保護スベキト同一理ニ基クモノニシテ若シ新法律ノ定制ニ反對スル時ハ其法律ヲ活動セシムル活氣ハ爲ニ消滅シ而シテ其法律モ亦國民ト共ニ進歩スルコト無クシテ已ムナリ吾人ハ實ニ一國人民ガ己ガ君王ノ帝位ヲ防護スル爲メ從軍スルノ權利ヲ有シ之ニ反シテ國民的一致ヲ設立スル爲メ干戈ニ訴フルノ權利ハ何故ニ之ヲ有スルコト能ハザルヤヲ了解スル能ハサルナリ蓋シ中世時代ニ於テ君主相續權ハ之ヲ古羊皮紙ニ記載シ制定セラレタリト雖モ國民的一致ノ固定ニ至リテハ連リニ數奇ナル時運ニ遭逢シテ幾世紀間之ヲ防止セラレタルニ由ル乎余ノ見ル所ヲ以テスレバ則チ人民ガ要求スル憲法ニ其身命ヲ抛チ一旦必要ナル時ハ之ヲ干戈ニ訴フルコトヲ得ルノ權利ハ是レ其國民ノ品格ヲ高メ其天職ヲ盡シ其安全ヲ保チ其榮譽ヲ護ルカ爲メ自然ニ有スベキモ



ノタル而已ナラズ彼ノ王權ノ證據物タル老朽汚損シタル文書ヨリモ更ニ必要ニシテ且ツ神聖ナル者ナリト謂フヘキナリ

### ○宣戰令

國家ガ平和ノ状態ヲ變テ戰狀ニ遷ルヤ一般ノ規則トシテ決シテ唐突ニ之ヲ爲スモノニ非ザルナリ其變遷ヲ爲スヤ先ツ或古來ノ習慣ノ在ルアリテ之ヲ採用シ且ツ今日ト雖モ尙ホ之ヲ慣行スル者ナリ人或ハ說ヲ爲シテ曰ク其戰爭果シテ正當ナルコトヲ證スル爲ニハ毫モ宣戰ノ必要ヲ見ザルナリ又曰ク被害國ガ戰爭ニ因テ以テ自國ノ權利ヲ確立スル爲メ準備シタルトノ通知ハ總テ無要ナルモノナリト然レトモ余ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ不正ノ論ト謂ハザル可ラズ余ハ苟モ宣戰ナルモノハ德義上常ニ必ズ施行スベキモノナリト思考スルナリ而シテ此宣戰ニ因テ其國ノ平和ヨリ戰爭ニ變遷シタル手續ヲ公布スレハ

即チ足ルモノナリ又其宣戰式ニ至テハ毫モ拘束セラル、トコロ之レアラサルナリ

夫レ宣戰ノ習慣タル往古歐洲ニ於テ盛ニ行ハレタル者ニシテ第十七世紀ノ中葉以後ニ及テ之ヲ等閑ニ附スルニ至レリ此習慣ハ遠ク古代ノ人民ヨリ藉リ來ルトコロノモノニシテ其當時ハ宣戰使ナルモノ有リテ戰爭ヲ宣言セシモノナリキ今日ニ於テハ其古代ノ法式ニ代フルニ更ニ簡單ナル者ヲ用ヒ即チ公報ニ因テ戰爭ヲ布告スルコト是ナリ然レトモ今其法式及ビ其名稱ハ之ヲ考究セスト雖モ結局孰レノ場合ニ於テモ其目的ハ同一ニ達セラル、モノニシテ即チ其開戰ヲ衆人ニ告知セシムルコト是レ其企圖スル所ニシテ此宣戰ニ由テ諸外國政府ガ之ニ注意スルニ至ル者ナルヲ觀レハ則チ其宣戰發布ノ目的ハ眞ニ正當ナルコトヲ知ラルベシ而シテ又其宣戰文中ニハ其國カ干戈ニ訴



フルニ至リシ精神ノ正義ナルヲ開陳スルモノ屢之レ有リ若シ其宣  
 戰ニ先シテ戰爭ヲ開ク時ハ其正否ヲ論セラル、ニ抵ル者ナリクルベ  
 ール氏曰ク宣戰ナル者ハ實ニ其戰爭ノ開始ヲ定ムル者ニ非スト雖モ  
 此宣戰ハ常ニ個人間ノ交際上ニ於テ法律上ノ影響ヲ與フル者ニシテ  
 總テ此等ノ理由ニ基キ戰爭ノ公告或ハ宣戰ヲ爲スコトハ歐羅巴全洲  
 普通ノ習慣ト爲レリト

宣戰ハ其國民ニ取テ實ニ至重至大ナル者ニシテ即チ戰爭ナル者ハ其  
 全國民ト敵國トノ間ニ敵讐ノ關係ヲ生シ各個人ノ身軀ニ關セザルモ  
 其貨物ニ就キ往々恐怖心ヲ抱カシムルヲ以テナリ而シテ其宣戰ノ文  
 タル極メテ短簡ナル者ニシテ一千八百七十年七月十九日佛國ガ其國  
 名ヲ以テ普魯西國ニ對シテ爲シタルカ如キモノ是ナリ或ハ其文中ニ  
 ハ之ヲ國際公法ニ於テ開戰理由ト稱スル者即其宣戰ノ正當ナルコト

ヲ證スル理由ヲ詳述スル者トス交戰國ハ特詔ヲ發シ其國人或ハ臣民  
 ガ宣戰後ニ遵奉スベキ行爲ヲ規定スル者ナリトス

### ○交戰國ノ資格

交戰國ノ資格ヲ國際公法ヨリ觀察スレハ必ス戰爭ニ從事スル交戰雙  
 方ニ成立スル者ト承認セラレサル所ノ者ニシテ猶兵器ヲ以テ相爭フ  
 者必シモ之ヲ戰爭ト謂ハサルカ如キナリ然レハ則チ何チカ交戰國ト  
 稱スベキヤ曰ク彼ノ王國ノ相戰フ時ハ是レ固ニ之ヲ稱シテ交戰國ト  
 謂フベキナリ而シテ其疑團ノ生スルハ唯其戰鬪國ノ一或ハ雙方ガ政  
 治上ノ主權ヲ享有セサル場合ナリトス故ニ其戰鬪國ガ交戰國ト稱セ  
 ラル、ニハ必ラス默許若クハ公認ナル者之レ無ハアルベカラザル者  
 ナリ然ラハ則チ何レノ場合ニ於テ交戰國タルノ資格ヲ有スル者ナリ  
 ヤ曰ク是レ其時ノ事情ニ因ル者ト答ヘザルベカラス今之ヲ概論セハ



凡ソ交戦國ノ資格ハ其相互ニ争鬪セル同盟國中ニ適當スル所ノ者ニシテ一方ニ於テハ其同盟國ノ組織大ニ整頓シ又國際公法ヲ遵奉スル者ニシテ他方ニ於テハ局外中立國ハ憲法或ハ同盟問題ノ解釋ハ國內ノ事務ニ屬スル者ナルガ故ニ之ニ對シテ何レカ不正ナルカヲ判定スルコトヲ欲セス又其判定權ヲ有セサル者ナリ又慈惠的理由ノ存スルカ故ニ交戦國ハ遙ニ謀反者ヨリモ寛大ニ待遇セラル、者ナリ又交戦國ノ資格ハ或同盟國政府ガ執行ノ性質ヲ有スル問題乃チ法律上ノ行爲即法律ニ因テ豫知セラル、束縛等ニ關セル問題ヲ提出スル場合ニ於テモ亦其兩造ニ適當スル者ニシテ夫ノ一千八百四十七年瑞西國ノ「ゾンデルブ」國ノ争鬪ノ如キ或ハ一千八百六十一年乃至一千八百六十五年合衆國ノ争鬪ノ如キ又一千八百六十六年普魯西國ガ多數ノ獨逸同盟國ニ對シテ争鬪シタルガ如キ者皆ナ是ナリ

### ○内亂ニ關スル交戦國

今内亂ノ場合ニ就キテ論ズレハ則チ大凡ソ其國民ノ習慣ヲ前提トシテ之ヲ言フト雖モ是レ全ク確定セザル所ノモノニシテ通常ノ場合ニ於テハ或國ノ謀反者ガ抵抗シテ其政府ガ之ヲ征討スルノ狀況ニ在ル間ハ其謀反者ニ對シ交戦國ノ資格ヲ與ヘザル者トス然レ此謀反者ニシテ殆ンド上位ヲ占ムルガ如ク見ヘ他國モ亦其自國ノ政畧ニ付キ之ト談合シ之ニ因テ行ヒ或ハ一國以上モ其謀反地方ヲ來援シ加之其謀反ヲ益々煽動シ以テ自國ノ利益ヲ圖ラントスルガ如キコトアリト雖トモ此等ノ行爲タル固ト國際公法ノ範圍ニ屬スルモノニ非ザルヲ以テ茲ニ之ヲ論ゼザルナリ而シテ如是ノ謀反者ノ法庭ハ良心輿論及ヒ歴史ニ在リト謂フベキモノナリ凡ソ政府ハ其叛徒視シタル者ニ對シテ交戦國ノ名稱ヲ與ルコトヲ快トセザルナリ蓋シ之ニ貸スニ交戦國



ノ名ヲ以テセハ是レ其叛徒ニ對シテ政府ガ道義力ヲ貸ス者ナレハナ  
 リ然レモ其政府ハ之ガ報酬トシテ叛徒ノ犯シタル被害ニ對シテ毫モ  
 之ガ責任ヲ負ハザルモノトナス夫ノ合衆國ニ於ケル南北分離ノ戰爭  
 ニ於テ若シ英國或ハ佛國ノ人民ニシテ南方政府ノ當事者ノ所爲ニ因  
 リ損害ヲ蒙ル時ハ英國或ハ佛國ハ其損害賠償ヲ南部政府ニ向テ請  
 求スル者ナリ而シテ其賠償ノ機會ハ其同盟國ノ亡滅スルト同時ニ消  
 失セラル、者ナリ此時ニ當リ若シ土耳其人が損害ヲ蒙リタル者ア  
 ルモ土耳其國ハ南部同盟國ヲ以テ交戰國ト認メサルガ故ニ其損害ノ  
 賠償ヲ同盟國ニ請求セズシテ之ヲ華新頓政府ニ向テ要求スルナリ即  
 チ曰ク貴國ノ謀反者ハ奪掠ヲ行ヒ弊邑ニ損害ヲ蒙ムラシメタリ故ニ  
 其賠償ヲ望ムト

茲ニ又一舊慣アリ乃チホーイントン氏ノ公法疏解中ニローレンス氏

ノ引證セルカンニンク氏が千八百二十六年六月二十二日グランザル  
 公ニ與ヘタル書即チ是ナリ其書ニ曰ク若シ英國政府ニシテモツシユ  
 ルデザイル氏ト共ニ希臘政府ハ其人民ヲ秩序的ニ統治スルノ能力無  
 シト認定スル場合ニ於テハ英國政府ニ向テ控訴シ或ハ其控訴ノ失敗  
 スル時ニ償金ヲ要求スルハ其當ヲ得タル者ナリ又英國政府ニシテ埃  
 太利國ト共ニカンニンク氏ハ英國ガ佛國ト共ニ之ヲ爲ストテ恐レシ  
 ナリ希臘政府ガ一ノ謀反ニ過ギザル所ノ者ニシテ國民ノ權利及ヒ義  
 務モ之ヲ有セザルトテ承認スル場合ニ於テハ則チ土耳其政府ニ向テ  
 訴ヲ起スベキ者ニシテ若シ該政府カ希臘船ノ犯シタル海賊犯ニ對シ  
 責任ヲ負フベキモノト承認スル時ハ希臘政府ハ之ヲ海賊ノ一大行爲  
 ニ譏スルヲ得テ土耳其政府ハ希臘政府ノ結果ニ對シテ責任ヲ負フベ  
 キ者ナリト



今一步進ヲ論ズレハ交戰國ノ認許ハ事實ノ認許タルニ過キズシテ而シテ其交戰國間ニ成立セル法律上ノ團結ヲ毫モ弱メザルナリ(一千八百六十四年二月十二日佛國元老院ノ議事録ヲ參看スベシ)之ヲ換言セバ則チ戰爭ノ在ルコトヲ承認スルノミニシテ孰レガ正義ナルカニ就テハ判定ヲ爲サザルモノトス

然レトモ若シ或政府ガ謀反者ト戰ヲ爲スヲ認メテ之ヲ交戰國ト爲ス時ハ則チ之ヲ奈何セン曰ク局外中立國ニシテ之ヲ交戰國ト認ムルト否トニ因テ之ヲ區別スベキモノニシテ乃チ之ヲ認メテ交戰國ト爲ス時ハ法律上政府ハ實際上政府ノ行爲ニ對シ之ガ責任ヲ負フコトヲ免ル、ナリ之ニ反シテ若シ局外中立國ニシテ之ヲ交戰國ト認メザル場合ニ於テハ法律上政府ハ之ガ爲ニ責任ヲ負フベキモノナリ而シテ又時トシテ其謀反甚ザ大ニシテ政府ハ之ヲ謀反トシテ布告スルト同時

ニ之ヲ事實上仁惠或ハ他ノ理由ヨリシテ之ヲ交戰國トシテ待遇スルコアリ彼ノ合衆國ニ於テ南北分離戰爭中ニ起レルガ如キ是ナリ今之ヲ事實ニ徵スルニ一千八百六十五年四月メンフィス府ニ於テ布告シタル豫定命令ニ曰ク同盟國ノ兵士ニシテ五月二十五日以内ニ降參セザルモノハ此日以後謀反者トシテ之ヲ待遇シ捕虜トシテ處理スルモノトスト此種ノ如キ認許ハ是レ國際公法ニ毫モ影響ヲ有セザルモノニシテ是レ全ク國內事件ニ屬スルモノナリトス

又交戰國ノ資格ハ土地橫奪ヲ爲ス海賊若クハ盜賊若クハ自己私利ノ爲メ暴行スル者若クハ暴行ノ罪ヲ犯シ其君主ヨリ其權利ヲ與ヘラレザル者ノ如キハ皆ナ之ヲ有セザルモノトス夫ノ一千八百六十六年普魯西國及ヒ他ノ獨乙國トバ、リヤ國トノ間ニ戰爭ノ起リシ時或バ、リヤ人ハ庶民ヲ招集シホトヘンツォルレン家ノ侯國近隣ノ一地方ヲ



襲撃シ之ヲ自國政府ノ名義ヲ以テ之ヲ占領セシトキ其非難ヲ受クザ  
 リシト雖モ其巨魁者ハ其政府ヨリノ命令ニ非ラスシテ妄リニ之ヲ暴  
 行シタル故ヲ以テ裁判所ニ召喚科罰セラレタリ之ト均シク苟モ軍隊  
 ノ一部ヲ組織セザル市民ニシテ戦闘スルハ是レ禁制セララル、所ノモ  
 ノナリ蓋シ敵國ハ之ヲ交戦者トシテ認メザルヲ以テナリ而シテ若シ  
 此民ニシテ戦闘スレバ則チ大ニ嚴罰セララル、所ニシテ是レ萬國ノ悉  
 一致スル所ナリ千八百九十九年海牙條約ヲ參觀スベシ  
 余ハ交戦國ノ資格ノ何種ノモノニ屬スルカノ問題ヲ論結シタルヲ以  
 テ更ニ進ンテ交戦國ノ權利及ビ義務ニ就キ之ヲ略述セント欲ス

### ○交戦國ノ權利義務

夫レ交戦國ノ權利タルヤ古代ヨリ中世ノ季ニ至ルマデ毫モ制限無キ  
 モノト思考セラレタリ是レ敗亡者ハ聊モ其權利ヲ有セザレバナリ然

レトモ現今ノ習慣ニ據レハ交戦國ノ權利ハ勝利ヲ博スルガ爲メ已ム  
 チ得ザル者ノ外ハ敵國ニ對シテ毫モ暴害ヲ加フルヲ允サマルヲ以  
 テ漸ク制限セララル、ニ至リタリ蓋シ敵國ニ對シテ權利ヲ履行スルカ  
 如キハ大ニ慈惠心ヲ悚動セシムルニ足ル者ナリ然レモ一旦彼我互ニ  
 事ヲ干戈ニ訴フルニ至ルヤ之ト反對ノ事ヲ行ヒ十分ニ履行シ得ベキ  
 權利ヲモ拋棄スルガ如キハ決シテ爲スコト能ハザル者ナリ是ヲ以テ  
 交戦者ハ其襲撃ノ敵兵ヲ殺戮スルノ權利ヲ有スト雖モ負傷者及ヒ投  
 降者ヲ惠マサルベカラサルナリ彼ノ交戦ヲ爲サル市民ノ生命及ヒ  
 婦人小兒ノ生命ハ是レ神聖ナル者ニシテ戰爭ノ規則ハ之ニ對シテ活  
 用セサル所ノ者ニシテ武器ヲ執リ戦闘ニ與ミセザル限ハ平和ノ規則  
 ノ下ニ生存スベキ者ナレハナリ若シ交戦ニ與セザル者ニシテ平和ヲ  
 破ルニ於テハ當初無罪タリシニ反シテ更ニ嚴罰ニ處セララルベキ者ナ



リトス是レ孰レノ開化國民モ悉ク一致スルトコロナリ  
 以上陳述セシ所ハ唯生命ニ關スルノミ而シテ又交戦ヲ爲サザル人民  
 ノ財産ハ其生命ノ安全ナルト同シク安全ナルベキモノナリ然レトモ  
 一旦敵地ヲ占領スルヤ否ヤ嚮ニ其地ニ權力ヲ施行シタル有司ハ廢止  
 セラレ之ニ代フルニ其敵國ノ有司ヲ以テヌ故ニ其新占領ノ有司ハ因  
 テ以テ一切ノ主權ヲ施用スルヲ得ルナリ是ヲ以テ新占領ノ主權者ハ  
 其地ノ住民ニ對シ舊國有司ガ嘗テ施行セシ一切ノ徵收物ヲ要求スル  
 ヲ得殊ニ又其著明ナル者ハ其軍隊ノ支給或ハ通常非常ノ稅或ハ正當  
 ノ規則ニ基キ之ト同種物ヲ徵發スルガ如キ又其人民ニ受領證ヲ附與  
 シテ機會アレハ即チ本國ヨリ其徵發ヲ辨償セシムルコトアリ然リト  
 雖モ其徵發ハ妄ニ之ヲ行フコトヲ得ス即チ軍事上已ムヲ得サル限ニ  
 於テノミ募集スルヲ得ル者ニシテ若シ一兵士カ其私益ヲ圖ランカ爲

メ腕力ヲ用ヒ得ルノ權利ハ毫モ存セサル所ノ者ナリ  
 然レトモ若シ既往ニ成立シタル權力ニシテ法律上中止セラレタル場  
 合ニハ敵國ハ之ヲ保持スルハ至當ナル者ニシテ其國ノ利益若クハ慈  
 惠心ヨリ之ヲ爲スコトヲ得是占領國ニ有益ナルノミナラス敵國ニ取  
 リテモ亦有害ナラザル者ナリ

政府ハ如是ノ場合ニ於テ其當事者ニ命シテ其位地ヲ撤去セシムルヲ  
 以テ適當ノ事ト爲セリ而シテ又其當事者ハ其位地ヲ撤去スルノ義務  
 ヲ以テ各自ニ賦セラレタル愛國者ノ當務ト思考セリ然レトモ余ハ此  
 問題ニ對シテ其見解ノ果シテ正當ナルカ否ヲ知ラサルナリ乃チ其當  
 事者ノ撤去ハ是レ其害ノ人民ニ及フヨリモ其敵ニ對シテ更ニ鮮少ナ  
 ルヲ以テナリ他方ヨリ言ヘハ若シ敵國ニシテ實際上全ク君權ヲ綜攬  
 スト雖モ其敵國ノ主權ハ憲法上ノ變化ヲ命スルカ如キニ至ラサル者



ニシテ之ニ代フルニ敵國ハ其通常ノ規則ニ因テ制限セラレ、コト無キ者ナリ又敵國ハ一時ナリト雖トモ而モ實際ノ主權ヲ有スルヲ以テ法律ヲ制定スルヲ得ルヲ以テナリ

今交戰國ガ有スベキ權力ニ就テ論スレハ則チ戰爭ノ習慣上其權力ハ之ヲ適度ニ用弗ルヲ以テ交戰國ノ義務ト爲スヘキモノニシテ現今行ハル、戰爭規則ハ殘忍又ハ無用ノ劫掠、或ハ口頭契約ヲ破棄シ其他名譽ニ反對スルモノハ總テ之ヲ非難シ又亂暴ナル武器毒藥爆烈彈(但シ砲丸ハ否ラズ)ノ使用ヲ禁ズ而シテ縱令ヒ戰爭ナルモノガ殘忍ヲ以テ永續スト雖モ(實際ニ戰爭ハ常ニ斯クアルベキナリ)其國民ハ隣人ニ對シテ投石ノ權利ヲ有セザルハ實ニ幸福ニシテ往時屢行ハレタル悲惨ノ暴行ハ今ヤ既ニ稀レナルニ至レリ實ニ敵國ハ互ニ其ノ惡ムベキ殘忍ノ暴行ヲ非難ス然レモ是レ其誇大過言ニ非ズンバ則チ相爭ノ事實

ヲ陳フルノミ唯屢起ルモノハ其相爭ノ事實ナリトス夫レ虛言ハ固ニ悲ムベキモノナリト雖モ然レトモ此場合ニ於テハ其虛言ハ更ニ罪スベキモノナリ是レ其爭鬪ヲ激昂シ之ヲ永續セシムルモノニシテ爲ニ無罪ノ人ヲシテ血ヲ流サシムルニ至ルモノナレバナリ且夫禍殃ハ已ニ其物ノミニシテ足レリトス然ルヲ亦之ニ或物ヲ附加スルハ實ニ無慘ノ事ト謂フベキナリ

○交戰者ノ權利義務

侵襲ハ兵ノ免レサル所ニシテ戰端此ニ開クレハ則チ侵襲此ニ起ル者ナリ甲國カ乙國ノ疆場ヲ侵襲スルニ非サレハ則チ乙國ヨリ甲國ノ疆場ヲ侵襲スルモノナリ兵燹ヲ敵國ヘ輸入スルノ利ナルコトハ各國俱ニ疑ハサル所ナリ然レトモ其時ニ臨ムテ人ノ己レニ施サムト欲スルカ如ク之ヲ人ニ施セトノ教訓ヲ忽ニスベカラス侵襲者ハ一人ノ財



産兒女ヲ敬重スルコトハ實ニ一般ノ規則トナリ而シテ其被侵國ノ公民ヲシテカメテ職業ノ安寧ヲ繼續セシムルコトモ亦一般ノ規則トナレリ且又侵撃ノ場合ニ於テ其公民ハ之ヲ如何スヘキヤノ問題起ルヘシ若シ此問題ニシテ特ニ一般ノ國民ニ關スルモノナレハ則チ其答甚タ難シ全躰ノ國民ハ一人ノ如ク爲リテ興起スベキ乎余ハ全國民ノ恐怖心ガ起ル時ハ均シク侵撃ヲ防禦スベキ者ナリト答フヘシ然レトモ此事ニ就テハ宜シク理論ニ注意セサルヘカラズ若シ其交戦ノ目的カ侵撃ニ在ルカ若クハ國民カ其政府ニ同情ヲ有スルカ若クハ其侵撃者ヲ驅逐セムト欲スル者ナラシメハ則チ干戈ヲ取ルヘシ然レトモ其國民ナル者ハ億兆一心ナラスシテ各其心ヲ異ニセリ然リ而シテ其異心タルヤ今日自己ノ零落ヲ誘導スル者ナリ若シ其國民ニシテ實戦ヲ分擔スル時ハ最早平和ノ公民ニ屬スルノ自由ヲ享有スル者ニ非ス敵國

ニ於テハ公民ノ干戈ヲ取ル者ハ正當ノ兵士ヨリモ更ニ嚴刻ニ處分スルコトヲ是認スル者ナリ専門家ハ則チ主張シテ謂ラク敵國ニ於テハ自禦ノ道ニ於テ正統ノ兵團ヲ組織セス一定ノ制服ヲ被ラサル戰士ヲ虐待スルハ已ムヲ得サル所ナリ何トナレハ先ツ一定ノ制服ヲ被ラサル者ハ遠方ヨリシテ之ヲ識別スルコト能ハズ從ツテ之ニ對シ防禦スルコト能ハズ次ニ侵撃軍モ其人民及財産ニ加害セザルノ現狀ヲ認ムル時ハ之ヲ放免スル者ナレハナリト然レトモ余ハ是ノ如キ法外說ヲ是認スルコト能ハス凡ソ戎器ヲ執ル者ハ同一ニ待遇セララルベシ戰時ニ於テハ道理上ヨリモ情勢ニ注意スヘキ者ニシテ譴責セララル、所ノ行爲ヲ犯シ又敵軍ヨリ犯カサレタル時ハ特ニ督責スルコトヲ是認スレハナリ

近世ノ國際公法ニ從フトキハ交戦者ト見做スヘキ者ハ直接ニ軍隊ノ



行動ニ關係スルモノ、ミニシテ普通ノ人民ニ至テハ戰爭ニ從事スル權利又ハ義務ヲモ有スルコトナシ故ニ今日ニ於テハ、戰爭ヲナスニ臨ミ特ニ戰爭行爲ヲ專務トスル者ニ限り戰時國際法ノ下ニ立タシム交戰國ノ軍隊ニ屬スル者ハ其常備兵タルト臨時募集兵タルト豫備後備國民軍屯田兵タルトヲ問ハス一タヒ軍隊ニ編入セラレタル以上ハ交戰者ト看做サルヘキ權利義務アルコト當然ナリ近世ニ於テハ交戰ヲ以テ單ニ國家ト國家トノ争ナリト爲スカ故ニ交戰國ノ臣民ヲ取リテ悉ク之ヲ戰鬪者ト視ルコトナシ戰鬪者ト非戰鬪者トヲ區別スルノ利益ハ獨リ其人ノ運命ニ關スルノミナラス併セテ國家ノ抵抗力戰爭ノ性質ニ至大ノ關係アルモノトス所謂其人ノ運命トハ之ヲ遇スルニ軍人タルノ資格ヲ以テスヘキヤ將タ普通ノ人民トシテ之ヲ待ツヘキヤノ點ニ在リ軍人タル者ハ敵軍ニ殺戮セラレ又俘虜トナル權利アリ義

務アルモ普通人民ハ此種ノ權利義務ナク又軍人タル者ハ敵ニ對シ害ヲ加フルモ軍人タルノ名譽ヲ以テ遇セラレ普通人民ハ敵ニ害ヲ加フルトキハ直ニ常事犯トシテ刑セラレ、カ如キ大差アルナリ義勇兵ヲシテ敵人タル權利義務ヲ享有シ負擔セシムヘキヤ否ヤ都民ハ自己ノ都府ニ侵入スル軍隊ヲ攻撃スルニ當リ此都民ヲ交戰者ト視ルヘキヤ否ヤハ疑義ノ在ル所ニシテ義勇兵ニ付テハ普佛戰爭ニ際シ獨逸ハ始メ佛國ノ義勇兵ヲ交戰者ト視做サスト決シ千八百七十年八月ニ於テ更ニ布告ヲ發シテ佛國義勇兵ニシテ佛國政府ノ下附シタル符號ヲ有シ佛國士官ノ命令ノ下ニ立チ規律アル軍隊ニ屬シテ其一部ヲ組成シ且ツ制服ヲ着スル者ニ非ラサルヨリハ之ヲ交戰者ト視做サスシテ強盜ト視做ス可シ若シ之ヲ捕獲シタル時ハ殺戮スヘシト定メタリ佛國ハ之ニ反對シ法律ヲ發シテ義勇兵モ亦交戰者ナリトシ青地ノ服ヲ着



シ其袖ニ赤筋ヲ附シ之カ徽號トナスカ故ニ交戦者タルノ資格ニ缺ク  
 ル所ナシト云ヘリ然レハ獨逸ハ猶ホ之ヲ承認セス佛國ノ農夫ハ青衣  
 ナ着スル者多ク又赤筋ヲ附スルモ遠方ヨリ辨別スベカラスト云ヘリ  
 「アルユッセル」宣言第九條ニ交戦者ト視做スヘキモノヲ規定シテ云ク  
 第一 規律アル陸軍隊及海軍隊又ハ軍事ニ限リ勤務スル兵士  
 第二 左ニ掲クル條件ヲ充タセル民軍義勇兵國民蜂起隊  
 一 團結ノ上ニ責任ヲ負フヘキ者アル時  
 二 遠方ヨリ辨別シ得ヘク且確定ナル標號ヲ有スル者  
 三 公然ニ武器ヲ有スル者  
 四 戰時慣習法ニ服従スル者  
 其第十條ニハ敵軍ヨリ占領セラレザル土地ノ總人民敵軍ノ進襲甚タ  
 急激ニシテ軍事上ノ形式ニ從テ服裝ヲ理スヘキ閑暇アラサルトキ兵

器ヲ取テ敵軍ヲ抗撃スルモ戰時法及ヒ戰時慣習ニ服従スル時ハ交戦  
 者タルノ權利ヲ有シ義務ヲ負擔スト交戦者ト視ルヘキモノ己上ノ如  
 クナルガ故ニ其裏面ヨリ見レハ交戦者ト視做スヘカラサルモノヲ知  
 ル甚タ容易ナリ但軍吏醫師通信員電信郵便官吏敵國商船水夫敵國ノ  
 皇族其他外交官ノ如キ者ハ或程度マテ敵ト視做サル故ヲ以テ其軍隊  
 ノ戰爭行爲ニ助力スルトキハ或ハ俘虜トナリ或ハ殺戮セラレ、等ノ  
 危險ヲ擔ハサルヘカラサルナリ海牙陸戰條約ヲ參觀スベシ

○兵力

獨逸宰相カブリヅ非伯ハ嘗テ國會ニ於テ言ヘルアリ曰ク數ノ嗜癖ハ  
 歐洲人ヲ奪ヘリト蓋シ強制的ナル兵役ノ採用以來諸強國ハ凡ソ兵器  
 ナ持スルニ堪フベキ人民ヲ互ニ旗下ニ召集スルコトヲ努メタレバナ  
 リ然レドモ粗大ナル軍隊ヲ有スルノミヲ以テ充分ナリトセス之ヲ編



制スル士卒ハ武装シ且ツ善ク訓練スルヲ要ス而シテ之ガ司令官タル者ハ交戦ノ經驗アルヲ要ス然ラザレバ良兵アリト雖モ一塊ノ死物タルニ過ギザルベシ千八百九十六年中諸大國ガ準備セル兵力ヲ舉レバ獨逸ハ二百五十五万人、奧地利、匈牙利ハ百三十万、四千人、伊太利ハ百二十八万、千人、佛蘭西ハ二百五十五万、四千人、露亞西ハ二百八十万、人已上ノ數ヲ合スレバ千八百九十六年中佛露ノ二同盟國ハ五百三十五万、四千人ヲ準備シ、獨逸、伊ノ三同盟國ハ五百十三万、五千人ヲ準備セリ故ニ此兩同盟軍ハ兵數ニ於テ殆ト相均シカルベシ

歐洲諸國民ハ前掲ノ現員ニ達スルガ爲メ莫大ノ費額ヲ負擔シ、兵制ハ既ニ數十億ヲ消費シ且ツ軍備改良ノ爲メ毎年各數百万金ヲ増加シ、宣戰ノ發布セラル、ヤ攻勢ヲ構フル目的ヲ以テ多數ニシテ且ツ敵陣ノ接近ニ準備スベキ大軍ヲ集中スルタメ司令官ガ百方盡力スルニモ拘

ハラズ何ノ陸軍モ直ニ全軍ヲ出スノ用意調ハザルベキハ勿論ナリ當局者ガ力メテ克短時間ニ於テ諸軍ヲ動カシ且ツ集中スルノ状態ニ置カンタメ莫大ノ金額ヲ消費スルハ此理由ノ存スルカ爲メナリ

各國ハ經濟其他ノ事情ノ爲メニ其兵ノ動員及集中ニ關シ各其方法ヲ異ニセリ、露國ハ其領土ノ廣大ナルト交通ノ不便ナルトニ依リ其軍ヲ疆場ニ集メズシテウヰスチユ一河上ニ集メザルヲ得ザルベシ而シテ其動員及集中ノ方法ハ固ヨリ容易ニ行ハルベキモノニアラス、現在軍隊及兵器ノ夥多ナルニヨリ兵士ハ殆ト意外ノ忍耐ヲ要スベキナリ、士卒ハ二十五乃至三十五キログラムノ重荷ヲ負ヒ且ツ強行軍ヲ實施セザルベカラズ然レトモ豫備兵ハ訓練セラレズ且ツ當初ヨリ遠足ヲ要スルコトアルガ故ニ必ズ多數ノ病者ヲ出スベシ、佛國ノ醫員ハ十五日ノ末日ニ於テ負傷者ヲ除キ各病院中ニ十万ノ病者アルベキコトヲ概



破壊器具ノ改新ニ由リテ往時ヨリモ兵士ノ道德資格ヲ審知セザル可  
ラザルニ至レリ故ニ此困難ヲ濟度スル爲ニ英才ノ將帥ヲ要スベシ戰  
略家ハ將來戰場ニ於テ運動スベキ軍隊ハ現員ヲ一百万ト概算セリ斯  
ノ如キ軍勢ハ延長數百キロメートルノ戰線上ニアラザレバ開展スヘ  
カラズ而シテ既定ノ籌算ニ照シテ此大軍ヲ指揮スルハ實地ニ臨ンテ  
能ク之ヲ施スヘキトコロニ非ラズ且一步毎ニ障礙ノ目前ニ横ハルヲ  
認メサルヲ得ルナカラシカ  
士官ハ其士卒ヲ監督シ且進行ヲ繼續シ得ルカ爲ニ多ク危難ヲ冒カサ  
ルヘカラス且ツ敵兵カ哨令ニ從ヒテ特ニ將校ヲ狙フ所ノ小口徑射手  
ノ爲メニ狙撃セラル、コト多シ嚮ニ千八百七十年ニ在リテ士官ニ受  
ケル損失ハ佛獨兩軍中ニ甚ダ多カリキ又今代ノ兵器ヲ使用シタル最

近ノ智利戰爭ニ於テ士官ノ損失ハ死者百分ノ廿三傷者百分ノ七十五  
ニ抵レリ之ニ反シテ兵卒ノ死者ハ百分ノ十三傷者百分ノ六十ナリキ  
此ニ由リテ之ヲ觀レハ接戰後忽チニシテ將校ノ大半ヲ奪ハルベキハ  
將來頗ル不安ノ事ナルヘシ

兵卒ハ果シテ戰爭ノ需求ニ應ズベキ乎千八百七十年ノ實驗ニ於テ兵  
ヲ率ヲタル士官ノ存在セザルトキハ兵士ノ前進セザリシコトヲ證セ  
リ當時ニ在リテ斯ノ如クナリトセバ豫備兵カ現役兵ノ數ヨリモ最モ  
多キ將來ノ戰爭ニ於テ其狀況果シテ如何ンヤ

動員ノ場合ニ於テ現役兵ニ對スル豫備兵ノ比例左ノ如シ

伊國ハ現役兵百人ニ付豫備兵二百六十人  
奧國ハ現役兵百人ニ付豫  
備兵三百五十人  
獨國ハ現役兵百人ニ付豫備兵五百六十人  
佛國ハ現  
役兵百人ニ付豫備兵五百七十三人  
露國ハ現役兵百人ニ付豫備兵三



右表ニ據レバ小單位ハ忽チ其士官ヲ失ナヒ下士ニ依ツテ指揮セザルヲ得ス且諸強國ニ在テハ力メテ多數ノ下士ヲ旗下ニ留メンコトヲ欲シ之ニ金錢其他ノ利益ヲ與ヘリ即チ獨國ハ中隊毎ニ約十二人乃至十三人ノ復役下士ヲ有シ佛國ハ中隊毎ニ約六人ノ復役下士ヲ有シ伊國ハ中隊毎ニ約四人ノ復役下士ヲ有シ露國ハ中隊毎ニ約二人ノ復役下士ヲ有シ埃匈國ハ中隊毎ニ約一人乃至二人ノ復役下士ヲ有ス以上ノ員數ヲ見レバ獨逸ノ外ハ戰鬥力ヲ失ヘル士官ニ代ハルベキ下士ノ不充分ナルヲ知ルヘキナリ

數年來工業ハ歐洲諸國ニ於テ農業ヲ害シテ非常ノ發達ヲ遂ケタレハ職工ハ田舎ヲ棄テ、都府ニ赴キ工業ノ爲メニ壟斷セラレタリ是ニ由リテ現今軍隊ハ全ク往時ト異ナリタル要素ヨリ編制セラレ且ツ田

舎漢ヨリモ市民ノ多キヲ算スルニ至ルヘシ抑モ市民ノ有形的及無形的資格ハ田舎人民ノ資格トハ大ニ異ナレリ市民中ニハ智識ノ點ニ於テ材能アル者最モ多キヲ見ル是レ當今ノ軍隊ニ取リテ一利益タルコト言テ俟スト雖モ一面彼等ハ議論癖ニ長ケタル者多クシテ從順ナル者尠ナク且ツ所謂護國ニ關スルノ外幾分カ戰爭ヲ嫌忌ス又他ノ一面ニ於テ市ノ住民ハ戰鬥ノ勞働ニ堪フルコト田舎人ニ及バズ是レ他ナシ彼等ハ田舎人ヨリモ最モ便宜ノ生活ニ慣レ且ツ最モ堅忍ナラザレバナリ現員ノ増加ハ其結果トシテ現役期限ヲ短縮セリ隨ツテ諸軍ハ往時ニ比シテ最モ多數ノ豫備兵ヲ包容ス世人ノ所謂軍人的精神ハ之カ爲メニ影響ヲ蒙ルベキコト勿論ナリ軍人社會ニ於テハ軍隊ノ精神ハ至要中ノ最至要ナルモノナリト謂フニ一決セリ然リト雖トモ既ニ三十年來大戰爭ナキガ故ニ吾人ハ今ヤ此ノ精神ノアル所ヲ知ラザルナ



リ蓋シ普法戰爭以來實質上ト虚靈上トヲ問ハズ各國民ノ社會ニ大變化ヲ生ヅタリ一國民ノ道德的狀態ハ全ク其ノ軍隊ニ反映セリ故ニ軍隊ノ精神ハ國民ノ精神ニ外ナラスト謂ツヘキナリ此ニ由ツテ之ヲ觀レハ其軍隊敗績ノ場合ハ勿論大捷ノ場合ニ於テモ亦其戰役ノ彌久スルトキ大軍ノ道德的狀態ハ如何アルベキカヲ知ラザルベカラズ新彈丸ノ多殺的効力ニ關シテ戰場ヨリ到ル所ノ新報ハ爾餘人民ノ上ニ如何ナル影響ヲ生ズベキ乎戰爭ノ終結後戰役ノ爲メ殘虐ニ罹タル數百萬ノ兵卒ガ其郷里ニ歸リテ其ノ住家ノ破壊セラレ若クハ劫掠セラレタルヲ目撃スレハ則チ其感慨果シテ如何ゾヤ

### ○戰術

今夫レ「六千メートル」ニ於テ發砲ヲ號令スレハ榴彈ハ地ヲ穿チテ爆裂シ群砲ハ其射撃ヲ正シテ其距離ヲ發見ス是ニ於テ砲戰ハ益闢ニシテ

次テ發射スル所ノ彈丸ハ敵ノ頭上ニ破裂シ而シテ兵ヲ以テ蔽ハレタル滿地ニ二百五十彈ヲ撒布スベシ瞬間ニシテ人馬ハ其彈丸雨注ノ下ニ殲滅セラレ優勝ハ最モ堪能ニ且ツ敏速ナル照準手ニ存スベシ大砲ハ互ニ相殺戮シ砲隊ハ互ニ相潰滅シ彈藥車ハ互ニ相空耗シ勝利ハ射撃ノ已マザル方位ニ存スベク而シテ戰隊ハ互ニ相進近セン既ニシテ二千メートルニ接近スルニ及ムテヤ既ニ小口經ノ彈丸即チ纖細ナル者華美ナル者鍍銀セル者尖銃ナル者ハ或ハ飛鳴シ或ハ跳躍シテ碎ケ一齊射撃ハ相繼キ彈丸ハ飛霰ノ如ク砲聲ハ迅雷ノ如ク一時ニ戰場ヲ震盪シ而シテ當面ノ大砲ハ此時自由ヲ得テ戰隊ヲ攻撃シ群聚ノ頭上ニ彈丸ノ雨ヲ降シ死屍地ヲ蔽ヒ流血河ヲ爲ス隊列ハ隊列ヲ撃チ戰隊ハ戰隊ヲ撃チ豫備隊ハ到着スト雖ドモ銃丸及榴彈ガ殺戮ヲ縱ニスル兩軍ノ間尙ホ幅員千歩ノ長形地ヲ隔テ如何ナル生物モ之ヲ越ユル



ヲ得ズ軍用品ハ用ヒ盡クサレ幾千万ノ藥筒及榴彈ハ其空筒斷片ヲ以テ滿地ヲ蔽フ而シテ射撃ハ絶エズ繼續シ空乏セル彈藥車ハ他ノ彈藥車ヲ以テ換ヘラルベシ猛烈爆藥ヲ用ヒタル榴彈ハ農家村落ヲ粉摧シ凡ソ遮蔽物遁避所若クハ障碍物ハ盡ク破壊殄滅シ戰員ノ半ハ既ニ喘涸シテ死シ傷者及死者ハ千歩ヲ隔テ、併行スル厚キ兩壘ヲ形成シ彈丸ハ之ヲ穿チ霰彈ハ之ヲ碎キ而シテ一有生物ハ一モ之ヲ踰ユルヲ得ズ交戦ハ繼續シテ益々奮激ス兩軍ハ相距ルコト常ニ千歩ナリ是ノ時ニ當テ勝利ハ果シテ孰レニ歸スベキ乎

シヤンド、プロツク曰ク戰術ノ點ニ於テメツツノ戰ニハ戰勝アラザリシ佛兵ハ此城砦ニ退キテ此ニ圍マレ而シテ糧食ノ缺乏セルガ故ニ終ニ降服スルニ至レリ故ニ佛兵ノ敗績ハ獨兵ノ數ニ於テ優勢ナリシニ歸セザルヲ得ズ然ラバ將來ノ戰爭ニ於テハ何レノ軍モ斯ノ如キ優勢

ヲ有セザルハ殆ド疑ナシ。且ツ敗北セル敵ノ追撃ハ今日兵家ノ大抵不適應ト爲ス所以ノモノハ蓋シ是レ甚タ危險ナレバナリ。昔時ニ在リテ守兵ハ攻兵ガ陣地ヲ乘取ルヤ否ヤ直ニ遁走セリ、攻兵ハ其疲勞ヲ忘レテ只管敵ヲ逐ヒ以テ其勝利ヲ大ニシ且ツ敗走セル敵ヲシテ最モ著シキ損害ヲ蒙ラシメント欲スレハナリ今ヤ亦然ラズ歩兵ハ最モ多殺的射撃ヲ受クルコト半日ニシテ殲滅セラレ而シテ豫備兵ハ戰術的鱗列地ノ最廣漠ナルヲ以ツテ長距離ヲ經過セザルベカラザルガ故ニ戰鬪ヲ始ムルハ速ニ疲勞スルノ虞ヲ免レズ騎兵ニ在テハ交戦中銃卒及砲兵ノ爲ニ擊狙セラル地域外ニ留置セラル、ガ故ニ若シ動搖セル敵ヲ掩撃セント欲スルトキハ則チ敵ノ射撃盛ナルガ爲メニ二千メートルノ間駈歩セザルヲ得ズ昔時ハ然ラズ。現ニ世人ノ知ル如ク、那破烈翁ノ騎兵ハ攻撃ノ爲メ常ニ速歩ニテ進ミ、敵ノ直隣マデ此步度ヲ保テリ。



ロツスバツクニ於テ、セイドリツツハ敵ヲ距ル、百歩ノ地マデ其騎兵ヲ速歩ニテ前進セシメ、而シテ後チ始メテ駈歩ニテ突進セシメタリキ。今代ノ射撃ハ騎兵ヲシテ最急歩度ニテ死地界ヲ越ユルタメ其全力ヲ盡サシム。然レドモ若シ動搖セル敵ヲ全ク敗走セシムルコト能ハザルトキハ、勢ヒ交戦ヲ終結スルコト能ハザルヘシ。斯ノ如クナルトキハ交戦ノ繼續スベキハ果シテ幾何時ゾヤ。軍人ノ答フル所各異ナレリ。佛國陸軍學校教授ランクロイス大佐及ヒ普國ノ將官フオンツヤンソンハ將來ノ交戦ハ數日間繼續スルコトアルベシト公言シタリ。白晝ニ於ケル直接攻撃ハ之ヲ實行スルコト困難トナリ然ラザレバ不可能トナルヲ以テ、二三ノ兵論家ハ暗夜ニ乘ツテ敵ヲ襲撃スルノ利ヲ説ケリ。然ドモ其意見區々ニシテ、甲者ハ夜間ノ戦闘ヲ大利益アリト爲シ乙者殊ニ將官ブーシイレウスキーノ如キハ之ヲ以テ頗ル實際ニ適

セズト公言セリ。夜間戦闘ノ賛成論者タル將官ドラゴミロウハ以爲ラク、土國兵ガ數ニ於テ優勢ナリシカルスノ侵撃及カラガツツノ戦ノ如キ作战法ハ夜間ニ非ザレバ之ヲ能クスヘカラズ故ニ過當ノ損失ヲ避ケンガ爲ニハ軍隊ヲシテ夜攻ニ慣レシムルヲ要スト。將官ターロバツキンハ夜間作战ノ賛成論者ナリ。然リト雖モ各軍ニ於テハ皆必要ノ場合ニ際シテ夜中作战ヲ實行シ得ンガタメ器具ノ備ハラフコトヲ欲ス。是レ白砲ヲ以テ發射シ且ツ三分時間微光ヲ供シ得ル白燒爆彈ノ發明アル所以ナリ。此他電光發射機ナルモノアリテ、五千メートルノ距離ニ在リテ家屋ヲ照シ且ツ八百メートルマデ敵ノ小部隊ノ微運動ヲ觀察スルヲ得シム。

今代ノ兵器ハ今日マデ未ダ曾テ歐洲二強國間ノ戦争ニ於ケルト同一ノ状態ニ於テ實驗ヲ經ザルナリ。彼殖民隊ガ土族ニ對シテ開ケル戦争



ニ付キテハ些ノ參考ヲ得ルコト能ハス而シテ希臘及土耳其間ノ歐洲最近戰爭モ土軍ノ壓倒的優勢ニヨリ將來ノ戰爭ノ真相如何ヲ豫察スルヲ得ズ且ツ現今ノ諸軍ニ於テハ戰爭ノ實驗ヲ有スル主將ノ數比較的ニ少ナシ戰時ニ於ケル今代ノ諸軍ハ其大部分ハ全ク兵事ニ習熟セザル兵員及平時ノ業務ノ爲メ辛フシテ出師準備ヲ爲シ得ル豫備員ヨリ編制ス

此ニ歐洲ノ戰爭ニ際シ動員セラルベキ大軍ヲ如何ニ動カシ且ツ給養スベキカノ問題アリ斯實驗ハ大演習ノ際ト雖トモ其ノ現員ノ少數ナルガ故ニ之ヲ徵スルコト甚ハタ難シ

世人皆謂ラク大演習ハ極メテ模糊タル一形象ニ過ギズ加之ナラズ平時ノ演習ニ在リテハ戰時ニ於ケルガ如ク往々彈丸ヨリモ多殺的ナル疾病缺乏及疲勞等ヲ算入セズ且當局者ハ往々最モ重要ナル無形的要

素ヲ忘レタリ然レドモ目ニ觸レザル敵ニ由リテ遠方ヨリ發射セララル、恐ルベキ彈丸ハ士卒ノ上ニ如何ナル効力ヲ生ズベキ乎殊ニ此士卒ガ昔時ノ兵士ニ比シテ甚ダ劣レル軍人教育ヲ有スルコトヲ思フトキハ演習効力ハ果シテ如何戰場ノ恐ルベキ光景ヲ士卒ノ目ニ遮ルタメ砲烟ハ存セザルベシ兵士ハ敵ヲ見ザルベク且ツ銃發ノ轟鳴ヲ聞カザルベシ然カモ面ノアタリ其側ニ斃ル、ヲ見ンカ斯ル慘狀ヲ目撃シテ神色ヲ變ゼザルガ爲メニハ善ク鍛鍊シタル兵卒ヲ要スベシ是レ心理學上ノ關係ナルベシ將來ノ戰術的鱗列地ハ非常ニ廣大ニシテ無數ノ設堡ヲ以テ蔽ハルベシ是レ大演習ノ際設クルコト能ハサルモノナリ。

戰亂區域ノ廣大ナル戰場ノ廣大ナル攻兵ノ進行ヲ妨クベキ人工障礙物凹凸地ノ秩序的使用天然ノ障礙物其他銃槍攻撃ヲ實行シ難キコト



數日間繼續スベキ交戦、電光發射機ヲ使用スベキ夜間戰鬪、追撃シ難クシテ勝敗ノ決セザル所ノ戰鬪ノ如ハ未ダ曾テ實驗ヲ經ザル新素因ニシテ此等ハ練兵場ニ於テ之ヲ實驗スルヲ得ラルベシ、即チ軍人ノ謂ハユル大演習ハ虛偽的想像ヲ爲スニ非ザレバ不可ナリトハ是ノ謂乎

### ○銃 戰

普佛戰爭以來兵器上ノ改良進歩ハ加納砲火藥ノ發明ヨリ千八百七十年ニ至ル時代ニ比スレバ遙カニ大ナリ往時ニ在テハ彈丸ヲ六百メートルノ標的ニ達セシムルニハ、射手ト狙打シタル標的トノ間ニ在ル活動物ノ頭上ヲ超過スルニハ彎曲ノ彈道ヲ畫キタリト雖トモ新火藥ノ爆發力ハ最モ強クシテ步兵銃ノ彈丸ハ同一ノ距離マテ人立ノ高位ニアル諸物躰ヲ掃盪スヘキ射程ト彈道ヲ有スルコト是ナリ技術家ハ尙ホ進テ最大ノ進歩ヲ成效セント欲シ口徑五ミリメートル銃ハ最遠射

程一千メートルノ射撃ヲ爲スニ至レリ今ノ軍銃ハ最モ遠長セル區域ヲ掃盪スルヲ以テ唯一ノ利トナスノミナラス又最モ強大ナル穿透力ヲ有セリシヤスポー式銃及針銃ハ八百メートルノ距離ニ在リテ人ノ腦蓋ヲ穿貫スルヲ得スト雖小口徑銃ハ其彈丸二千メートルノ距離ニ在リテ尙ホ能ク之ヲ穿貫ス千八百八十八年式ノ獨逸步兵銃ノ彈丸ハ百メートルノ距離ニ於テ乾燥シタル樅材一メートル若クハ新ニ搖攪シタル沙型九十センチメートルヲ穿貫シ三百メートルニ於テハ厚サ七ミリメートルニ鍛鍊シタル鋼鐵板ヲ穿貫シ千八百メートルニ於テモ尙ホ能ク直徑五センチメートルノ松柱ヲ穿貫ス。此彈丸ハ百メートルノ距離ニ於テ前後ニ縱列シタル五人ヲ串穿シ其彈道ニ於テ最大骨ニ逢フモ些障碍ナキコトハ人々ノ許ス所ナリ更ニ八ミリメートル以下ノ口徑銃ハ尙ホ最大ナル穿透力ヲ有シ射手モ亦タ最モ多數ノ彈丸



ヲ發射スルヲ得ベシ歐洲ノ各軍ニ於テ兵士ハ今日孰レモ連發銃ヲ供給セラレタリ連發銃ハ單發銃ヨリモ輕便ニシテ銃身ノ口徑愈小ナレバ其彈藥筒モ亦從テ多ク其身ニ帶アルコトヲ得ベシ。  
無烟ニシテ且ツ最大ナル爆發力ヲ有シタル火藥ノ使用ニヨリ將來ノ戰爭ニ於テ諸軍ノ受クベキ損失ハ更ニ一層大ニシテ其勢ヒ戰術ヲシテ一變セシムルニ至ルベシ。

昔時砲烟ニヨリテ發見セラレタル敵ノ位地ハ今ヤ爆發ノ方位ニ依ツテ纔カニ示サル、ノミ其結果トシテ軍隊ノ一團ハ何レヨリ射撃セラ、カヲ知ルコトナク彈丸雨注ノ中ニ立タザルヲ得ズ。且ツ昔時ノ戰場ニ於テ砲烟ハ兵士ヲシテ戰鬪ノ恐怖ヲ免カレシメシト雖モ今ヤ各兵ハ人體ノ毀傷セラル、景狀ヲ目撃スヘシ若シ新銃ノ利益ヲ考察スレバ則チ數ノ平均ニ於テ其舊式銃ニ卓越スルヲ確知スルヲ得ベシ教

授ヘアレルハ此調査ヲ爲シテ左ノ如キ結果ヲ得タリ。

千八百七十一年式モーゼル銃口徑十一ミリメートルノ効驗ハ一百點ニ等シキモノト假定スレバ現今佛蘭西銃ノ効驗ハ四百三十二點獨逸銃ハ四百七十四點西班牙銃ハ五百八十點伊太利銃ハ五百八十點口徑六ミリメートルノ北米銃ハ一千點ニシテ其五ミリメートル銃ハ千三百三十七點ニ等シキ者ナリ若シ普佛戰爭ノ際交戰國ノ諸軍ガ現今使用シタル軍銃ヲ供給セラレシ時ハ其受クベキ損失ハ理論上ヨリ打算シテ正ニ四倍大ナリシナラン然ルニ若シ最近式ノ銃ヲ採用スル時ニ其損失十三倍ニ上ルベシ當局者ハ今日ノ使用銃ノ今代戰術ニ適セザルコトヲ主張シテ曰ク將來ハ裝藥ノ爲メ兵士ヲシテ狙ヒテ止ムルコトナク又其時トカトヲ失フコトナクシテ續射セシムベキ自動機裝藥銃ヲ用フルニ至ルベシ而シテ一秒時間ニ六七回發射スルヲ得ベク、



而シテ裝藥ニ必要ナル時間ヲ合セテ一分時間ニ七十八回ノ射撃ヲ爲スニ至ルベシト。而シテ其自動機裝藥銃ハ既ニ存在セリ且軍銃ハ今後礮素ヲ用ヒテ製造セラルベク、而シテ其口径ハ四乃至三ミリメートルニモ下ルベシ。五ミリメートルノ口径ヲ以テスレバ兵士ハ二百七十發ノ彈藥筒ヲ携帯シ四ミリメートルノ口径ヲ以テスレバ三百八十發、三ミリメートルノ口径ヲ以テスレバ五百七十五發ヲ携帯シ得ベシ教授ヘブレルハ此新式銃ノ効驗ガ千八百七十年式ノ銃ニ越ユルコト四倍ナルベシト算定セリ。果シテ斯ノ如クナレバ則チ戰爭ノ犠牲者ハ非常ノ多數ニ上ルベク佛露獨埃伊諸國ノ軍備ハ三十九億五千二百万法ノ巨額ヲ要スベシ。

二三ノ軍人ハ以爲ラク速射銃ハ大ニ正確ヲ減ズベク隨テ改良兵器ノ効驗ハ無効ニ歸スベシト是レ誤解タルヲ免レズ千八百九十四年智利

國內亂ノ際國會ノ軍隊ハ半バ新銃ヲ持シ就中最新式銃ヲ持シタル百人ハ兵士ハ敵兵八十二人ヲ傷殺シタリキ之ニ反シテ舊式銃ヲ持シタル百人ノ兵士ハ僅ニ三十四人ヲ傷殺シタルノミ蓋シ射撃ノ數ガ増スハ犠牲者ノ數モ亦隨テ増スコト明ナリトス今世紀ノ戰爭ニ於テ一人ノ敵ヲシテ戰鬪力ヲ失ハシムル爲百六十四發ヲ要シタリキ然ルニ今日一兵士ニシテ百二十發乃至二百發ノ藥筒ヲ携帯スルヲ得ベシ三ミリメートルノ銃ヲ用ユレバ每一人五百七十五發ノ藥筒ヲ携帯スベシ是レ敵三人ヲ倒スニ餘リアリト謂フベシ故ニ若シ此銃ノ効驗ガ舊式銃ト等シキコトヲ許セハ則チ各兵士ガ携帯スル藥筒數ヲ以テ戰鬪者ノ三倍大ナル數ヲ倒スニ足ルベシ普國ノ將官ローターノ說ニ據レバ射手百人ニテ左ノ割合ヲ以テ間斷ナク射撃セハ一砲臺ヲ沈黙セシムルヲ得ベシ即チ八百メートルノ距離ニ於テ二分四秒時間千メートル



ノ距離ニ於テ四分時間千二百メートルノ距離ニ於テ七分五秒時間千五百メートルノ距離ニ於テ二十二分時間是ニ由リテ生ズル結論ハ辯駁ヲ容サズ即チ現今使用スル兵器ハ戦闘者が互ニ殲滅スルニ至ルベキ大火力ヲ與フル者ト謂フベシ。

### ○砲 戰

佛國陸軍學校教授大佐ラングロウハ以謂ラク今代ノ加納砲ハ若シ發射セル彈丸ノ數同シキトキ平野ニ於ケル敵ニ昔時ヨリモ五倍ノ害ヲ與フベシ然レドモ此加納砲ハ同時時間ニ於テ二倍半乃至三倍ノ彈丸ヲ發射シ得ルガ故ニ砲兵發火ノ効驗ハ千八百七十年ニ於ケルヨリモ大ナルコト十二倍乃至十五倍ナルベシト而シテヴヰキール將軍及ボエツキイ教授ノ如キ當局記者ハ此速射砲ノ効驗ハ少ナクモ二倍シタリト言フニ過キス當局者ハ一面ニハ無烟火藥及尼結兒鋼ヲ採用シ他

面ニハ鐵筒及金屬線ヲ用ヒテ以大砲ニ多ク抵抗力ヲ與ヘツ、火砲ヲ製造シ恐ルヘキ効驗ヲ與ヘ加之微弱ノ撞力及反射ヲ有スル速製砲ノ創造方ニ力ヲ用ヒタリ是レ毎射後ニ大砲ノ反撞ヲ除キ一分時ニ彈丸ノ最多數ヲ發射スルコトヲ得セシムベキモノナリ更ニ進テ百二十五ミリメートルノ大口徑大砲ヲモ製造シ得ルヲ信セリ其他運搬スベキ甲裝砲架ヲ備フル火砲高山ノ防界線ヲ踰エ且離解スベキ加納砲等はナリ此等ノ新發明ハ砲兵ノ破壞力ヲ大成シ火砲ノ改良ハ彈丸ノ改良ト並行シテ進メリ此彈丸ノ製造ニ鋼鐵ヲ使用スルハ多數ノ彈子ヲ以テ榴霰彈ヲ填充シ且ツ四倍ノ力ヲ附與シタル爆裂彈ヲ資用スルコトヲ得セシメタリ而シテ榴霰彈ガ充タサレタル彈子及彈丸其物ノ碎片ガ飛散スルノ狀ハ宛モ急回轉ノ運動ヨリ振撼スル篩ノ上ニ注入スル水玉ノ散ルガ如ク其彈子及碎片ハ大距離ニ於テ八方ニ擲出セラ



千八百七十年ニ在リテ一箇ノ榴彈ハ破裂シテ十九乃至三十碎片ヲ生  
セシガ現今用ヒル榴彈ハ大約二百四十碎片ヲ生ズ舊榴霰彈ハ三十七  
片ニ破碎シ現今ノ分ハ三百四十片ニ破碎ス此ノ如ク昔時ノ破裂彈ハ  
今日ノ榴霰彈ニ比較スベキニアラズ即チ普通火藥ヲ以テ裝藥セラレ  
三十七グラムノ重量ヲ有スル爆彈ハ四十二碎片ヲ生スルニ過ギザル  
モ綿火藥ニテ裝藥シタル爆彈ハ無慮千二百四十碎片ヲ生ス且又彈子  
及碎片ハ至大ノ距離ニ投射セラル千八百七十年ニ在リテ榴霰彈ノ碎  
片ハ破裂地點ノ直隣ニ於テ一ノ束狀ヲ成セリ然レトモ今日ハ三千メ  
ートルノ距離ニ於テ之ヲ射撃シ其碎片ハ二百メートルノ周邊ニ投射  
セラルベシ

普軍ノ砲兵將官ミユルレル曰ク佛露聯合砲隊ノ彈丸ハ戰員六百六十

万ヲ彈滅スベク而シテ獨塊伊三國ノ軍ヲ合シタル火砲ハ戰員五百三  
十萬ヲ倒スニ過ギザルベシト此ニ由テ之ヲ觀レハ砲兵射撃ノ効力ハ  
實ニ驚クベキ猛烈ナリローチー將軍ガ千八百十一年ニ野砲兵ノ射撃  
調査書ニ示ス所ニ據レバ即チ若シ一萬ノ兵ガ一設堡ヲ強烈ニ攻撃ス  
ルトキ守兵ハ攻撃軍カ二千メートルノ距離ヲ越ユルノ前ニ千四百五  
十發ノ榴霰彈ヲ放ツヲ得ベシ而シテ此榴霰彈ハ二十七萬五千ノ彈子  
及碎片ヲ生シ此内一萬三百三十箇ハ概チ敵ニ接觸スベシ故ニ理論上  
攻撃隊ハ盡ク彈滅セラル、ニ至ラン此計算ハ攻撃カ散列ニ於テ實行  
シタルモノト假定シタルナリ然レドモ方今ノ彈丸ハ密列ヲ編タル第  
一隊列ノ兵ニ隨フ所ノ豫備兵ニモ達シ其殺傷ノ効力ハ更ニ恐ルベキ  
モノナリ

火砲ノ數ハ各國ニ於テ近來著シク増加セリ且野砲兵ハ獨リ訓練兵ヨ



リ組織スルノミナラズ其大部分ハ開戦ノ時旗下ニ召集シタル豫備兵ヨリ組織ス然レ豫備兵ノ志氣ハ新彈丸ノ殺傷力ニ堪フルヲ得ベキ乎自轉車傳書鳩風船無線電信及夜間電光投射機等ノ使用ニヨリ今代兵器ノ効驗ハ更ニ間接ニ増加シタリ總テ是等方法ノ目的ハ安全ニ敵ニ近ヅキ且ツ多ク之ヲ傷害セシムルニ在リ夫レ戦争ノ材料ニ於テ實施シタル進歩ハ各國ノ共有物ニシテ各軍皆同一ノ價值ヲ有ス獨リ一強國ガ他邦ニ抽ンデ、勝利ヲ保全スベキ優力ヲ得ルコト能ハザルハ勿論ナリ故ニ戒器改良ノ結果ハ一強國ノ爲メニ優力ヲ構成セスシテ唯ダ各國民ノ爲メニ戦争ノ殺傷力ヲ増加セシニ過ギザルナリ。破壊器具改良ノ結果ハ從來平坦ナル原野ノ戦闘ニ於テ殆ド無益物ニ屬スベキ保護ノ方法ヲ索ムルニ在リキ方今ノ戦術ハ第一ニ設堡ノ築造ヲ必要トス兵論家ハ將來ノ戦争ハ連續セル設堡陣地ヲ奪フタメ戰

フニ在リト謂フ一陣地ノ防禦ノ任ニ當レル軍隊ハ野堡ヲ築クベシ故ニ工兵ハ勿論歩兵並ニ騎兵ト雖トモ此計畫ニヨリ工兵ノ器具ヲ用意シ一方ニ在テ各兵ハ一ノ遮蔽物ヲ作りテ以テ其射撃ヲ施サンコトヲカムベシ是故ニ將來ノ戦術鱗列地ハ數多ノ遮蔽物ヨリ撒布セラレ鼠ノ堆土ヲ以テ蔽ハレタル廣野ノ觀ヲ爲スベシ斯ノ如キ状態ニ於テ攻兵ハ固ヨリ守兵ニ比シテ劣等ノ地位ニ在リ何トナレバ守兵ハ胸壁及堡壘ノ後ニ隱レテ多殺的射撃ヲ行フニ反シ攻兵ハ或ハ一齊ニ敵ノ射撃ヲ受ケザルコトヲ得サレバナリ、スクガレウスキー將軍ノ計算ニ據レバ八百歩ノ距離ニ於テ我ニ半數ナル敵ノ陣地ヲ攻撃セント欲スル主將ハ三百歩ニ於テ既ニ其現員ノ一半ヲ失フベシ對等ノ數ニ於テ守兵ハ攻兵ヲシテ二百メートルノ距離ニ前進セシムルヲ得ベシ、此時守兵ニ在テハ攻撃隊ヲ全滅スルタメ、唯藥室ノ彈藥筒ニ火スルヲ以テ



足ルベシト、普國ノミユルレル將軍ハ之ヲ論シテ曰ク斯ノ如キ場合ニ於テ全滅ヲ免ガレンガ爲メニハ、隊兵ハ匍行シテ漸ク敵ニ近ツキ且ツ身ヲ遮蔽スル爲メ、地面ノ高低ヲ利用シ龜ノ如ク匍匐スルヲ要スベシト、果シテ然ラハ、吾人ハ尙ホ設堡陣地ヲ攻撃スベキ者ト思考シ得ル乎、是レ戰爭ヲ以テ啻ニ必要ト視做スノミナラズ、又英氣ヲ鼓舞シ尙武心ヲ振起スルニ必要ナル教育ノ一手段ナリトス、將來ノ戰爭ニ於テ戰士ハ固ヨリ怖ルベキ危険ヲ覺悟セザルベカラズ、然レトモ此危険ヲ視ル坦途ノゴトクナル者ハ英氣ニモアラズ又膽勇ニモアラズ、最第一ニ要スベキハ戒心忍耐沈着及慎重トニ在ル者ナリ。

### ○城 戰

千八百七十一年以來佛露獨伊奧ノ諸大國ハ勿論瑞西及ヒ白耳義ニ至ルマデ其國境ヲ固ムル爲メ數十億ノ大金ヲ費セリ當局者ハ平時ヨリ

城堡陣地ノ間ニ強大ナル軍隊ヲ集中シ所謂人間ノ墻壁ヲ築キテ城砦ノ堅牢ヲ全カラシメ一朝開戰ノ令アルヤ新軍ハ直ニ城砦ノ線路上ニ下車スベキ鐵道ヲ完備セシメタリ故ニ第一衝突ノ始ルハ此位地ニシテ其設堡線ヲ破リ得ベキハ幾回ノ交戰後ナルヘシ敵兵復能ク城砦ヲ圍繞スベカラズ何トナレハ今代ノ要塞ハ無數ノ軍隊ニヨリテ占據セラレ其勢力ノ大ナルコト侵入軍ガ側面又ハ後方ニ看過シテ前進スルヲ得ザル所ナリ又他ノ一面ニ於テ城砦ニ豫期セル希望ハ果シテ之ヲ實行シ得ベキヤ何人ト雖モ之ニ明答スル能ハズ其防禦方法ノ改新スルト同時ニ一方ニハ破壊兵器ノ發明アルカ故ニ既往ノ戰例ヲ以ツテ毫モ將來ノ戰爭ヲ推度スルヲ得ザルナリ。

千八百七十年及七十一年ノ戰役ニ於テ城砦ガ一大勢力ヲ與ヘタルハ何人モ疑ハザルナリ何トナレハ當時獨逸兵ハ二十四ノ要塞ヲ奪フヲ



要シタリシヲ以テナリ然レドモ巴里メツツ及ベルフオール城砦ノ外ハ皆舊式ニシテ且ツ防禦ノ指揮宜シキヲ得ザリキ而シテ當時攻圍者ハ新兵器ヲ使用スルコト甚タ尠ナカリシ爾後露土戰爭ノ際ニ至リアレヅナノ防禦ハ平原ト城砦トノ戰ノ間ニ密接ノ關係アルコトヲ證明シ將來ノ戰爭ニ於テ防禦者ハアレヅナニ於ケルオスマン、パシヤノ例ニ循フベシト謂フニ至レリ當時土國砲兵ノ備ヘ尠ナカリシニ拘ハラズ攻圍者ハ舊戰シテアレヅナヲ奪フコトヲ力メタリサレハ露兵ガオスマン、パシヤニ勝ツニ至リタルハ其糧道ヲ絶チテ之ヲ飢餓ニ陥ラシメタルニ因ルノミ而シテ一朝新築シタル諸堡壘ハ技術上ノ規則ニ從ツテ之ヲ長圍シタルヲ以テ僅カニ陥落スルヲ得タリアリアルモン曰ク各堡四キロメートルヲ距テ、築ツキ且ツ其間ニ砲臺ヲ築ツキタル十三堡壘ノ城砦ヲ攻圍セシニハ長圍軍トシテ十二万二千人攻城軍ト

シテ五万人總テ十七万二千ノ兵ヲ要スト一兵論家ハ曰ク一城砦ノ合圍ハ大約百二十日間繼續スベシ更ニ之ヲ細説スレバ攻圍及合圍材料ノ輸送ニ三十日諸堡攻撃ニ四十五日諸堡間ニ設ケタル防禦線ヲ奪フ爲メニ二十日及中央砲臺ヲ奪フ爲メニ二十五日ヲ要スベシト露軍ノ一高班士官ハ現在及將來ノ露國ノ軍狀ト題スル書中ニ曰ク千八百七十年巴里ハ當時特別ナル政事及ヒ其他ノ事情ガ獨兵ノ勤務ヲ容易ナラシメタリシト雖モ城砦ノ攻守ニ付一好例ヲ與ヘタリ

然レドモ若シ一首都ナラズシテ住民五十万ヲ有スル他ノ一市府ヲ繞ラセル一ノ設堡圍郭ガ戰爭ノ初ヨリ巴里ノ如ク攻撃ノ目的物タルトキハ事相ハ全ク一變シ地方ノ諸軍隊ハ未ダ全ク敵ニ接觸セズ且ツ未ダ指定地ニ集中セラレズト雖モ遠カラズシテ到着スベキモノト認定スルヲ得ベシ一面ニ又方三百町餘ノ外面廣容ヲ有スル城砦ガ既ニ強



固ナル戍兵ヲ以テ守ラレタル時ハ攻圍軍ノ任務ハ此ニ於テ愈々益々困難ニ至ルナラン城兵ノ主要トスル所ハ糧食充實シテ人民ノ靜穩ヲ保ツニ在リ、今ヤ此等ノ條件ハ一切整頓セルモ城砦ハ將サニ一大軍ノ爲メニ圍マレントスルニ當リテハ最初攻圍軍ハ我外堡ニ對シテ七十町以上ノ地位マデ接近スルヲ得ザルベク且ツ我地方軍ノ爲メニ背面ヲ撃タレ隨テ腹背兩面ニ對抗セザルヲ得ザルベク斯ノ如キ城砦ノ攻圍ハ多クノ時日ト許多ノ軍隊ヲ要ス蓋シ攻圍者ハ其軍隊ヲ四百町以上ニ配置セザルベカラス然レバ五十万ノ攻圍軍ニアリテ十町毎ニ大約一万人即チ一旅團ヲ供スベシ是レ甚ダ散薄ナル圍繞兵ニシテ多クノ堡壘ヲ築キ且ツ鐵道等ヲ敷設シテ更ニ之ヲ鞏固ニスルノ必要アリ攻圍者ハ次ニ攻撃ノ方面ヲ選ム即チ概シテ二堡壘ヲ選ミ而シテ之ニ對シテ其全力ヲ傾注ス防禦者ハ之ヲ反撃ス然レドモ此時ニ當リテ攻

圍者ハ力ヲ此作戰ニ専ラニスルガ故ニ防禦者ノ爲ニ利アラズ而シテ四十町ヲ距テ、攻撃ヲ始メラレタル此二堡壘ハ十日間ニシテ破壊セラルベシ此ノ時攻圍者ハ二十町前進シテ第二防禦線ヲ攻撃スルノ準備ヲ爲サン、此時ニ於テ歩卒十五万ト要塞砲兵トヲ左右シ得ベキ被圍者ハ突出シテ以テ其敵ノ作戰ヲ妨グルコトヲ得ベシ此ニ於テ眞成ノ野戰ハ開始セラレントス而シテ若シ攻圍者ガ我ニ對抗スルガ爲ニ軍隊ヲシテ攻圍圍ノ一部ヲ解カシメ之ニ由リテ一部ツ、包圍ヲ撤去セザルヲ得ザルニ至レハ則チ我ノ勝利ト視ルヲ得ベシ今ヤ敵ハ諸堡壘ヲ奪ヒ而シテ第二防禦線ニ對シテモ幾分ノ優勢ヲ得タルモノト認定ス此場合ニ於テ守將ハ何故ニ豫メ準備シタル火坑ノ調藥ヲ以テ此諸堡壘ヲ破碎セシメザル乎最モ危急ノ場合ニ於テ何故ニ攻圍者ガ占據セル全部ヲ掩撃セザル乎之ヲ要スルニ攻圍者ハ諸堡壘ヲ奪フニハ軍



隊ノ開展合圍材料ノ運送ノタメ二十二日若ハ全一箇月ヲモ要スベシ然ルニ此際ニ於テ多クノ事變ハ被圍者ノ爲メニ生スルニ至ルベシ現今佛國若クハ露國ニ於テモ包圍ハ二十二日間繼續スト思惟スルヲ得ズト何トナレハ此時日内ニハ大兵ノ動員ハ終結シテ城塞ノ圍ヲ解クガ爲メニ途上ニ在リ而シテ敵ハ此城塞前ニ其兵力ノ大部分ヲ有セザルベカラズ是レ實行スベカラザル事ニ屬ス又他ノ一面ニ於テ三十万ノ現員ヲ有スル一軍ハ要塞ヲ監視スルヲ以テ足レリトシ敢テ之ヲ圍マザルベシ且ツ之ニ遠カリテ在レハ則チ更ニ善ク行動スベシ然レドモ此軍ハ實ニ敵ノ主力ニ屬シ未ダ嘗テ地方ノ軍ヲ敗リタルコトナクシテ直ニ城砦ヲ攻圍スルモノナレハ則チ彼レ自ラ潰滅スベシ何トナレバ一方ハ守兵ニヨリ他ノ一方ハ援兵ニヨリ腹背ニ射撃ヲ受クベキヲ以テナリ故ニ敵ハ非常ノ大損失ヲ蒙リ且ツ軍氣沮喪シ一月ノ後其

圍ヲ撤セザルヲ得ザルベシ且夫レ兵數ヨリ之ヲ觀ルモ城砦内ニ在ルモノ十五万及戍兵ノ憑援ニ來ルモノ五十万アリ故ニ敵ハ五十万ノ兵ヲ以テ腹背挾撃ヲ受クルニ至ルベシ佛露二國ハ其壯丁カ盡ク成器ヲ執ルニ於テハ斯ノ如キ大兵ヲ出スコト容易ナルベシフオンサウエール將軍ノ如キハ合圍ヲ爲サズシテ激烈ナル攻撃ヲ行フベシト主張セリ然レトモ何レノ場合ニ於テモ大損失ヲ生スベキ戰術ハ縱ヒ其功ヲ奏スベシト雖モ城砦戰ノ長ク繼續スベキモノニアラズ是ニ於テカ一問題起ル曰ク歐洲強國ハ方今ノ社會及經濟狀況ヲ以テシテ斯ル曠日彌久ノ戰爭ヲ支ヘ得ベキ乎

### ○戰事使節

兩軍兵ヲ交ヘ戰鬪正ニ闌ナル時ト雖モ屢々相互ノ間ニ於テ交通ヲ開クノ必要ヲ生スルアリ譬ヘハ戰死者埋葬捕虜交換ニ關シ又ハ降參條



約ヲ申請シ若クハ戰鬪停止ヲ協訂スル場合等ナリ斯ル交通ヲ遂行スルニハ戰事談判ノ全權ヲ掌握ヤシメタル人ヲ以テス。往昔希臘羅馬ハ勿論降テ中古時代ニ於テ之ガ爲メ派遣セラレタル人ハ常ニ傳令使タリ。之ヲ約言スレバ特別ノ使節タルハ無論終始一徹ニ其職ニ任スル人トス。彼ノホマー氏ノ詩什ニ傳令使ノ記事多シ而シテ昔日ニ於テ之ニ恭敬ヲ加タルヲ證セリ。譬ヘハ大將アガムノンハ勇將アチリスヨリリブリセイスタ要求センガ爲メ派遣セシメタルタルシビヤス及ヒユーリリベトラスノ二使ハ恐怖ニ打勝タレ其軍門ニ竝立ス然ル時勇將アチリスハ之ニ敬禮ヲ加ヘテ曰ク神聖ナル傳令使ヨ汝ハ神ト人トノ使命タリ。我輕侮ヲ蒙ルモ汝ニ罪ヲ與ヘザル可シト。戰時使者ヲ敵軍ニ遣ハスノ慣習ハ年久シク行ハレ之ニ隨伴スル者ハ白旗ヲ携フル鼓手若クハ笛手トナス。

往昔ヨリ休戰使ヲ以テ神聖ニシテ且ツ僧侶ノ性質ヲ備フル者ト規定サレタレバ休戰使者ニ害ヲ加フ可ラザルハ現今ノ國際公法ト雖モ尙之ヲ存セリ蓋シ是レ國際公法中ノ最奮至要ナル原則ナリトス何人ト雖モ此原則ニ反對スル者ハ其時ノ敵人ヲ害スルノミナラズバテルス氏ノ所謂ル「彼ハ國民ノ安寧幸福ヲ害シ自ラ全國民ニ對シテ大逆ノ罪ヲ犯セル者ナリト」ノ說ヲ適用スヘキナリ假令内亂ノ場合ニ於ルモ又正義ニ基クト否ラザルトニ拘ハラズ反逆ト認メラルベキ一體ノ使者ニ對スルモ亦之ト等シク神聖犯ス可ラザルノ規則トス然ト雖モ休戰使者ノ入營ヲ拒絕シ若クハ適當ナル條件ヲ附シテ以テ入營ヲ許可スルノ權利ハ常ニ存スル者ナリ例ヘバ休戰使者ノ雙眼ニ繃帶ヲ纏ヒ而シテ後之ヲ導クガ如キ是ナリ。一タヒ許可ヲ與ヘタル已上ハ之ニ保護ヲ與ヘ虐待ハ勿論之ニ侮辱ヲ加フ可ラズ。休戰使者ハ使命中



隨意ニ其眼耳ヲ隱閉スルコトヲ許サズ時トシテ特ニ認可セラレタル者ヲ觀ルノ權利アリ而シテ左右ヲ開ヒテ之ヲ目撃スルノ便利ヲ得セシムルコトアリ然リト雖モ性質ヲ僞リ斥候ノ舉動ヲ顯ハシ軍器ヲ企ツル者ナラハ則チ之ニ侮辱ヲ加ヘ放逐スル乎時宜ニ由テハ其任務ヲ剝奪シ之ヲ俘虜トシテ束縛若クハ死刑ニ處スルコトアリ實ニ法律ノ嚴正ハ斯ル極端ニ及ボスト雖モ大抵優ニ仁惠ヲ加ヘ且禮法ヲ盡スヘキ者ニシテ唯法律ニノミニ遵據スル者ニ非ス而シテ假令僞使ト雖モ休戰使者タル性質ニ對シテハ敬禮ヲ與フベキ者ナリトス

### ○休戰

戰爭中ニ於テ暫時戰ヲ中止スルコト屢之アリ其一戰終ルヤ交戰國互ニ約シテ屍尸ヲ埋ムル爲メ一時其運動ヲ止ムルガ如キ或ハ雌雄ヲ爭フ彼我兩軍大將ニシテ談合會ヲ開キ或ハ商議シ或ハ攻圍場所ノ投降

契約ヲ爲サンコトヲ欲シテ中止スルガ如キアリ或ハ亦一定ノ時日若クハ場所ニ於テ戰鬪中止ヲ爲スニハ別ニ他ノ理由ノ存スル者アリ右ニ陳述セル者ハ大抵其中止ノ短日月ナル者ナリ故ゴ亦タ之ヲ單ニ之ヲ戰鬪中止ト稱スルナリ殊ニ其戰鬪ノ一時ニ止リテ毫モ豫戒無クシテ戰鬪ヲ爲ス場合ニハ之ヲ稱シテ戰鬪中止ト謂フ然レモ亦時ニ戰鬪中止ノ延長スル事情ノ生ズルコトアル者ニシテ之ヲ例セバ兩軍ニ於テ平和ノ恢復ヲカムヘキ必要ヲ感ズル時ノ如キ乃チ是ナリ即チ交戰國互ニ契約シテ久シク戰鬪ヲ停止スルヲ休戰ト稱スルナリ彼ノ休戰トル「ス」ナル語ハ外交上ノ用語ヨリ起リシ如ク見ユルモ亦唯ダ一般ノ長日月ノ休戰ヲ行フ場合ニ適用スルモ妥當ナルヘシ余ハ此ヨリ休戰ノ順序ヲ述フヘシ乃チ彼我交戰國ニ於テ平和ヲ恢復スルノ冀望ヨリシテ休戰ヲ求ムルニ若カズト爲シテ其目的ヲ達スル



爲メ商議ヲ開ク時ハ通常各處ニ於テ戰鬪中止ノ契約ヲ始ムルヲ以テ習慣ト爲セルモノニシテ時アツテハ其休戰期限ヲ豫定スルコト無クシテ行フ場合アルモノナリ

抑休戰ハ是レ唯々軍事契約ニ過ギザルガ如シト雖トモ其ノ責任ハ唯ニ其軍隊ニノミ止ラズシテ其國民ニ關係スルモノタルコトハ猶ホ國際條約ト同一ナルモノナリ是ヲ以テ其休戰條約ヲ破ルノ行爲ハ國際公法ノ違犯中ニ於テ最モ重大ナルモノ、一ト思考セラルニ至リタリ故ニ此休戰條約ヲ結ブ時ハ必ズ其國君ノ名義ヲ以テ之ヲ訂盟シ其國ヲ統轄スルニ足ル權力ヲ有スル人ニ由テ之ヲ執行スル者ナリ今一般ノ場合ニ就ヒテ之ヲ論セハ其軍ノ總大將ハ其委任狀ト共ニ軍事上ノ性質ヲ帶ビタル契約ヲ施行スルノ權力ヲ與ヘラル者ニシテ而シテ其部下ニ在ル將士中ニテ委員及ビ使節ヲ撰任シ以テ軍事契約ヲ締結ス

ルノ任務ヲ命ツ而シテ其契約ノ批准權ニ至テハ一ニ之ヲ自己ニ掌握スルナリ斯ノ如ク其大權ハ獨リ總大將自身ノミ之ヲ專握スルモノニ非ズシテ分隊或ハ孤隊ノ將校ニシテ其上官ト直接ノ通知ヲ有セザル時ハ其條約ノ自己ノ率非ル軍隊或ハ分隊ニ關係スル限リハ適當ニ其交戰國ト條約ヲ結ブコトヲ得ルモノナリ然レモ今若シ一步進ンデ其問題ノ汎ク全軍ニ關係スル休戰ノ場合ニ於テハ其契約ノ性質ハ軍事的タルヨリ寧ロ政略的ニ屬スル者ナリ故ニ總大將ト雖モ政府ヨリ其締盟ノ全權ヲ委任セラレタルニ非ザレバ或ハ其交戰國ノ君主間ニ此目的ニ對シ豫メ之ヲ通知スルコト無キ時ハ其契約條件ニ關シテ締盟ヲ爲ス可ラザルモノナリトス

今此休戰條約ナル者ヲ熟考スルニ委員或ハ大臣ヲ以テ直接ニ政府ト政府ノ間ニ之ヲ訂盟スル實例ヲ見ルコト多シ然レモ其休戰ノ普行シ



且ツ其日限ノ彌久スル時ト雖トモ其休戰條約ノ條件及ヒ其條約實行ノ監督ハ大抵之ヲ軍務官ニ一任スル場合多キニ居ル者トス  
 休戰ノ日限ハ其條約ノ條件中ニ定メラルベキモノニシテ之ヲ行フニハ極メテ精確ナラザル可ラス是レ其休戰期日ノ未タ盡キザル間ハ戰爭再起ノ憂虞無カラシメンガ爲メナリ故ニ休戰期日ノ彌久スルカ若クハ時日ノ曖昧ナル時ニ於テモ其正當ノ公告ヲ以テ其期日ノ終盡ヲ宣告スル後ニ非ザレバ戰爭ヲ再開セザルヲ以テ習慣ト爲スナリ今一例ヲ舉グレハ彼ノ佛軍ト普魯西トノ二軍間ニ於テ一千八百十三年サイレシヤノプレスウイツニ於テ有名ナル休戰條約ヲ訂盟シ其契約文中ニ挿記スルコト左ノ如シ

休戰ハ六月廿日以内ヲ以テ終盡スル者ニシテ猶ホ其休戰期日ノ終盡報告ノ爲ニ六日間ヲ要スル者トス故ニ本營ニ於テ休戰期日後六

日間ニ其終盡ヲ公告シタル後ニ非ザレバ戰爭ヲ再開ス可ラズ

其後休戰期日ヲ延引シタル時ニ於テ左ノ如ク挿記シタリ

休戰期日ハ八月十日迄延引セラルヘシ其期日終了シテ其關係諸國ニ於テ期日終了ヲ報告スル場合ニハ六日間ノ猶豫ヲ與ヘラル、者トス故ニ休戰後六日內ニ其期日終盡ヲ公報シタル後ニ非ザレハ輒チ戰爭ヲ再開スベカラス

凡ソ休戰日限ノ終了報告ハ其期日ヲ豫定セサル場合ニハ最モ必要ナルヲ見ル者ニシテ其休戰條約ノ遵奉ハ締結ノ日ヨリ始ムル者ニシテ其實行ノ責ニ任スル將校ハ其報告當日ヨリ奉守ノ責任ヲ帶アル者トス是故ニ政府ハ其休戰令ヲ公布スベキ場合ニ於テ條約成立ノ報告ヲ遲延シ之カ爲メニ生シタル損害ニ對シテ其責任ヲ負フベキ者ナリ  
 又其軍隊ハ休戰中ニ於テ通常彼我互ニ其所ヲ守リ毫モ敵意ヲ挾メル



行爲ヲ犯カスベカラサル者ナリ攻城者ハ其攻取ノ運動ヲ行フベカラ  
 ス又其守城ノ敵軍ハ防護ノ爲メ城砦ヲ築キ或ハ其破損所ヲ修繕スル  
 等ノ事ヲ行フ可カラサルナリ然レトモ各交戦國ハ休戦ヲ利用シテ其  
 疆内ニ於テ作戰ノ彌縫策ヲ爲スハ毫モ妨ナキモノニシテ例之ハ軍隊  
 ヲ募集シ或ハ兵食ヲ供スル等ノ如キ當ニ爲シ得ベキ所ナリ而シテ何  
 レノ交戦國ヲ問ハズ苟モ其休戦條約ノ範圍外及ヒ休戦ニ關スル事項  
 外ハ之ヲ固守スルノ必要ナキモノトス

又市民ハ相互ニ自由ニ貿易スルコトヲ得而シテ其通行券ノ發行ニ就  
 テハ全ク其休戦條約中ノ條件ニ基クモノニシテ其他ノ要件ハ皆其條  
 件ニ據ルモノトス例之ヘバ休戦中一ノ城砦ニ兵食ヲ醜ルガ如キハ往  
 ヲ認許セラルハコト之アリ是レ其位地ノ必要ヲ認メサルカ或ハ忽チ  
 之ヲ奪取シ得ルノ場合ナリトス然レモ若シ之ヲ略取スルニ一大決戰

ヲ要スルモノナレハ則チ之ヲ拒絶スルコトアルナリ故ニ余ヲ以テ之  
 ヲ考レバ則チ自己ト同一ノ利益無キ場合ニ於テハ之ヲ敵國ニ許サン  
 ヲリ寧ロ休戦ヲ辭スルノ勝レルニ若カザルナリ  
 終ニ臨ミ一言セン即チ休戦ニ關スル全規則ハ左ノ一原則ヲ以テ之ヲ  
 蔽ムヘシ曰ク凡ソ休戦條約ニハ力メテ多クノ出來事ヲ條文ニ記載ス  
 ルコト是ナリ

### ○投降條約

今夫レ交戦國カ一軍或ハ一城ノ敵ニ抗スルコト能ハザルニ當リテ悉  
 ク其土地ヲ拒絶スルノ意志無キニ至レハ則チ唯ダ無條件若クハ條件  
 的ノ投降ヲ約スルノ一法アル而已而シテ其條件的ニ服從シテ城砦ノ  
 問題ナル場合ニ於テハ是レ殊ニ投降ト稱セラルハ所ノモノナリ  
 投降ニ關スル規則ハ實ニ單純ナル者ニシテ乃チ豫メ其條款ヲ議定シ



而シテ一旦調印セラル、ヤ其契約國ハ互ニ之ヲ遵守スヘキ義務アル  
 一ノ條約ナルモノナリ但シ或記者ノ言ヘルガ如ク其契約國ノ一方或  
 ハ雙方ニ於テ其權力ニ超過スル場合ハ此限ニ非ラス而シテ一方ノ守  
 城ノ將校ト一方ノ攻城軍ノ大將トハ習慣上且必要上此種ノ條約ヲ商  
 議締結スルノ權ヲ有スル者ニシテ若シ其條約文中ニ投降已外ノ條款  
 ナ合メル場合アリト雖モ是レ茲ニ之ヲ論究スルノ要ナキナリ又其勝  
 利者ニシテ其投降條約ヲ履行セザル場合ノ如キモ亦是レ吾人ノ之ヲ  
 論ズルヲ要セザルモノナリ苟モ一軍ノ將ト仰視セラル、ノ人ニシテ  
 其敗北者ニ對シ契約ヲ守ラサルガ如キハ獨リ其自身ヲ辱カシムルノ  
 ミナラズ我躬我國人ヲ侮辱ノ報酬ニ開放スルニ至ルモノナリ  
 凡ソ投降條約中ニ包含スル規約ハ是レ其當時ノ事情ニ基クモノニシ  
 テ乃チ其救助ノ大小其防禦ノ長短其城兵ノ抵抗及資力ノ大小ニ從テ

之ガ允許ヲ爲スカ故ニ自ラ其條件ニ異同ヲ生ジ或ハ之ヲ寬ニシ或ハ  
 之ヲ嚴ニスル者トス而シテ投降ノ時ニ至リ城兵ノ城ヲ去ルヤ彼ノ戰  
 争ノ榮譽ト爲スベキモノ即チ兵器行李軍旗及ヒ軍樂隊等ヲ伴ヒ去ル  
 コトハ是レ其ノ稀ニ見ル所ナリ否之ニ反シテ其規約中ニ城兵ノ生命  
 ナ救助スベキノ條項ヲ挿入スルコトヲ要セス是レ其捕虜ハ最早殺戮  
 セザルノ故ヲ以テ之ヲ略スル者ナリ而シテ其兵士ハ己カ物品ヲ携帶  
 スルヲ許サル、コトアリ而シテ其將校モ亦往々帶劍ヲ許ス場合アリ  
 而シテ又戰捷者ハ敵國ノ財産以外ハ毫モ之ヲ畧奪ス可ラザル者ニシ  
 テ其干戈ヲ取ラザル所謂平和市民ハ之ヲ敵人視スベキモノニ非ザル  
 コトヲ忘ル可ラザルナリ  
 其投降前ニ於テハ一城ノ守將ハ是レ其君主ニシテ其長官ノミニ對シ  
 責任ヲ有スルノミ然レモ一旦其守城ヲ交付シテ其投降條約ノ調印ヲ



結了スルヤ米國ノ戰場軍法ニ謂ヘルガ如ク其投降者ハ條約調印ノ時ヨリ之ヲ實施スル間ニ於テハ決シテ其防禦城砦ヲ破壊シ或ハ其所屬ノ兵器糧食及ヒ彈藥等ヲ傷害スルノ權利ヲ有セザルモノトス但シ特別契約アルモノハ此限ニ非ズ

余ハ斯ノ如ク國際公法ヲ基點トシテ投降條約ヲ論究シタリト雖トモ猶ホ軍法ノ基點ニ據ツテ之ヲ講スベキモノアリ凡ソ政府ガ一城砦ヲ一軍人ニ委任シタル時ハ其人ノ所爲ニ對シテ説明書ヲ要求スルノ權利ヲ有スルモノニシテ其説明書ヲ要スルコト屢之アリ

佛國ニ於テハ一千八百十二年五月一日ノ勅令ニ左ノ如キ條款ヲ記シタリ

第一條凡ソ軍隊ノ大將及ヒ將校ハ總テ其位階ノ如何ニ拘ハラズ曠原ニ於テ書面又ハ言詞ヲ以テ投降ヲ申込ム可ラズ

第二條凡ソ軍器ヲ讓渡シテ以テ投降スルガ如キ者ハ不名譽ニシテ且ツ有罪ト宣告シ之ヲ死刑ニ處スルモノトス

然レモ絶對的ニ防禦ノ術無キ時ハ如何ニ之ヲ處スベキカ又其他ノ投降ニ於テ大將或ハ將校ニシテ若シ其規定ノ榮譽及義務ヲ果行セザル時ハ之ヲ同一ニ處分セラル、モノトス

第三條城砦ノ建築地ニシテ攻圍ヲ受ケタル時ハ左ノ規定ニ基キ投降スルコトヲ許サル、モノトス

第四條其攻圍地ニシテ若シ糧食及ヒ彈藥ヲ節用シテ後之ヲ盡シタル時或ハ其城兵ニシテ本城ノ襲撃ヲ防キ第二ノ襲撃ニ抵抗カヲ失ヒタル時或ハ其地方官或ハ將校ニシテ全ク一千八百十一年十二月廿四日發布勅令ニ因テ定メタル義務ヲ終リタル時ハ投降スルコトヲ許スモノトス



凡ソ地方官將校及士官ハ何レノ場合ヲ論セス必ス其部下ノ  
 兵士ト其運命ヲ俱ニセサルヘカラス總テ居常同一ニ其兵士  
 ノ運命ヲ共分シ受クベキモノトス  
 凡ソ前條ニ於テ規定セラレタル如何ナル條件ト雖モ之ヲ履  
 行セサルノ投降或ハ土地喪失ハ不名譽ニシテ且有罪トシテ  
 宣告シ之ヲ死刑ニ處スルモノトス

前數項ノ外他日ノ紛議ヲ防ク爲メ明カニ規定ス可キ要項ハ左ノ如シ  
 一、守備隊ノ運命、守備隊ハ舉リテ之ヲ軍虜ト爲スヲ通常トス將校及將  
 校ニ列スル職員ニハ保釋ヲ許スコトアルヘシ然レトモ千八百六十  
 三年十月十三日勅令第二百五十六條ハ佛國將校ニ其部下ノ兵士ト  
 運命ヲ異ニスルヲ禁シタリ而シテ佛獨、戰役ノ後設置セル審判會議  
 ハ二三司令官カ其將校ノ爲ニ別段ノ待遇ヲ約セシハ義務ノ感念ヲ

薄フシ敵愾心ヲ弱クスルノ傾向アルモノトシテ之ヲ批難セリ

二、城市及其防守者ノ武裝ヲ解除スルコト、保釋ニ付セラレタル將校

ニハ特ニ其ノ佩劍ヲ許スコトヲ得ヘシ、

三、兵器及物件ノ引渡、兵器、軍旗、諸給養品、記錄類、城砦等ハ條約調印當  
 時ノ現狀ヲ以テ引渡ササルヘカラス、

四、私有物、凡ソ俘虜ハ其所有ノ金錢、物品、有價證券ノ所有權ヲ保有ス  
 ヘシ然トモ保安ノ爲メ一時之ヲ沒收スルハ妨ケナシ

五、城市ノ明渡シ及受取、防守者ノ出城及合圍者ノ入城ニ關スル條項  
 ハ其時ノ狀勢ト地形トニ應シ豫メ精確ニ決定スヘキモノトス、

六、醫員及負傷者、醫員及負傷者ノ狀ハシユチーヴ條約ノ制規ニ據準  
 シテ規定セラル、モノトス、

○ 俘 虜



俘虜ハ下ニ記スル者ヲ包含セサルナリ即チ軍務ニ關係スルモ戰鬪ニ列セサル者敵國無辜ノ臣民ニシテ戰爭ニ從事セサル者兵卒ニシテ將率ノ命令ヲ受ケスシテ暴行ヲ爲シタル者國命ヲ受ケスシテ任意ニ敵國ニ對シ武備ヲ爲シタル者間諜脫隊及逃亡スル者等はナリ外科醫從軍宣教師行軍商輜重官鼓手笛手等ハ戰士ニ列シ且實戰軍ニ屬スル者トシ其兵卒ト同視シテ俘虜ノ種類ニ加ヘラル、者ナリ

モーリスプロック曰ク千八百六十四年八月廿二日歐洲列國ノ同盟條約及千八百六十八年ノ附加條項ニ據リ一切ノ醫官及野戰病院ニ於ケル負傷者モ從軍宣教師及看護人ト均シク非戰士ト認定セラレシガ千八百七十年乃至七十一年ノ戰爭ニ於テハ双方共ニ其條約ノ違犯ニ對シ告訴ヲ起セリ然レトモ余ハ其告訴ノ成立セシテ想像スルト俱ニ其違犯ノ故意ニ出テタリシトハ信セサルナリ

モンテスキュー曰ク嘗テ異教信徒ノ盛時ニ當リテモ戰爭法ヨリ征服法ヲ胚胎スル者ナリ蓋シ敵軍ノ所有ハ沒收若クハ奪取シ其敵人ハ奴隸ト爲サ、レハ戰死スルガ故ナリト謂フニ在リ然トモ基督教主義ノ影響ニ從ツテ其習慣漸ク改良シ吾人ノ祖先カ羅馬帝國ヲ征服セシヨリ已還力メテ此法律ヲ緩和ニシ其嚴酷ナル所ヲ寬大ニセリベルガンゴース及ロンバート人ノ法律ハ常ニ羅馬人民ヲシテ長ク降服民ノ地位ニ居ラシムルノ意趣ニ在リト雖トモイユリツクゴンデポード及ロタリスノ法律ハ羅馬人トバルバリヤン人ヲシテ同等公民タラシメタリキ

戰爭終局後ニ至リ敵人ヲ殺戮シ若クハ奴隸ニ貶黜スルハ既ニ國際公法ノ認許セサル所ニシテ敵人ヲシテ其戎器ヲ放棄セシメ若クハ平和ノ恢復スルマテ之ヲ捕虜トシテ拘留スルカ如キハ近世ノ戰爭法ニ詳



記スル所ナリ俘虜ノ効力ハ降服ノ時期ヨリ起算シテ其戰捷者ノ監督  
權内ニ屬セシメ贖回若クハ交換ニ依ツテ本人ノ自由若クハ保釋人ニ  
放還スル者トス

千七百九十三年五月二十五日ノ告示ニ於テハ人權ノ精神ヲ養成スル  
ノ意ニ出テ、敵國ノ俘虜ト爲リタル人民ハ其敵國ノ爲メニ強制使役  
セラルヘキコトヲ宣告セリ

千七百九十二年六月二十日ノ法律ヲ以テ佛國ニ於ケル戰時ノ俘虜ハ  
佛國ノ保護ノ下ニ置キ一切ノ侮辱若クハ虐待ニ關シテハ佛國ノ公民  
ト同等ニ保護セラルベキ者ト爲セリ千八百十一年四月四日ノ布告ニ  
曰ク官吏ノ位階ヲ有スル俘虜若クハ其口約ヲ爲シタル後捕掌セラレ  
タル人質ニシテ一旦回收セラレタル時ハ其俸給傭金ニ就テハ一兵卒  
ト同等ニ措置シ之ヲ城中ニ禁錮スベシト俘虜交換ニ關スル規則ハ立

法條款ニ規定スルコト更ニ多トス近日ニ至リ俘虜ノ人數及位階ノ等  
差アル場合ニ於ケル計算ヲ定ムル爲ニ交換若クハ特別ノ贖金ヲ約束  
スベキ習慣行ハレタリ余ハ千七百八十年三月十二日英佛兩國間ニ結  
ビタル俘虜交換條約ニ於テ此例ヲ點驗セリ然レトモ佛國ハ千七百九  
十三年五月二十五日ノ布告ヲ以テ人ト人及位ト位トノ交換ハ認承ス  
ルモ革命戰爭中ノ收贖ハ一切之ヲ破棄シタリキ(俘虜交換ヲ參觀スベ  
シ)

余ハ歐洲ノ俘虜法ハ一般ノ感情ニ基キテ設ケタルヲ見ルナリ若シ戰  
争法ニシテ敵人ヲ捕獲拘留スルコトヲ交戰國ニ許容スル時ハ其兵ニ  
戎器ノ再執ヲ禁シテ以テ之ヲ壓抑シ若クハ同等ノ平和ヲ享有セシム  
ト雖而國安ヲ妨ケサル以上ハ之ヲ壓制虐待スルヲ許ササルナリ而  
シテ又高等官吏ニ對シテハ下士官兵卒ヨリモ特別ノ自由ヲ予フルノ



慣行アリ高等官吏ハ一都府ニ於テ口約ヲ爲スヲ普通ノ規則トナシ贖金支辨ノ約束ヲ爲シ又其自由ヲ保護セラレタル政府ニ對シテ戎器ヲ執ラサル契約ヲ以テ自國ニ送附セラル、者モ往々之アルナリ然リト雖<sup>田</sup>戰捷國ハ其俘虜若クハ口約違背ニ對シテ兵器ヲ奪取スベキ權力ヲ有セリ余カ上ニ引證シタル千八百十一年四月四日ノ布告ノ誓約破棄ノ罰則ノ外ニ戰時ノ俘虜ガ徒黨シテ正當ノ政權ニ抵抗ヲ企ツル場合ニ備フベキ必要アルヨリ共和政曆第十四年三月十七日ヲ以テ布告スルコト左ノ如シ

大凡ソ警察若クハ保安ニ抵抗スル背反若クハ罪科アル俘虜ノ徒黨ハ死刑ヲ以テ之ヲ處罰スベシト徒黨外シテ俘虜ノ生命ハ法律ニ據ツテ神聖ニシテ不可侵ノ者トス此後段ノ場合ニ於テハ最早其戰爭法ノ適用ニ異論ナキ所ナリ然レトモ公法家ハ左ノ問題ヲ發シテ曰ク吾人ハ自

己ノ防禦若クハ遭難ノ場合ニ於テ己ニ捕虜シタル者ヲ保留シ或ハ之ヲ捕獲スルコトヲ許容セラレサル乎ノ問題ハ佛國埃及土ノ遠征當時ヲ追憶セシムルナリ佛軍ハ三十時間ニシヤフハ(西利亞港)ヲ取リテ其拘掠虐殺ヲ行ヒタリ而シテ數千ノ捕虜ハ飢渴ニ堪ユル能ハス又敵軍ノ兵列ニ送還セラル、ヲ得ス其捕虜ハ空シク面縛シテ海岸ニ佇立シ只其宣告ヲ待チタリキモツシユセイアハ其ノ著革命史ニ論シテ曰ク奈破崙ハ己カ生涯ノ惡業ヲ過刻ナル方法ヲ以テ決行シ之ヲ蠻國ニ運漕シテ其習慣ヲ適用シ其殘餘ノ捕虜ヲシテ死地ニ就カシメ服從セスシテ驚嚇セラレタル陸兵ハ其命令ニ依テ死刑ヲ實行シタル者ナリトモツシユエーダレーハ其ノ著國際公法ニ之ヲ敷衍シテ曰ク兵ニ將タル者ハ敵軍ニ對スル時ト雖トモ之ヲ防護スベキ百方ノ手段ヲ盡スニ非サレハ如是ノ慘激ナル行爲ニ對シテ子孫ニ答フルノ辭ナカルヘシ何



トナレハ公平不私ナル戰爭ト雖トモ此ノ如ク敵兵ニ加害スルハ絶對無用ノ行爲トシテ認定セラルトノ原理ハ自ラ明白ナル者ナレハナリト  
帝王若クハ皇族ハ戰時ノ捕虜トセラルベキヤ否ヤ曰ク國際公法ニ於テハ之ヲ認定セリ雖然歐洲ノ文明諸國間ニハ久シク之ヲ慣行セサリキ蓋シ第一ニ敵國ノ君主若クハ皇族ヲ狙撃スルハ軍法ニ反スル者ト斷定スベシ第二ニ同皇族ノ押留ヲ解放スルハ特別ノ待遇ヲ爲スベシ第三ニ敵國ノ君主若クハ皇族ヲ慰藉スルガ爲メ毫モ其行軍ノ結果ニ及ハサルコト

モリスプロツク曰ク余ヲ以テ之ヲ觀レハ婦人童兒及非戰者ヲ俘虜ト斷言スルコトヲ得レバ女王若クハ太子ニ關スル場合ニ於テモ亦同シク然カルベシ雖然若シ其女王ニシテ軍團ヲ指揮スル者ナラシメハ即チ當ニ是レ交戰者ト認定セラルベシト夫レ原因ハ結果ヲ生スル者ナルカ故ニ戰爭ハ唯ニ俘虜ノミヲ爲ス者ナリトノ原則ニ據レハ其國民ハ假令毫モ實戰ニ關與セスト雖トモ他ノ行爲ニ依テ捕虜ト斷定セラル、ニ至ルヘシ是レ唯ニ暴法ト認メラル、ノミナラズ全ク文明ノ原則ニ違背スル者ナリ彼ノ獨逸國ノ千八百六年十一月二十一日附ノ告示ノ如キ乃チ是ナリ其條項ニ曰ク凡ソ英國人ニシテ佛國其他ノ同盟國ニ營業スル者ハ俘虜ト認定スヘシト如是ノ原則ハ唯其反服畧奪ヲ口實トシタルノミナラス國際公法ノ違犯ヨリシテ征服者ノ功名心ヲ勃興セシメタルヲ徵スベキナリ此ノ如キ惡例ハ近世史ニ於テ唯一見セシノミニシテ他ニ比類ナキハ誠ニ万邦ノ幸ナリト謂フベシ

### ○俘虜ノ義務

俘虜ハ自己ノ存在地ノ法律並ニ軍隊ノ規則ニ服從セサルヘカラス是



レナルユセル宣言第二十八條オツクスフォルド戰時提要第六十二條等ノ明言スル所ナレドモ獨リアイヘルマンハ軍隊刑法ヲ用ヒスシテ通常ノ刑法ヲ用ヒ處罰スヘシト云ヘリ故ニ俘虜ハ特ニ左ノ三個ノ義務ヲ有スルモノト見ルコトヲ得ベシ

第一 通常ノ人民カ服従スル法規ニ服従スル義務

第二 軍隊ニ在ル者ノ遵奉スル所ニ服従スル義務

第三 特ニ俘虜タル地位ニ在ルヲ以テ服従スル義務

此外俘虜ハ尙ホ地位階級上ノ義務本國ニ對スル義務等ヲモ併セテ負擔スルモノニシテ此等ノ義務ヲ有スルコトニ對スル必要ハ其取扱交換衣食住等ノ適用ニ在ルモノトス

俘虜ヲ捕ヘタル國家ハ俘虜ノ生命ヲ保ツヘキ義務アルヲ以テ之ヲ養ハサル可カラス而シテ其衣食住ノ程度ハ慣習ニ從ヒ且階級ニ準セサ

ル可カラス俘虜ヨリ之ヲ見レハ其地ノ慣習ニ從テ満足セサルヘカテサルノ義務ヲ有ス不必要ノ衣食其他贅澤品等ヲ望ミテ俘虜自ラ其費用ヲ支辨スル時ニ於テハ捕者ハ之ヲ禁スルコト能ハス只之カ爲メニ前述ノ法規及公共ノ秩序ト衝突スルモノハ此限ニアラス俘虜ニシテ自ラ好シテ或ル職業ヲ執ルコトヲ請フ時ハ時間ノ許ス限り及ヒ前途ノ妨碍ナキ限りニ於テ許容セラルヘク之ニヨリテ得タル利益ハ衣食住ノ費用ヲ扣除シテ俘虜ニ與フヘキモノトス

俘虜ヲ自國ヘ携ヘ來リ若クハ自國ヨリ俘虜ヲ其本國ニ還送スル場合ニ於テモ捕虜シタル國家ハ自國人民ノ俘虜ニ對スル暴行侮辱ヲ箝制セサル可カラス既ニ其國ニ携ヘ來リタルトキハ之ヲ一定ノ場所ニ置カサルヘカラス然レトモ俘虜ハ安全ノ爲メニ行フモノニシテ責罰ノ爲メニ行フモノニ非ラストノ原則ヲ適用シテ之ヲ牢獄ニ繋留スヘカ



ラス

捕虜セル國家カ俘虜ヲ殺戮スルノ權利アリヤ否ヤモ亦一問題ナリ俘虜ハ如何ナル場合ニ於テモ捕ヘタル國ノ法律ニ依リテ支配サルヘキモノニシテ又其ノ國民ノ享有權利ヨリ以上ノ權利ヲ受クルコト能ハス故ニ一般ノ法律ニ於テ死刑罪ヲ犯シタル場合ニ死刑ヲ免レサルハ勿論加之戰時法律ニ於テ死刑ニ當ル罪科ヲ犯シタル場合ニ於テモ亦死刑ヲ免レス其他抵抗又ハ逃走等俘虜ニノミ當ルヘキ特別ノ死刑ニモ亦服從セサルヘカラス

第一 報讐トシテ俘虜ヲ殺戮スルヲ得ルカ

第二 外部ノ必要例ヘハ到底俘虜ヲ養フコト能ハサル場合又ハ俘虜ヲ捕ヘ置クノカナキ場合又ハ俘虜ヲ近ヅケ置ク時ハ自己ノ軍隊ニ莫大ナル危険アル場合ニ之ヲ殺戮スルノ權利アリヤ

外部ノ必要逼迫ニシテ避クヘカラサル場合ニ於テハ俘虜ヲ殺戮スルコト元ヨリ當然ナリ只必要ノ逼迫ナルコトハ事實上ノ問題ニ屬スルカ故ニ之ヲ決スルニ當ツテ充分ノ注意力ト判別力トヲ用ヒサル可カラス例ヘハ一城ニ百人ノ俘虜アリテ城兵僅ニ五百人ヲ出テサルニ外敵ノ攻撃甚タ急ナリト假定シ此場合ニ城兵カ全力ヲ盡シテ外敵ニ當ルトキハ俘虜内ヨリ起ツテ城中ハ内外敵ヲ受クルノ恐アル時ニ於テハ俘虜ヲ殺戮スト雖トモ支障アルコトナシ俘虜護送ノ途ニ於テ敵ノ襲撃ヲ受ケタル場合ノ如キ亦然リ報仇トシテ俘虜ヲ殺戮スルハ又他ノ報仇ト均シク必要避クヘカラサルトキニ限り行フ可キモノナリ蓋シ報仇ハ單ニ他方ノ或ル行爲ニ對シ單純ニ之ヲ行フヲ得ヘカラサルモノニシテ是レ管ニ交戰國ノ道德上ノ義務タルノミナラス又法律上ノ義務ナリト謂ハサルヘカラス



如何ナルモノヲ俘虜トシ如何ナルモノヲ俘虜トナスヘカラサルヤニ付古ニ於テハ戦争ヲ以テ種族機關ノ主義ヲ採ルモノトシタルカ故ニ苟モ敵國ノ臣民ナルトキハ老幼婦女ノ如キモ悉ク之ヲ殺戮スルコトヲ得ヘシトセリ然ルニ基督教ノ隆盛ニ至レルト武士制度ノ盛ナルニ至レルトニヨリ自由平等慈惠ノ思想ハ一般人士ノ遵望スル所トナリ三十年戦争後戦争主義全ク豹變シ之ト共ニ俘虜ヲ獄ニ投シ敵人ニ役ヲ課シ老幼婦女ヲ俘虜トスル習慣絶ヘタリ而シテ軍隊ニ屬スルモノハ敵軍ニ捕ヘラレテ俘虜タルノ權利ヲ得敢テ濫リニ殺傷セラル、コトナシ軍隊ニ入ラサル者例ヘハ新聞記者通信員等ヲ俘虜トスルヲ得ルカ曰ク然リブルンチユリーガ我國ニ反抗スルノ意ヲ以テ敵ヲ煽動スル政黨首領新聞記者ノ如キモ俘虜トナスコトヲ得ト云ヘルハ至當ナリ案スルニ其他醫員看護人兵站員官吏等ノ如キモ若シ自己ノ軍隊

ニ反抗スルノ行爲ヲナサハ輒チ之ヲ俘虜トナスコトヲ得ヘシ赤十字條約ニ於テ醫務員カ俘虜トナラサルコトヲ規定シタルハ自己ノ軍隊ニ反抗セサル場合ニ限ル者ナリ其他外國君主ノ如キモ俘虜トナスコトヲ得ヘシ而シテ俘虜ノ解除セラルベキ者左ノ如シ

- 一 逃走 俘虜ハ只一時敵軍ニ擒ニセラレタル者ニ過キサレハ其國ニ對スル忠情ノ發シテ逃走ヲ企ツルハ敢テ咎ム可キニアラス捕ヘタル國ハ自國ノ戦争行爲ニ必要ナルモノトシテ俘虜ヲ捕ヘ置クニ過キサルカ故ニ其逃走ニ際シ之ヲ禁止スルノ手段ヲ盡クスコトヲ得ヘシト雖モ既ニ一旦逃走シタル已上ハ更ニ之ヲ捕ニタリトモ決シテ之ヲ責罰スベカラサルナリ但シ逃走セストノ宣誓ヲナシタルニ拘ハラス逃走シタル者ハ此限ニアラス
- 二 放還 放還ニ二種アリ一ハ交戰國一方カ他方ノ俘虜ヲ單純ニ放



- 還スルノ法方是ナリ俘虜ハ元ヨリ單純ノ放還ニヨリテ自由ノ身トナリ捕ヘタル國ノ保護ヲ受ケテ本國ニ歸ルコトヲ得他ハ宣誓放還ニシテ交戦國一方カ他方ノ俘虜ヲシテ再ヒ此戦争ニ從事スルコトナカルヘシト誓ハシメ此宣誓ヲ條件トシテ放還スルノ方法ナリ此條件ニヨツテ放還セラレタル者ハ其宣誓ヲ確守セサル可カラス
- 三 交換 交換ハ之ヲ戦争ノ繼續中ニ於テ行フ可キモノナリ交換ニモ亦單純ノ交換ト條件付ノ交換トアルカ故ニ細目ハ之ヲ俘虜交換ノ條約中ニ規定セサルヘカラス
- 四 歸化 俘虜ヲ捕ヘタル國ニ歸化スル時ハ自由ノ身トナル尤モ本國ノ法律及ヒ捕ヘタル國ノ法律ニ背馳セサルコトヲ要ス
- 五 死亡
- 六 媾和條約 俘虜ナル状態ハ戦争ヲ前提ニ置クモノナルカ故ニ戦争既ニ止ミタル時ハ俘虜ノアルヘキ道理ナシ故ニ媾和條約ニ於テハ皆俘虜ノ處分ヲ細定シテ之ヲ放還スル者トス

○俘虜ノ分限及處分

今日誰カ國際公法ニ據ツテ宣戦ノ場合ニ於ケル敵兵ノ分限ト其處分トヲ判知スルヲ得ル乎其戦争ノ進行中實戦ニ從事スル者ノ外ニ我敵ナシトハ是レ其大別ナリ之ニ依ツテ左ノ人種ヲ除却スベシ

先ツ兒童婦女子老人及戎器ヲ執ラス且ツ敵對セザル者ノ次ニ從軍ノ列ニアルモ敵對ノ意思ナキ者即軍屬宣教師内科醫外科醫從軍商等はナリ之ニ加ルニ輜重兵喇叭手及鼓手ヲ以テスルノ慣行アリ官吏及ヒ兵士ニシテ敵軍ニ圍マレテ重傷ヲ負ヒ復抵抗スル能ハサル者又ハ戎器ヲ委棄シテ降服ヲ請フ者ハ其身命ヲ宥助スベキ義務ヲ有スルノ條規アリ此規則ニ例外アリ一ニ戦況カ其助命ヲ禁スル時ノ非常ノ場合



二ニハ復讐反掠ヲ用ユベキ必要ノアル場合三ニハ其降服兵ノ脱走ノ如キ重罪ヲ犯シタル者若クハ軍律ヲ破毀シタル者ノ場合はナリ此他一切ノ場合ニ於テ敵軍ノ手ニ落チタル者ハ都テ俘虜ト断定セサルベカラス而シテ邦國間ノ戦争ニ於テ一切ノ捕虜ヲ殺害スルハ性法及誠信ヲ破壊スル者トス(ブレシス七卷四章)此ニ由ツテ交戦雙方ノ戦士外ニハ讐敵ナル者ナシ而シテ讐敵ノ分限ハ之ヲ殺害スベキ認可ヲ與ヘタル時ニ始リテ復抵抗防禦スルコト能ハサル時ニ終ル者トス是レ實ニ人定現行ノ國際公法ナリ故ヲ以テ戦争ニ從事シテ其制服ヲ被ラスシ戦士ノ分限ヲ遠方ヨリ識別セシメザル人民ハ嚴刻ニ處分セラル、者トス

敵兵ヲ殲斃スルハ其手段ノ如何ニ拘ラス之ヲ許容セラルベキ者ナルヤ曰ク否マルテン氏言ヘルアリ歐洲ノ開明諸強國ハ敵兵ヲ毒殺若クハ暗殺ノ手段ヲ用ヒ若クハ正當ナル兵士ノ首級ニ價格ヲ附スルハ大ニ戦争法ニ違犯スル者ナリト認定セリ但復讐ノ場合ハ此限ニ非ス習慣及條約ニ據テ多數ノ被害者ヲ無益ニ増加スル爆裂彈ノ如キ兵器ノ使用ヲ罰責スルナリ

俘虜ニ關スル戦争法ハ如何今ヤ俘虜ハ農僕ト爲ラシムベキヤマルテン氏曰ク性法ニ於テ正統ノ俘虜ヲ殺害スルコトヲ許容スル者ニ限リテ之ヲ奴隸ニ貶スルコトヲ認可セリ而シテ之ヲシテ其戎器ヲ拋棄セシメ新ニ平和ヲ講スル間ハ俘虜トシテ拘留スルノ權利アリトス但即時若クハ時日ヲ限リテ解放スヘキ約束アル者ハ此限ニ在ラス官吏ノ捕獲セラレタル者ハ降服約束ニ據テ俘虜ノ交換若クハ一定ノ時期若クハ媾和ノ時マテ服役ヲ免セラレ其時ニ至リ召喚セラル、場處ニ於テ償還セラル、者ナリトス



交戦國ノ人民ノ捕獲セラレタル者ハ俘虜トナルベキヤ將俘虜ト認定セラルヘキ者ナルヤ曰ク決シテ然ラス今日ノ國際公法ニ據レハ戰鬪ニ從事セサル敵國ノ良民ノ自由ヲ褫奪シ且之ヲ強制シ之ヲ移住セシムルカ如キハ文明國ノ慣行ニ違反シタル者ナリ然レトモ契約若クハ義務ノ擔保ヲ負ハシムル爲メニ之ヲ強制シテ其人質ヲ取り或ハ人質ノ引渡ヲ強請スルハ是レ其認諾スル所ナリ唯軍務ノミニ從屬シテ卒伍ニ編入セサル者ハ俘虜ヲ以テ待遇セス反テ之ヲ敵國ニ送還スルヲ以テ慣例トナス

都府城砦ノ攻撃ニ因テ捕獲スル事ハ法律ニ於テ罪ヲ歸セス生命乃チ守兵ナレハナリ然レトモ若シ其時ニ當リ降服條約ヲ爲サスシテ其場所ヲ攻略セラレ其守兵ハ約束ヲ投降シタル者ハ助命スルノ外之ヲキナリ

俘虜ノ待遇ハ如何曰クザエルゾ一氏ノ論頗ル其當ヲ得タリ其論ニ云ク俘虜タル者ハ其自由ヲ褫奪セラレテ自國ニ歸ルヲ能ハス又其交戦國ニ對シテ再ヒ兵器ヲ倒ニスルヲ得ス唯其國ノ安寧ヲ攪亂セサル以上ハ苦役虐待セラル、者ニ非ス又敵軍ノ官吏タル者ハ下士官及兵士ヨリモ大ニ自由ヲ與ヘラル、ノ慣例ニシテ其口約ニ據ツテ市府ノ區域内ニ置キ之ニ食物ヲ供ヘテ給養セラル、ナリ下士官及兵士ハ直接ニ看守セラレ其勞役金ヲ以テ不時ノ費用ニ供セシム然レトモ其俘虜ト爲リタル所ノ國軍ニ編入スルコトヲ強制セラレサル者トス

俘虜ノ効力ハ條件ノ有無ニ拘ラス隨意投降ノ時ヨリ始マル者ニシテ其投降ノ時ヨリシテ助命ノ約束ヲ承諾セラレタル者ナリトス而シテ媾和宣告若クハ捕獲政府ノ歸順若クハ條件無條件ノ放免若クハ軍實收贖條約等ニ據ツテ其効力ヲ終ル者トス



敵軍ノ財産ニ關スル法律ハ如何曰ク今日ノ開明國ハ鹵掠劫奪ニ代ルニ侵地課金ヲ要求スル慣例ヲ設クテ貨幣若クハ軍律ノ慘刑ニ代用セリ此課金ノ辨償ハ一切ノ財産ノ保存ヲ擔保スル者ニシテ後日敵國カ返還ヲ請求スル者ヲ購買辨償セシムル者ナリ但其假屬臣民ヨリ要求スル服従ハ此限ニ非ス私有財産ニ關シテハ今日唯海戰ノミニ之ヲ設定セリ此法ハ今ヲ距ル幾ント一世紀前千七百八十年北米合衆國ノ創立ニ當リ之ヲ一條約ニ批准セシヨリ千八百五十六年ニ至リテ之ヲ實行セリ

正式軍躰ノ組織ガ交戰國間ノ純乎タル決闘トナリシ已來其間ニ處理スル關係ハ益公平トナルニ至レリ敵國ノ財産ニ對スル虐待ハ猶ホ婦人女子老弱ノ如キ非戰者ニ加ヘタル攻撃ノゴトク勝敗雙方共ニ一犯罪ト認メ科罰禁制セラル、ナリ是レ敵兵ナル言語カ自滅セサル已上

ハ固ニ公正ト文明トノ法律ナリトス

### ○俘虜ノ交換

交戰國間ニ於テ戰爭ヲ處理シ讐敵ヲ判定スヘキ方法ヲ規定シ之ニ據ツテ兩軍ノ交換スル條約ヲ稱シテ捕虜交換條約ト曰フ之レニ據テ其疆場ノ一部ヲ以テ局外中立トナスコトヲ宣言シ之ニ軍用金ヲ賦課スルコト強掠者ヲ禁制スルコト商業郵務ヲ繼續若クハ停止スルコトヲ規約スルナリ

俘虜交換條約中ノ最要項ハ捕虜ノ交換ニアリトス其條約ニハ雙方共ニ捕虜ノ位階及分限ニ從ツテ之ヲ待遇スルコトヲ記載シ又其待遇ノ程度及扶持ノ價額ヲ規定シ終ニ交換ノ順序手續ヲ記載セリ往古ニ在ツテハ捕虜ハ大抵其捕獲者ニ屬ストノ規則ヲ設クタリ中葉ニ至リテハ其價金ヲ代酬スル以上ハ之ヲ放釋シ其金額ハ雙方相對ニテ之ヲ規



約セリ是ヲ以テ當時ニ在テハ捕虜ノ交換ハ誠ニ稀少ナリキ蓋シ他ノ捕虜ヲ爲シタル者ハ之ヲ以テ他ノ捕虜ヲ償贖スルノ私利ヲ得ルナキニ由リ捕虜ノ運命ハ捕者ノ處分如何ニ一任シタリキ然レトモ漸次ニ君主及ヒ政府カ正式ノ軍兵ヲ組織スルニ及ヒテ其捕獲セラレタル兵士ハ其國庫金ヲ以テ之ヲ償贖スルニ至リ其自國人ヲ購贖スル贖回金ノ支辨ヲ國家事務トナシ其捕虜贖回金ノ價額ヲ定ムル爲メ敵國ト條約ヲ締盟セリ是ヲ以テ其交換ノ容易ニ且頻繁ナリシハ自然ノ勢ナリトス

交戦兩國ノ軍兵ハ俘虜ノ解放ニ依テ相互ノ利益ヲ得ルコトヲ注意セサルヘカラス彼我兩軍ハ各自ニ要用ナル軍團ヲ回復シ敵軍ノ監視ヲ脱シテ相會同シ其豫定ノ地方ニ護送セラル、ヲ歡喜スベシ當初ノ俘虜交換條約ハ首トシテ贖回條約ニシテ雙方ニ於テ各級官吏

及兵士ノ目錄ヲ列記シ位階ノ各級ニ對スル贖回金額ヲ定メタリ外交文書ノ集録ニ就キ古代ノ交換條約ヲ調査スルニ第十七世紀ノ末ニ當リテハ各級ノ間ニ於テ其金額ニ大差アリシ事ヲ觀ルナリ佛國ノ陸軍大將及中將ノ贖金ハ五万リリアルス即チ我壹万圓ニシテ陸兵及水兵ハ五リリアルス若クハ七リリアルスニシテ我壹圓乃至壹圓四拾錢ノ間ニ抵レリ此ノ如ク人間ノ價額ヲ定ムルカ故ニ捕虜ノ交換ハ屢々貨幣ノ價額ニ變動セラレ易スカリキ

輓近文明ノ發達ト哲學ノ思想トカ政府ヲシテ人間ハ社會ノ位地ニ於テ獨立ノ固有價額ヲ有スル者ト認メシムルニ至リ千七百八十年英佛兩國間ニ締盟シタル交換條約ニ於テハ佛國ノ陸軍大將海軍大將等ヲ千五百リリアル即我三百圓ト爲シ陸兵及水兵ヲ二十五リリアル即我五圓ニ價定セリ而シテ贖回金ハ其主眼ニ非ラスシテ唯交換ヲ目的ト



ナスニ至レリ而シテ其交換ハカメテ同等ノ人民若クハ大抵同級ノモノヲ以テセリ千六百九十年ニ在ツテハ佛國ノ陸軍大將ハ壹万ノ兵士ト交換セラレタリシカ千七百八十年ニ至ツテハ何レノ陸軍大將ト雖トモ一人ニ對シ兵士六十名ニ估價セサリキ

佛國共和戰爭ノ時ニ於テハ他ノ一方法ヲ豫定セリ而シテ佛國ヲ支配スル人權同等ノ原理ハ貨幣ノ定額ヲ以テ人民ヲ估價スルノ非理ナルヲ反駁シ俘虜交換ノ條約書ハ常ニ政府ノ直斷スルモノニシテ即チ君主ノ大權ヲ有スル委員ニ依リテ之ヲ處理セシメ且又海陸軍ノ總督ハ己カ監督ニ屬スル者ハ敵將ト俱ニ其本國ヲ代表シテ軍事條約ヲ締結スヘキ權利ヲ委任セラレタルカ故ニ交換ノ條約書ハ彼我將官ノ間ニ締盟シ俘虜ノ交換モ亦其樞要ノ位地ニ在ル者ノ外ハ一人ノ貴族モ之ニ關與スルコトヲ得ス畢竟其條約ハ雙方媾和スレハ則チ其敵國ニ捕ヘ

ラレタル俘虜ハ交換若クハ贖收ヲ要セスシテ各自充分ノ自由ヲ得テ雙方へ還送セラル、ヲ以テ不易ノ慣行トナスニ至レリ

### ○ 占 領

占領地ニ二アリ侵略軍ハ其地ノ一部又ハ全部ヲ永久占領スル者アリ或ハ唯一時ノ典當占領ヲ爲スコトアリ余先ツ永久占領ヲ論スベシ侵略軍カ敵國ノ一部地方若クハ全部ヲ永久占領ズル者ハ仁慈ナラサルヘカラス唯其軍需ノ必要品ノ外之ヲ奪略スヘカラス又我軍ノ防禦其他ノ軍用外ニハ屠城シ若クハ破屋スヘカラス唯タ敵國ヲ勦滅スルカ爲メニ破壊ヲ爲スヘカラス若シ其占領地ヲ永久保有スル時ハ其事務煩雜シ數多ノ問題ヲ生スルニ至ルヘシ此場合ニ於テハ其國土ヲ占領シタル海陸軍ハ其首領ト爲リ主權ヲ運用シ租稅ヲ賦課シ必要ノ法律ヲ制定シ而シテ必要ニ應シテ詞訟ヲ判決スルナリ然ト雖トモ是レ唯



事實ニ於テ其主權ヲ有スルノミニシテ道理ニ於テ其主權ヲ有スル者ニ非サルナリ故テ以テ其殖民ハ其國粹ヲ保存シ其制度ハ之ヲ毀損セズ而シテ其法律モ亦占領者カ廢止變更若クハ禁止スルモノ、外ハ之ヲ繼續實施スル者トス侵略中ニ犯シタル犯罪人ハ其國ノ裁判所ニ於テ之ヲ判決セシム媾和已後モ亦然リトス居留民ハ假令其侵畧軍ノ國籍ニ屬スルモ其軍團ニ屬セサル者ハ猶ホ其侵略國ノ法律ニ服從セシメ若シ其訴訟期限ニ妨ケナキ者ハ媾和宣告已後ニ之ヲ逮捕スヘシ是レ恐クハ同裁判所カ其法律ヲ嚴格ニ強行シ得サル際ニ於ケル犯罪ナレバナリ

侵畧軍ノ將帥カ反對ニ判決スルニ非ラサレハ則チ其行政權ヲ其職ニ附予シテ政治秩序ヲ保タシメ諸裁判所ハ途中ニ道德若クハ事情ノ爲メニ妨害セラレサル間ハ之ヲ守ルヘキ義務アル者ニシテ主權者ノ名

義ヲ以テ之ヲ裁判スル者トス言テ佛獨戰爭ニ於テ難題ヲ起セシコトアリ即チ其戰爭中佛國ハ九月四日ノ革命ニ依テ其政體ヲ共和政治ニ變シタリ而シテ獨國ハ尙ホ未タ其共和政治タルコトヲ認諾セサルヲ以テ共和政治ノ名義ヲ以テ裁判ノ執行ヲ許可スヘカラサル者ナリト思考セリ故テ以テ獨逸人ハナンシ一其他ノ裁判所ニ占領政府ノ名義ヲ記入セラレムコトヲ請求セリ而シテ其諸裁判所ハ實際ニ其名義ヲ用非ルコトヲ嫌疑シタリキ

獨逸人ニ二失アリ其一ハ裁判ハ共和政治ノ名義ヲ用ツテ執行セラレヘキ者ナルヤヲ質問スルコト其二ハ共和政治ノ名義ヲ用ヒタル裁判ハ其政府ノ承認ヲ含蓄シタリト想像シタルコト是ナリ佛國人ハ文官カ戰爭事務ニ關セザル間ハ其裁判手續ヲ採用セス又其宣告及布告ハ唯ニ私法ノミニ効力ヲ及ホス者ト想像シタレハナリ



典當占領トハ典物ノ方法ニ據ツテ國土ヲ畧有スルコトアリ彼ノ兵害賠償ノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ占領法ノ細目ハ之ヲ條約ニ規定スルモノナリ然ルニ戰爭ノ狀態カ全ク平和ニ復シタル時ハ一切ノ公務ハ本國政府ニ回收指揮セラレ占領軍ノ將帥ハ其軍隊ノ保護ニ必要ナル權力ヲ有スルノミニシテ其條約ニ規定シタル外ハ軍用金ヲ要求シ若クハ租稅ヲ賦課スルコトヲ得ス然リト雖モ若シ其地方廳ニシテ軍隊ノ安全ヲ保護スルコト能ハサルトキハ則チ軍隊ハ自己ヲ保護スルノ權利ヲ有スルナリ其占領地ノ殖民ハ其將率ニ斷獄ノ威力ヲ與ヘザルノ愛國心ヲ抱カザルヘカラス平穩ナル威力ハ寧ロ誤判ノ冤枉ヨリモ太甚ナレバナリ占領地ハ亦契約履行ヲ強制スル一種ノ束縛方ナリ例之若シ日耳曼聯邦ノ一國カ聯邦憲法ノ條項ニ服從セサル者アル時ハ同帝王ハ其國ニ占領軍ヲ差遣シ其占領國ノ費用ヲ以テ逮捕吏ノ如ク

運動セシムルヲ得ルナリ然トモ平和ノ狀態ハ決シテ攪亂セララル者ニ非ラス其内政モ亦平常ノ如ク繼續シテ其職務ヲ盡スコトヲ得ルナリ

已上二種ノ占領地ハ合法ノ方法ト認メラル、ナリ然リ而シテ歴史ニモ記載スル所ニシテ其實例モ亦多ク其政略ニ據ツテ多少是認セララルナリ蓋シ占領地ナル者ハ國際公法ノ問題外ニ置カル、ヲ以テ世ノ公法家ハ之カ諸規則ヲ列叙セムト思考スル者未タ之レアラザルナリ十八世紀以前ニ在テハ占領ト戰取トノ區別明白ナラス從ツテ占領者ト戰取者ノ權利ヲモ殆ンド之ヲ區別スルコト能ハサリキ近世ニ及ンテ之カ區別ヲ明定シ占領者ノ權利ハ臨時假設ノ者タルノ理ヲ明カニセリ夫ノ千八百七十四年アルツセルノ會議及千八百八十年オックスフォールドノ會議ニ於テ占領ニ關スル法則ヲ議決セリアルツセル會



議ノ決議ハノ如シ

- 一、領土ハ實際敵軍ノ權力ノ下ニ置カレタル時占領セラレタル者ト認ムベシ而シテ其占領ハ其權力ノ及フ所ノ範圍ノミニ限ル者トス
- 二、本政府ノ權力ハ中止セラレ實際占領者ノ掌中ニ移ルヲ以テ占領者ハ力メテ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルノ方法ヲ講スベシ
- 三、第二項ノ目的ヲ達スル爲ニ占領者ハ平和ノ際其土地ニ行ハレタル法律ヲ執行シ又必要アルニ際シテハ之ヲ廢止變更スルヲ得
- 四、占領者ノ爲ニ依然其職務ヲ執ルヲ承諾シタル官吏公使ハ占領者ノ保護ヲ受ケ故意ニ其職務ヲ盡サザルヲアルニ非サレハ免職或ハ處罰セラル、ヲナク又不信實ヲ以テ其職務ヲ瀆シタル時ノ外裁判官ニ引渡サル、ヲナシ
- 五、占領軍ハ占領地本政府ノ賦課シ來ツタル租稅ヲ徵收スルヲ能ハ

サル時ハ類似ノ租稅ヲ賦課シ又其徵集ハ舊來ノ法方ニ依ルベシ而シテ其徵收金ハ本政府ノ義務ニ屬シタル行政代理ノ費用ニ充ツベシ

- 六、占領軍ハ敵國ニ屬スル正金財貨手形等及陣營運送器械倉庫糧食其他交戦ノ用ニ供スベキ動産ヲ奪取スルヲ得鐵道材料電信器械汽船其他ノ船舶及ヒ假令會社或ハ個人ニ屬スルモ敵ノ掌中ニ置クヲ能ハサル物ハ戰用品ト認メ奪收スルヲ得但鐵道材料電信器械汽船其他ノ船舶ハ和議ノ成ルノ後償金ヲ拂ヒテ返還ヲ求ムルヲ得

- 七、占領軍ハ敵國ニ屬シ占領地ニアル公共建設物不動産森林農作物ノ管理人及用益者トシテ之ヲ使用シ又果實收用ニ關スル法律ニ從ヒ此等財産ヲ保護管理スベシ



八。寺領及宗教慈善教育技藝學術ノ爲ニ設ケタル建設物ノ財産ハ假令敵國ニ屬スルトモ私有財産ト見做シ奪取スベカラス前記財産建設物ヲ掠奪若クハ破毀ナシタル者ハ相當官律ニ付シテ處罰スベシ

### ○占領ノ性質

一國ノ軍隊他國ノ土地ヲ蹂躪スルニ當リ占領地ノ主權者カ占領軍隊ニ移轉スルモノニ非ラサルコトハ殆ント諸學者ノ首肯スル所ニシテ占領ナル事實ニ依テ占領軍隊ハ確定不動ノ權利ヲ其占領地ニ弄スルコト能ハス被占領國ノ本來ノ國家主權ハ尙ホ未タ占領地ノ上ニ存スルモノナリ

占領ノ標準如何ニ付テハ「ブルユツセル」ノ會議ニ於テ議論久シク決セサリシ所ニシテ或ハ占領軍隊ノ宣言ヲ待タスンハ占領ヲナサストノ說アリシト雖モ討議ノ未遂ニ占領ハ軍隊ノ實力ノ及フ所ヲ限度トセ

サル可カラスト決セリ要スルニ占領ナルコトハ實力ノ其土地ニ存スルコトヲ要シ、カモ其土地ノ主權ハ依然トシテ被占領國ニ屬スルコト上述ノ如シ故ヲ以テ被占領國ハ占領地ノ主權ノ行使ヲ止メラレタルノミ從テ媾和條約ニ於テ被占領國ハ土地ヲ割與シ又ハ自國ニ止マルノ權利ヲ握レリ

二個以上ノ主權カ同一ノ土地ニ行ハル可カラサルコト明ラカナリトハ「ブルンチユリー」「マルテンズ」「ホルツェンドルフ」等カ主張スル所ニシテ占領地上ニ行使スヘキ行政ハ占領軍隊ノ意ニ從ハシムヘキコト自然ノ理ナリ占領軍隊ニシテ占領地上ニ隨意ノ行爲ヲ爲スコト能ハサランカ占領ノ効力ハ之アルコトナカルヘシ然レトモ占領軍隊ハ戰爭行政就中警察ニシテ必要ナル範圍以内ニ於テノミ強制ヲ加ヘ規則ヲ發シ其他凡テ管轄的ニ行爲ヲナスコトヲ得是ニ由テ推セハ戰爭其他



警察上必要ナラサル限りハ占領軍隊ハ人民ノ權利ヲ毀害スルコト能ハサルノミナラス却テ其地ノ安寧ヲ保チ秩序ヲ維持スル義務アルナリ「ブルユツセル」宣告第二條ニモ亦其文意アリ（我征清第二軍ノ發シタル金州城行政規則以テ見ルベシ）

占領地ノ人民カ占領軍隊ノ羈絆ノ下ニ立ツハ只行政權警察權等戰爭作用ニ必要ナル限ニ於テ然ルヘキ者ニシテ獨リ其他ノ權利ヲ害セラレサルノミナラス又直接ニモ間接ニモ其本國ニ對シ敵對スヘキ行爲ヲ強ヒラル、ノ義務アルコトナシ

占領地人民ヲ驅テ兵役ヲ執ラシムル能ハス然レトモ人夫役ニ使役スルカ爲メニハ占領地ノ人民ヲ使用スルコト占領軍隊ノ警察權行政權ニ於テ許サル所ナリ但シ軍役ニ供スルモノハ此限ニ非ラス

占領地ニ於ケル官吏ニ關シ觀察ヲ下セハ第一ニ占領軍隊カ占領地ニ

於テ其地ノ知事長官屬官警部巡查ノ如キモノヲ任命スルハ其權内ニアルコトナレトモ第二ニ占領地ノ從來ノ官吏ハ自己ノ意ニ反シテ占領軍隊ノ強制ヲ受ケテ事務ヲ執ルノ義務アルカ「オツクスホルド」會議ノ提要及ヒ「ブルユツセル」ノ宣言第四條ニハ之レナシト爲セリ

占領軍隊カ占領地ノ官吏ヲ自由ニ免黜スルコトヲ得ルヤハ一ノ疑問ニシテ「ブルユツセル」宣言第四條ニハ占領軍隊ノ申出ニ服シテ引續キ其地ノ事務ヲ執ル者ハ占領軍隊ノ保護ヲ受クヘシ此等ノ官吏ハ自ら承認シタル義務ニ負カサル限りハ免黜又ハ責罰セララル、コトナシト言フト雖モ若シ免黜スルコト能ハストスレハ其官吏カ中間執務ノ間ニ占領軍隊ノ爲メニ危險且ツ不利益ノ事ヲナスモ是ヲ制止スルニ由ナキニ至ルノ不便アルヲ免カレス此等官吏ニシテ職務執行中ノ占領軍隊ニ對シ反問ノ處置アレハ軍法會議ニ於テ罰セラルヘク職務上ノ



犯罪アレハ平時ニ於ケルト等シク司法上ノ裁判ヲ受クルコト是レアル  
 ヲユツセル宣言第四條ノ記スル所ノ如シ  
 占領ノ事實ハ占領地ノ主權ヲ占領軍隊ニ移スモノニ非ラス故ニ占領  
 軍隊ハ只一時主權ノ行使ヲ實行スルモノニシテ所謂一時ノ行政ヲ行  
 フニ過キス故ヲ以テ從來占領國ニ行ハレタル法律憲法ハ依然トシテ  
 其効力ヲ失ハス只戰爭行為ニ必要ノモノニ限り破格トシテ占領軍隊  
 カ其他ノ憲法法律ノ實施ヲ妨害スルコトヲ得ルノミ是レアルユツセ  
 ル宣言第三條ニ於テ明記シタル原則ナリ  
 戰爭ニ牽連スルコトノミノ立法且ツ舊法ノ廢棄ニ非ラザル新規則ノ  
 發布ニ限り占領軍隊ノ權利ニ屬ストハ一般ノ通則ナレトモ尙ホ破格  
 トシテ其占領地ヲ永遠ニ所有セントノ目的ニテ占領シタル土地ヲ  
 占領シテ新法ヲ施サントノ希望ヲ以テ戰端ヲ開キ其企望ノ如ク占領

ヲナシタル時ハ占領軍隊ハ占領地人民政治上ノ利益及ヒ必要ヲ斟酌  
 シテ新憲法及ヒ新法律ヲ設ケ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシトハマルテ  
 ンスノ主張スル所ナリ  
 茲ニ注意スヘキ一點アリ一時ノ占領ト永久ノ領有ト混同スヘカラサ  
 ル事是レナリ大凡ソ抵抗ノ絶止平和條約ノ締結諸強國ノ認定若ハ時  
 日經過ノ効力ハ占領地ヲ戰勝國ノ領有トナシ戰勝國ヲシテ戰敗國ノ  
 總テノ權利ヲ繼承セシメ正當ナル一新領土ヲ創始セシムルコトヲ得  
 一時ノ占領ハ不可抗力ヨリ生スル已コトヲ得サル一ノ狀況一ノ事實  
 ニ過キス即チ占領軍ハ決シテ敵地政府ノ政權ヲ繼承スルモノニアラ  
 ス唯其權力ガ敵國政府ノ權力ニ駕シ之ヲシテ行動スルコトヲ得セシ  
 メサル力ヲ有スルノ事實アルニ止ル即チ占領地人民ハ進退維レ谷マ  
 リテ占領軍ニ服従スルモ常ニ其本國政府ニ忠實ヲ致スモノナルコト



ヲ忘ルヘカヲサルナリ故ニ占領軍モ人民ニ望ムコト寛ナラサルヘカ  
ラス又必要已ヲ得サルモノ、外ハ既設ノ制度ニ變更ヲ及ホスヘカ  
ス

占領ニ依リ敵國政府ハ占領地ノ社會生存ニ係ル諸機關ノ保全ヲ爲ス  
能ハス而シテ占領地ヲシテ社會ノ生存ヲ保持セシムルハ占領軍ノ權  
力ニ歸ス故ニ占領軍ハ占領地ノ秩序ヲ保持シ社會ノ生存ヲシテ全カ  
ラシムルノ目的ヲ以テ我カ爲シ得ベキ各般ノ方法ヲ盡サ、ルヘカラ  
ス是レ戰時公法ノ命スル人道上ノ義務ニシテ敵國人民ノ中立從順ニ  
對スルノ報酬ナリ之ニ對シテ占領軍ノ取ル所ノ方法ハ狀況ニ依テ變  
シ一定スヘカラス時トシテハ無爲ノ方策十分ナルコトアルヘシ即チ  
占領軍ハ社會ノ秩序ヲ紊サ、ルノミナラス社會的關係ノ安全ヲ保持  
スル主意アルコトヲ人民ニ於テ覺知セハ社會ノ秩序ハ自ラ整フニ至

ルヘシ

然トモ占領軍ハ積極的ニ人民ノ務ヲ幫助セサルヘカヲサルコト最モ  
多シ即チ地方官ニ對シ地方行政機關ノ活動ヲ促シ商工業ノ沈滞ヲ起  
シ郵便鐵道電信其他道路交通ノ便ヲ復シ祭祀ヲ復舊シ學校ヲ開カシ  
ムル等之ヲ要スルニ社會組織機關ノ運行ヲシテ平生ニ復セシムルコ  
トヲ要スヘシ占領軍カ此等ノ民政ヲ爲スニ當テ其ノ軍事ノ目的ヲ達  
スルニ必要ナル爲舊來ノ組織ニ變更ヲ及スハ何人モ妨クサル所ナリ  
又此民政ノ利益ヲ受ク諸般ノ便宜ヲ利用シ反抗ノ行爲ヲナスモノニ  
對シテ之ヲ處分スルハ占領軍カ當然所有ノ權利ナリ  
占領地社會ノ秩序ヲ保全スルノ最良法ハ既存ノ法令ヲシテ其効力ヲ  
繼續セシムルニ在リ民法及刑法ニ關シテハ特ニ詳論スルノ必要ナキ  
ヲ常トス何トナレハ人民カ民法及刑法ヲ遵守スルコトハ其社會ノ利



益ナルノミナラス占領軍ノ利益ナレハナリ之ニ反シテ政法行政法財政法ニ至テハ同一ニ論スヘカラス此等ノ法律ハ專ラ敵國政府ノ政治ニ適合シテ定メラレタルモノナレハ占領軍ノ利益ニ反對ナル規定ノ設ケアルヲ多シトス此ノ如キ場合ニハ占領軍ハ其施行ヲ禁シ若ハ之ヲ改正シ又ハ之ニ代フルニ良法善政ヲ以テセサルヘカラス故ニ占領軍ノ第一ニ注意スヘキ者ハ徵兵令ヲ停止シ又嚴刑ヲ設ケ敵國軍隊ノ召集ニ應シテ占領地ヲ出發スルモノヲ處分スルニ在リ又租稅ヲ敵國政府ニ納ムルコトヲ妨ケ之ヲ我カ軍ニ徵收スル爲ニ其租稅法ヲ停止シ既存ノ法令ヲ變更シ停止シ之ニ代フルニ新法令ヲ以テスルコトハ國際公法ハ認許スル所ナリ然トモ此權力ハ萬已ヲ得サル場合ニ當テ之ヲ使用スルコトハ占領軍ノ利益ナルハミナラス又從順ナル人民ニ對スル義務ナリトス

○征服者の權利

征服者ノ權利ハ戰爭習慣ノ改良スルニ從ヒテ變更シ毫モ古代ノ專制過刻ノ性質ヲ保存セサルニ至レリ其大原則ハ則チ唯戰勝者ノミニ確實ニ且ツ不可侵ノ權利ヲ附與セスシテ戰運ニ因テ失フタル所有地ハ其戰爭ノ進行中ハ尙ホ其舊主權者ノ相續權ヲ滅絕セザル者ナリトスルニ在リ故チ以テ征服者ハ其征服若シハ侵畧地ヲ贈予其他ノ方法ヲ以テ之ヲ處理スル時ハ恣ニ一時ノ權力及主權ヲ濫用スル者ト認定セラル可シ且又出奔君主ノ財産ニ就キ區別ヲ爲シ若モ君主ノ私有財産ニ關スレハ則チ其臣民ノ財産ヲ保護スル原則ヲ以テ其君主ノ財産ヲ保護スル者トス然リト雖モ若シ其征服者カ假令一時タリトモ敵國ノ領地ヲ所有スル時ハ土地人民回復權ヲ利用シテ歸國ノ場合ニ及テ之ヲ元所有主ニ返還スルヲ以テ其權力ノ濫用ヲ責メラルコトナクシテ



之ヲ所有スルコトヲ得ルナリ然リト雖モ同官許狀ハ征服國ノ實跡ヲ併呑スル者ナルヲ以テ私有地若クハ不動産ハ讓與認可ニ及バサル者トス征服地方ヲ第三者ニ對シ讓與シタル時ハ原所有主ヨリ新所有主ニ對シ回復ノ要求ヲ爲スコトヲ得又其改良價格外ノ辨償義務ヲ要セスシテ一般ノ所有主ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ル者トス是ヲ以テ侵畧地ノ所有權ヲ奪取スルノ缺妥ナルコトハ是レ理ノ明ナル者ナリ是故ニ征服者ノ特權ハ至重ナル者ニシテ主權ヲ施行シ公共歲入ヲ使用シ公共ノ團結政治及私法ニ關スル法令ヲ布クコトヲ得若シ其征服國カ立憲政治ナラシメハ其主權ヲ其君主ト人民トニ分配シ征服者ハ唯其君主ニ屬スル主權ヲ征服シタルノミナラス人民ニ屬スル主權ヲモ亦征服シタル者ナリ故ヲ以テ征服者ハ既設ノ憲法ニ循ツテ之ヲ統治スルモ或ハ我カ撰擇スル所ノ政法ニ循フモ隨意ナリ而シテ我撰擇スル所

ノ政法ニ循フコト往々之アル所ニシテ其新政ノ性質ハ純乎タル武斷政治ナリト斷定セラル、ナリ征服者ノ行爲及權力ハ戰ヲ終ヘテ平和條約ヲ締ヒ征服國ノ所有ナルコトヲ確定シ之ニ所有權ヲ歸シタル時ニ結了スル者ナリトス而シテ讓與條件ハ其平和條約ニ據テ斷定スルモノトス若シ之ニ反シテ征服者カ戰爭ノ間ニ其侵畧地ヲ失フカ若クハ平和ノ回復ニ依テ之ヲ保有セサル時ハ原所有者ハ再ヒ之ヲ占領スルヲ以テ土地回復權ヲ執行シ其權ニ據ツテ以テ敵軍ニ占領セラレタル財産カ原所有者ニ復歸スル時ハ從前ノ地位ニ復歸スルナリ是ニ於テ征服ノ間未定位地ノ關係ハ確定スルニ至ルナリ

### ○占領國民ノ尊敬

近世ノ戰時公法ニ一原則ヲ生出スルニ至レリ近時ノ風俗ハ此ノ原則ノ益々嚴格ニ適用セラレシコトヲ望ム所ノ者ナリ占領國民ノ尊敬即



チ是レナリ

占領國人民トハ占領地ノ住民即チ婦人小兒老人技術者農民其他總テ  
交戦ニ關與セス又軍隊ニ從屬セサル者ヲ謂フ

今日ニ於テハ昔時ノ如ク從順平和ナル人民ハ軍隊兵士ノ暴掠ニ放委  
セラル、モノニアラス歐洲西部ニ於テハ十七世紀及十八世紀ニ於ケ  
ルガ如キ過激ナル野蠻ノ行爲ハ今日ノ國際戰爭ニ於テ之ヲ見ント欲  
スルモ復見ルヲ得ザルナリ敵國ノ從順平和ナル人民ノ安寧ヲ保全ス  
ルコトハ占領軍ノ榮譽トスル所ナリ又文明ノ發達ニ伴ヒ風俗ノ順和  
ニ赴クニ從ヒ軍隊ノ紀律ハ戰爭ニ依テ過度ニ挑發セラレタル熱情ヲ  
緩和スルノ効ヲ奏スルニ至レリ

兵士ト人民トノ關係ニ付テハ兵士ハ其本國ニ於テ番衛ノ地位ニアル  
ト同一ノ義務ニ服セラル敵國人民ノ生命及身體ニ對スル暴行ハ重罪

ヲ犯スチ避クル如ク亦之ヲ避ケ慎マサルヘカラス家族ノ名譽權利ヲ  
尊重シ婦人小兒ヲ辱シムヘカラス又老人ヲ凌クヘカラサルコトハ其  
絕對ノ義務ナリトス殺戮恐迫不法ノ逮捕監禁誘拐其他凡ソ身體ニ對  
スル暴行財産風俗ニ關スル不正ノ行爲ハ平時戰時ヲ論セス又敵國ト  
本國ニ在ルトチ問ハス均シク是レ犯罪ナリトス故ニ此等ノ所爲ハ陸  
軍刑典ニ依テ處分セラルヘシ將校ハ須ラク其部下ニ此犯行ナキコト  
ヲ注意セサルヘカラス

人身ヲ尊敬スレハ從テ宗教上ノ信仰心ヲ尊敬セサルヘカラサルニ至  
ル宗教上ノ儀式カ占領軍自家ノ安全ヲ害セス又社會ノ秩序ニ危險ヲ  
及サザル限りハ占領軍ハ之ニ對シテ妨礙ヲ及スヘカラス占領軍ハ占  
領地ノ宗教ニ對シテ總テ不敬ノ行爲ヲ避ケサルヘカラス又成ルヘク  
寺院ヲ他ノ使用ニ供スルコトヲ避ケサルヘカラス然レトモ必要ナル



場合ニ於テハ移動病院兵隊ノ宿舍又其宗教ノ祭祀ニ供スル爲ニ寺院ヲ使用スルコトヲ得此寺院ノ使用ハ宗教上ノ感情ニ關スルヲ以テ實ニ萬已ムヲ得サル場合ニアラサレハ遠慮セサルヘカラサルモノトス亦之ヲ行フニ當テハ十分ナル注意ト平和ノ精神トヲ表彰スヘキコトヲ忘ルヘカラス

占領軍ハ占領地人民ニ對シ其本國ニ對スル愛國心ニ反對ナル行爲ヲ望ム可ラサルヲ原則トス是レ人身尊敬ノ原則ヨリ生スル所ナリ又占領軍ハ占領地主權者ノ權力ヲ承繼スルモノニアラストノ原則ヨリ生スル結果ナリ占領地人民ハ尙ホ其本國及其主權者ニ對シテ服從ノ義務ヲ有スルヲ以テ之ニ對シテ其義務ニ背反スヘキコトヲ強行スルハ文明的ノ行爲ニアラサルナリ占領軍カ占領地人民ニ向ヒ正當ニ要求シ得ル所ノモノハ彼等ニ對シテ其安寧秩序ヲ保全スル代リニ彼等ヲ

シテ占領軍ノ各般ノ行爲ニ對シテ妨礙ヲ醸サ、ラシムルニ在リ占領地人民ニ強テ其本國ニ向テ銃劍ヲ取ラシムルコトハ近世ノ戰時慣例及國際公法ノ共ニ認容セサル所ナリ若シ占領地人民中ヨリ壯丁ヲ募集シテ戰鬪ニ從ハシメ其本國ニ反抗シテ銃劍ヲ取ラシメハ敵國人民ノ反抗心ヲシテ却テ激越ナラシムルニ至ルヘシ然トモ時トシテ戰事ノ必要ニ應シテ其本國ニ對スル愛國心ニ反シ又身軀精神ヲ尊敬スヘキ原則ニ伴ハサル軍役ニ占領地人民ヲ使用スルコトアリ然レトモ此人役ノ徵發ハ次節ニ示ス場合ニ限り又其條件ヲ備フルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

敵國人民尊敬ノ原則ヨリ生スル結果ノ一ハ占領地人民ハ敵國政府ニ宣誓ヲ強行セシメラレサルニアリ占領ハ占領軍ニ主權ヲ付與セサルナリ此未タ主權ヲ保有セサル占領軍ハ如何ナル名義ニ於テ占領地人



民ニ永久又ハ一時服從ノ誓約ヲ要求シ得ルカ占領地人民ハ開戦以前ト同一ノ條件ノ下ニ於テ其本國主權ノ下ニ服從スルコトヲ止メサルナリ故ニ此ノ如キ状態ナルニ拘ハラス榮譽及愛國心カ爲スコトヲ禁止スル誓約ヲ占領地人民ニ向テ要求スルコトハ是レ暴爲ニシテ人類ノ良心ヲ敬重セサルノ行爲ナリ此點ニ付テハ近世戰時慣例及公法ノ學說相一致シテ戻ルコトナシ

歐洲近時ノ戰爭ニ於テ占領軍ハ占領地留守ノ官吏ニ對シテ尙ホ宣誓ヲ要請セサル者ナリ其官吏カ忠實ニ其職任ニ盡スヘキコトハ其一片ノ道德心ト確實ナル成績ニ依テ保證セラレタリ  
上文連述シタル原則ハ占領地内ニ在ル者ハ其國籍ノ如何ヲ問ハス總テ平和ナル人民ニ對シテ適用スヘキモノトス占領地内ニアル中立國人民ハ占領軍ニ對シテハ占領地人民ト同一ノ義務ニ服從セシメラル

然レトモ占領軍ハ中立國政府ト締結シタル條約ニ依リ中立國人民ニ對シテ殊別ナル特權ヲ與フルコトヲ得又政略上ヨリ中立國人民ニ向ヒ特殊ノ待遇ヲ爲スコトハ常ニ見ル所ナリ故ニ占領地内ニ在ル中立國人民ニ對シテハ確實ナル定則ナシ唯狀況ニ依リ時宜ニ依テ處置スルノ一法アルノミ之ヲ要スルニ中立國人民ハ全ク特殊ノ地位ニ置カル、モノトス故ニ彼等ハ交戦ニ關與スルコトハ最モ慎ミテ之ヲ避ケサルヘカラサルナリ

### ○侵地課金

凡ソ戰爭ハ兩國間ニ於ケル暴行ノ狀況ニシテ世人ハ此暴行ヲ以テ專制力ヲ逞フスル者ト思考スト雖モ尙開明國ノ間ニ於テ其交戦國ノ率由スヘキ習慣及ヒ規則ノ存スル者ナリ故ニ敵國ヲ害スル方法ニ於テモ亦正當ト不正當トノ區別ヲ存スル者ニシテ其正當方法ノ主要ナル



者ハ侵地課金徵發糧食掠奪及ヒ敵國內運輸品ノ竊掠是ナリ往時ニ在テハ一定ノ規則制限ナク其戰爭ハ唯暴行ノミチ是レ事トシ或ハ其ノ戰敗國ノ人民及財産ハ皆勝利者ノ掌中ニ歸シ又其敵軍ノ爲ニ襲撃ヲ蒙ルリ爲ニ其奪掠狼藉スル所トナルヲアリタリキ然レトモ漸ク各國人民カ戰事ノ恐怖スベキ兵害ヲ經驗シタルカ故ニ悉ク相一致シテ遂ニ其避クベカラサル災害ヲ規則ニ一任シタリ是レ全ク其災害ヲ防禦スベカラサルヲ以テナリ此規定ニ據レハ侵撃軍ハ其住民ノ奪掠其家屋ノ發燒ニ代フルニ其侵撃地方或ハ其戰敗市府ヨリ侵地課金即チ戰爭貢金ヲ略取スルノ方法ヲ用ヒタリ故ニ若シ其地ニ於テ此貢金ヲ支辨スル時ハ一切私産ノ保護ヲ保證シ而シテ要求スル所ノ物品ハ都テ之ヲ買收シ且代價ヲ支辨セサルベカラサルナリ但シ其市民並ニ一時其土民トナレル者ニ對シテ往々役務ヲ取ラシムルヲアルノミ

以上陳述セシ所ハ敵國ヨリ侵畧國ニ對シ徵集スル所ノ侵地課金ノ起源史ナリ而シテ公德或ハ國家道德ノ進歩シ且ツ戰爭ノ殘酷習慣ノ減少スルニ及ムテ海上戰爭ノ外ハ私産ヲ尊敬スルヲ以テ普通ノ規則ト爲セリ而シテ今ヤ其貢金即チ課金ナル者ヲ以テ最早發燒及ヒ奪掠ノ代用ト認メサルニ至レリ之ヲ詳論スレハ即チ其侵畧國ノ地方官吏ニシテ若シ其要求セラレタル貢金ヲ支辨スルヲ欲セス又之ヲ支辨スルヲ能ハスト宣言スト雖トモ之カ爲メ其敵國ニ發燒奪掠ノ權利ヲ與フルヲナク唯其敵國ヲシテ之ヲ暴力ニ訴ヘシムルニ止マルノミ故ニ侵地課金ナル者ハ其敵國ノ利ヲ謀ルタメ且其命令ニ因テ徵集セラレ、所ノ非常税金ト謂フベキモノナリ而シテ其徵集ハ之レヲ公平ニ處スルタメ其全額ノ賦課及徵集事務ハ一ニ之ヲ其地方官吏ニ委任スルヲ以テテ習慣ト爲セリ而シテ其最大要務ハ各自ノ資産ニ比例シテ



其出金額ヲ定ムルニ在リ而シテ其標準ハ通常稅ニ用ユル所ノ賦率表ニ循由スル者トス若一個人ニシテ其財產ノ比例上ヨリ過分ニ支辨シタル時ハ其地方政府或ハ其地方ニ向テ拂戻ノ權利ヲ有スルモノナリ之ヲ換言スレハ一個人ハ其資金ノ賦課地方ニ對シ要求權ヲ有スルモノニシテ若シ一地方カ過分ニ課稅ヲ賦シタル時ハ該地方政府廳ニ對シテ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ル者ナリ其他皆之ニ同シ

余カ已ニ述ベタル如ク其戰勝者ニシテ直ニ之ヲ暴力ニ訴ヘ其權力ヲ施行セムトスルハ是レ其地方官吏ニシテ資金徵集ヲ承諾セサル場合ノミニ限ルモノトス即チ其地方官吏ニ就キ前條ノ規則ニ據リ其要求稅金ヲ自ラ之ヲ徵集スルナリ然ト雖モ其國ノ事情ニ暗ク其職了スル所極メテ狹隘ナル時ハ其處分法ハ嚮ノ地方官吏カ施ス所ノ者ヨリモ專制ニ流レ易キノ傾アリ故ニ如此ノ侵地課金ヲ行フト雖モ是其敵國

私產ノ安全ヲ絶對的ニ保證スルモノナリト信スベカラス何トナレハ凡ソ敵國ノ勢力ヲ弱ムルハ是レ軍事上運動ノ一目的ナルヲ以テ其敵國財產ノ破壞ハ認許スル所ニシテ若其財產ヲ拋棄シテ敵國ノ占有トナラシメハ必ス敵國ノ勢力ヲ増ササルヲ得サルヲ以テナリ是ヲ以テ侵地課金ナル者ハ唯ニ其私產保護ノ爲ノミニ基キタル者ニアラサルノ一證ナリ故ニ花園葡萄園別莊及森林ノ如キハ之ヲ免稅スベキモノナリ然レトモ又其位地ヲ強固ニスル爲メ此ヲ破壞スルノ權利ヲ有スルモノナリトス

吾人ハ又侵地課金ト軍需徵發トノ區別ヲ一言セサルベカラス所謂軍需徵發ナル者ハ其臆裁ハ要求ニ屬シテ特殊ノ物品ヲ求ムルニ在リ故ニ其切迫ノ場合ニハ暴力ヲ以テ之ヲ行フナリ華盛頓氏ハ彼ノ獨立戰爭ノ時ニ當リ此語及此物ノ備ヲ造リタル人ナリ然レトモ其徵發ノ實



行ハ佛國ノ革命戰爭ニ於テ佛軍ノ施行シタルヲ以テ嚆矢トナス乃チ佛人ハ敵地ニ在ツテ徵發法ヲ完全ノ域ニ達セシメタル者ナリ  
 余ガ前段ニ陳述スル所ハ戰爭中ニ略取スル所ノモノニシテ之ヲ地方軍用貢金トモ稱スベキモノナリ而シテ又戰爭終結後特別ノ契約或ハ其條約文中ニ掲記シタル條件ノ爲ニ畧取セラル、貢金ナルモノアリ  
 今此ニ輓近ニ受授シタル貢金ノ例ヲ舉グレバ則チ一千八百八年九月八日及十一月五日ノ契約ニ據リ佛國ヨリ普魯西六百万ノ人民ニ對シ軍用貢金トシ一億四千万「フラン」ヲ要求セシガ如キ又一千八百十五年十一月廿日條約文第四條ニ基キ佛國三千万ノ人民ニ對シ同盟國ヨリ七億「フラン」ヲ要求セシガ如キ而シテ又一千八百七十一年二月條約ニ基キ佛國三千七百万ノ人民ニ對シ五十億「フラン」ノ貢金ヲ要求セシガ如キ是ナリ故ニ此ノ意ニ從テ軍用貢金ノ語ヲ解釋スレハ則チ戰時費

用支辨ナル語ト同一義ナルコトヲ知ルベキナリ  
 今夫レ或國ニ於テ國家全軀ニ關スル事件ヨリシテ軍用貢金ヲ支拂ハザル可ラザルニ至ル時ハ其國ハ如何ナル位地ニ立ツベキカ即チ一旦敵ノ爲ニ蹂躪セラレ且ツ貢金ヲ徵收セラレタル地方ニ對シ後日國家カ其主權ヲ回復スルニ至リシ時ハ其地方ガ負擔シタル金額ヲ其地方ニ辨償セザル可ラザルモノナルカ夫レ然リ豈ニ夫レ然ランヤ其國家ハ此費用ニ對シ毫モ關係無キ所ノモノニシテ國家ハ其命令シタル所ノ行爲ノミニ就キ其實任ヲ有スベキモノナレバナリ乃チ其國家ノ微弱ナルガ爲メ其地方ニ襲撃ヲ蒙リタルハ是レ他國ガ其國ヨリ一層超卓セル國力ヲ有スルノ場合ニシテ其結果ニ關シハ國家ハ之ガ説明ヲ爲スコトヲ要セラレザルモノナリ之ニ加フルニ若シ國家ガ斯ノ如キ辨償ニ對シ義務ヲ有スベキ原則ヲ定ムル時ハ實ニ危險ノ存スル者ニ



シテ乃チ其敵國侵畧ノ爲ニ其國家ヲ空乏ナラシメ敵國ヲシテ其國家ノ一部ニ君主タラシムルニ十分ナレハナリ  
 今翻考スルニ上ニ陳ベタル原則即チ政治利益ニ關スル普通思考ニ固着スル時ハ往々公平ヲ欠クコトアル者ニシテ今此ヲ例スレバ或一都府ニ住スル人民ニシテ其ノ田野別莊若クハ郭外ヲ犧牲ニ供シ其抵抗ヲ永續シテ其國ヲ救ヒタリトセンカ或一地方ニシテ其收穫及各種ノ資産ヲ破壊シ及ヒ敵軍ヲ惱マシ以テ敵軍ノ進行ヲ遲延セシメタル時ハ國家ハ其公利ノ爲ニ蒙ムリタル損害ニ對シ其地方ニ辨償スルハ是レ正當ト謂フベキナリ而シテ此公平ナル思考ハ若シ其國ノ軍畧ニ因リ其國ノ一部ヲ敵軍ニ放棄シテ其真正ノ防護線ヲ遙ニ後方ニ退ク時ノ如キニ於テモ亦之ヲ適用セラル、ナリ又其敵軍ノ占領セシコトハ全ク其地防禦ヲ委任セラレタル將校ノ失行ニ歸スル時モ亦此思考ヲ適

セハ則チ是レ最モ疑ハシキ適用ト謂フベキモノナリ又其最モ自然ニ此ノ適用ヲ觀ルモノハ則チ或地方ガ其地位上ヨリノ戰爭劇場トナリ往時ノベルシム國ミラン地方及ライン河地方ノ場合ニ於ケルガ如キ是ナリトス總テ此等ハ全ク法律ノ原則ニ反對セルモノニシテ即チ或ハ事情ニ適應セシメ或ハ曲ケ易キ公平ノ事情ニ適應セシメ一切ノ變化ニ伴フモノト謂フベキナリ

### ○課金及徵發

課金ト徵發トノ性質ヲ混淆スル者往々ニシテ之アリ徵發ハ物品ニシテ課金ハ金員ナリ金員ハ以テ軍隊ノ饑ヲ滿タシ寒ヲ防クニ足ラス、徵發ハ之ニ反ス是レ二者ノ逕庭アル所以ニシテ徵發ハ軍隊ニ必要ナルヲ以テ理由ト爲スニ足ルト雖モ金員ニ至リテハ口實ヲ以テ辨スルニ由ナシ是ニ於テカ課金ヲナスノ理由ヲ點見セサル可カラス普通ノ觀



察ニ依レハ金員ノ賦課ハ國際公法上不適法ノ處置ト稱セサルヘカラ  
ス、然ト雖モ未タ必スシモ之ヲ適法ニスルノ由理ナキニシモアラス、現  
ニ「ブリユツセル」宣言第四十一條ハ左ノ三個ノ種類ヲ分テ課金ノ合法  
ナル場合ヲ示セリ

第一 適法ニ徵收スヘキ租税ト同一ニ賦課スル課金

第二 徵發ス可キ物品ニ代ヘテ支償セシムル課金

第三 刑罰課金

學者中占領軍隊カ占領地ニ於テ人民ニ課金ヲ命スルヲ批難スル者ナ  
シトセス其金科玉條ト爲ス所ハ私有財産不可侵ノ原則ト抵觸スルト  
云フニ在リ而シテ實際課金ノ權利ハ歷史上軍隊ニヨリテ濫用セラレ  
タルコト頗ル多ク現ニ千八百七十年乃至七十一年ノ普佛戰爭ニ當リ  
普軍ニ軍隊課金トシテ佛國占領地ノ人民ヨリ莫大ノ金員ヲ徵收シタ

リ然レトモ歷史上不平ノ事實アリシヲ以テ理由ト爲シ其實質ノ善惡  
ヲ概論スルハ決シテ妥當ノ行爲ニアラス掠取又ハ破壊ニ代フルノ課  
金ノ不可ナルハ正當ナルモ私有財産不可侵ノ理由トシテ課金ヲ批難  
スルハ不當ナリ何トナレハ私有財産不可侵ノ理由ハ軍隊ノ必要ノ爲  
メニ打破セラル、モノナレハナリ徵發ノ正當ナル理由既ニ然リ論者  
カ徵發ノ私有財産不可侵ノ原則ニ抵觸スルヲ顧ミスシテ獨リ答テ課  
金ニ歸スルハ斷シテ不可ナリ

「ブルユツセル」宣言第四十一條ノ制限

第一 課金ノ徵收ハ一ニ占領國ニテ定メラレタル軍隊又ハ行政廳ノ  
命令ニ依ルニ非ラサレハ爲ス能ハサル事

第二 課金取立ノ方法ハ占領地在來ノ租税取立方法ニ從フヘキ事

第三 課金ヲ拂ヒタルモノニハ領收書ヲ交附スル事



何チカ徵發ト云フ曰ク交戰國一方ノ軍隊カ他方ノ土地ヲ占領シテ其地ノ不武装人民即チ軍人以外ノ者ヨリ食料飼料衣服運送器具及ヒ此等ニ用ユル建物ヲ強收強用スルコト即チ是ナリ占領軍隊カ徵發ヲ爲スチ得ルノ權利ハ職トシテ戰時國際公法上軍隊ノ需用ヲ充タスノ必要ヨリ生スルナリ即チ占領軍隊ハ暫ラク他國ニ滞在スルカ故ニ其徵發ヲ爲スノ必要アルモノニシテ元ヨリ徵發スヘキ物品ハ無制限ノモノニ非ラスシテ二種ノ制限アリ一ハ物件ノ制限ニシテ一ハ場合ノ制限ナリ

場合ノ制限トハ如何ナル時ニ於テモ徵發スルヲ得ヘカラサルコトヲ定メタルモノニシテ本國ヨリ送致シ又ハ其地ニ於テ正當ニ買收スルモ猶ホ缺乏ヲ來ス時若クハ本國ヨリ送致スルヲ得サル性質ノ者及ヒ本國ニ之レアルコトナクシテ只占領地ニノミ之レアルモノ、如キ茲

ニ始メテ徵發ヲナスチ得ルナリ故ニ近世ノ戰爭ニ於テハ務メテ本國ヨリ物品ヲ支給シ兵站部ノ整理ヲ圖リ敵地ノ供給ヲ仰カサルニ至レリ然リト雖モ軍隊ハ必スシモ常ニ本國ヨリ衣食ヲ仰クヘシトノ原則アルニアラス只軍隊ノ必用ヲ限度トシテ之ヲ占領地ニ徵發スルノ權利アルナリ

所謂物件ノ制限トハ其物品カ果シテ軍隊ニ必要ナルヤ否ヤヲ標準トシテ定ムヘキモノニシテ奢侈品贅澤品ノ如キハ如何ナル場合ニ於テモ徵發物件トナスコト能ハズ尤モ普佛戰爭ノ時普軍カ煙草ヲ徵發シタルヲ後ノ學者ニシテ不法ニ非ラスト認メタルコトアリ之ニ反シテ其食料飼料住居運送器具及ヒ此等ニ要スル建築物ノ如キハ場合ニヨリ徵發ノ目的物トナリ得ルモノナリ

又占領軍隊カ徵發物ヲ領收シタル時ハ受領證書ヲ交附スルヲ正當ノ



處置ナリトス「アリユツセル」宣言第四十二條末段ニ徵發ヲナシタル時ハ之ニ對シテ賠償ヲナスカ若クハ受領證書ヲ交附スルカ二者其一ヲ擇ハサルヘカラストアル是ナリ蓋シ徵收ヲ爲シタル現金ヲ渡シテ其代價ヲ支辨スルコト元ヨリ正當ノ行爲ナリト雖モ時ニ緩急アリ軍隊ニ金員匱乏アリ常ニ之レカ正當ノ方法出ツルコト能ハサルヲ以テナリ若シ夫レ金員ヲ支辨シタル後ニ非ラスンハ徵發ヲナスヲ得ストセシカ軍隊ノ爲ニ軍略ヲ誤マリ目前ノ勝敗ヲ犠牲ニ供セサルヘカラストアルコトアルヲ以テナリ又徵發ヲナシタルカ爲メニ領收書ヲ交附スルハ將來ニ於テ其ノ代價ヲ支辨セシカ爲ナリ

徵發ハ一個人ニ向テ之ヲナスカ若クハ町村役場等ニ之ヲ命スルカハ亦一個ノ疑問ナリ然レトモ實際ニ於テハ之ヲ役場ニ命スルコトアリ之ヲ一個人ニ命スルコトアリト雖モ其何レカ不正ナリト謂フコトナシ

シ唯實際先町村役場ノ如キ公共ノ團體ヲ代表スルモノニ向ツテ之ヲ命シ之ニ命スルコト不便ナル時若クハ是等團體ノ徵發ニ應セサル時始メテ一個人ニ對シ直接ニ之ヲ命令スルヲ以テ順序ヲ得ルモノトス

### ○兵害賠償

#### 一 自國軍ノ兵害賠償

戰爭ノ爲ニ國內ヲ荒耗シタル後破損敗壞ノ跡ヲ留ムル時ニ當テ其損害賠償ヲ平等ニ負擔スルノ理由アルヤ否曰ク此問題ハ全國ヲ通シテ攻撃セラレ其州邑ハ幾ムト同一ノ損害ヲ被ムリタル時ニ起ルヤアリト雖モ若シ唯其國ノ一部ノミ占領セラレ其他ハ敵軍ニ侵入セラレシテ其賠償金額ヲ等分スヘキ問題ヲ生シタル時ニ於テ甚シキ兵燹ヲ受ケタル各州邑カ其要求ヲ提出スルハ自然ノ勢ナリ其要求ハ殖民全體カ平等ニ被害セサル地方ト雖モ之ヲ起ス者ニシテ其基礎ハ其當ヲ



得タルヤ否其辨償賠償及損害賠償ノ等分ニ對スル理由アルヤ否余之ヲ畧論スヘシ

兵害賠償ノ問題ハ想像スルヨリモ大ニ錯雜ナル者ナリ先ツ其自國軍ノ爲ニ加ヘラレタル損害ト敵軍ヨリ被リタル損害トヲ區別セサルヘカラス其國ノ軍令ニ屬スル損害ハ平和間ニ起ル者ニシテ此場合ニ於テハ損害賠償ノ理由アルヲ以テ佛國ニ於テハ千八百四十一年五月三日ノ公用土地買収法ニ據テ之ヲ規定セリ戰時ニ於テ敵軍ノ離隔スル時ニ當リ之ト合戦ノ備ヲ爲ス場合ニ關シテハ千八百五十三年八月十日ノ布告第三十八項ニ於テ損害要償スキ制限權利ヲ予ヘタリ然レモ同布告第三十九項ヲ閱スルニ曰ク圍城ノ地位ニ在ル間ノ軍令若クハ敵軍ト對陣スル時ノ軍隊及分隊ノ爲シタル戰闘ノ行爲若クハ防禦手段ヨリ生スル破壊其他ノ損害及軍用ノ占領若クハ褫奪ニ就テハ損

害要償權ヲ予ヘスト此條項ハ千七百九十一年六月八日ノ布告中ニ見ヘサル所ナリ

其所謂ル戰闘ノ行爲トハ何ニ依テ之ヲ解釋スルカ同布告ニ於テハ之ニ定義ヲ付セス唯判決例ニ據テ二三ノ事例ヲ斷定スルノミ余其尤モ著名ナル者ヲ引證スベシ左ノ條件ハ損害要償權ヲ予ヘサル者ト斷言セラルヘシ陸軍總督ノ號令ニ依テ敵軍ト對陣シテ隊伍ノ運轉ヲ蔭蔽スル爲メ材木ヲ採伐スル事府知事ノ命令ニ依リ敵軍ノ要求ニ供スル爲メ若クハ敵軍ノ使用ノ爲メ材木ヲ移轉スル事敵軍ト對陣シテ佛將ノ號令ニ依テ火藥庫ノ爆裂ヨリ生シタル家屋ヲ破毀セシ事此規定ハ各州會ノ議決ニシテ佛國ニ於テ常ニ施行スル所ナリ行政長官ハ千八百七十一年九月六日法律ノ討議ニ據テ佛國ノ公民ニシテ攻撃ノ爲ニ損害ヲ蒙リタル者ニ賠償ヲ負擔セシムル理由ナシ唯其負擔ヲ輔助ス



ヘシト主張スル時ハ之ヲ控訴スルノ權利ヲ予ヘタリ  
 セリア氏ハ巴里府民カ自治一揆ノ間即チ千八百七十一年五月ノ榴彈  
 攻撃ヨリ生シタル損害要償事件ニ就キ異論ヲ主張シテ曰ク諸君ハ巴  
 里府地方ニ於テ吾人ノ攻撃シタル市部ノ富豪家ノ邸宅ノ改築ヲ要償  
 スト雖モ貧民ノ茅舎ニ就テ秋毫モ要求セサルハ何ソヤ諸君ヨ汝ハ汝  
 ノ特記スル所ノ地方ヲ實見セサルカ富豪家ノ邸宅ハ安クニ在ルヤ其  
 地方ヲ破壊シタル者ハ敵軍ニ非スシテ吾自國軍吾佛國吾國民軍ノ榴  
 彈及銃丸ノ爲ニ敗壞シタルモノニシテ毫モ國家生活ニ必要ナル秩序  
 ナ復立スルニ足ラサルナリ而シテ諸君ハ何ノ原理ニ由リテ此場合ノ  
 權利ヲ生スト斷定スルヤ原理ニ據レハ若シ政府カ偶發ニ非ラスシテ  
 熟考ノ後故意ニ決行シタル行爲ヨリ生セシ損害ニ對シテハ十分ノ賠  
 償ヲ負擔スヘキモノトス諸君ハ吾國ノ法律ヲ熟讀シ公法ノ原理ヲ講

究スレハ則チ此區別ノ常ニ存在スル者ナルヲチ看破スヘシ國家ナル  
 者ハ決シテ戰爭事變ノ爲メニ賠償ノ責ヲ負ハス唯其隨意故意及損害  
 豫知ノ原造者タル場合ニ限り之ヲ賠償スルノミト  
 余カ茲ニ引用シタル論題ノ後半ハ何ノ判決例ニ據リタルカチ知ルベ  
 カラスト雖モ亦卓論ナリト謂フヘシ且何人モ之ニ異議ヲ加ヘサルヲ  
 以テ先ツ國民軍ニ基キタル行爲及號令ヨリ生シタル損害ト國家ノ公  
 益ニ關スル者ハ其國庫ヨリ賠償スベキ者ト確定スベシ余ハ茲ニ千七  
 百九十五年十月二日ノ法律ニ據テ人民ノ一揆等ノ場合ニ就テハ佛國  
 各郡ヲシテ之ヲ負擔セシメ其被害者ニ賠償スルコトヲ命セシモ之ト  
 同一理ナル者ト證明シ得ヘシ

二 敵軍ノ兵害賠償

敵軍ノ兵害賠償ニ關スル佛國州會ノ議決ニ依シハ戰鬪ノ行爲ニ就テ



ハ毫モ賠償ノ責ヲ有セストノ單純ナル理論ニ基ケリ又千七百九十二年八月十一日及千七百九十三年八月十四日ノ法律ニ於テハ凡ソ公民タル者ハ國家ニ代リテ公民ノ被リタル一切ノ兵害即チ敵軍ノ攻撃ニ因テ蒙リタル一切ノ損害ヲ賠償スベシト斷言セリ其後千八百十六年ニ至リ一百万ノ金額ヲ被害地方ニ下賜シタリキ千八百七十一年九月六日ノ法律已後ハ判決例及立法部ニ於テモ亦多ク我引證スル所ノ第一條ヲ以テ賠償ノ原則ニ適用セリ其第一條ニ曰ク辨償ハ攻撃中軍用金ノ賦課貨幣物品ノ徵發罰金物件ノ賠償ニ服從シタル所ノ人民全躰ニ平分スベシト辨償ナル語ハ契約ノ結果ナリ政府ハ其權利ヲ認諾セシメ唯其扶助金及扶助物ヲ下賜セムト欲シ代理者ハ則チ賠償ヲ要求シ其使用語ハ双方ヲ満足セシメ難キ者ノ如シ然レハ辨償ナル語ハ賠償ト同一意ニシテ毫モ扶助ノ意ヲ有スル者ニ非ス

佛國ノ千八百七十三年四月七日ノ法律ハ之ト同一ノ効力ヲ有シ之ニ由テ國民共同主義ヲ組織シタル者ト認メラルヘシカシミルヘリニ一ノ論ニ云ク敵軍ヨリ賦課セラレタル軍用醜金若クハ軍需徵發ノ特別負擔ヲ侵畧地方ヤ若クハ諸種ノ被害ヲ負擔スル地方ニ賦課スルコトハ問題外ニ屬スル者ニシテ如是ノ負擔ハ全國民ニ及ホスベキ事實ニシテ此負擔ヲ全國各地方ニ分配スルハ得テ避クベカラサル者ナルヲ主張スルナリトポーフェーハ扶助金ナル語ヲ駁シテ曰ク侵畧地方ノ要求スル賠償ハ全國ノ原因タル損害ノ賠償ナリ故ニ全國ニ責任ヲ有スル者ナリト

此問題ニ就テハ日耳曼國ノ如ク重大ナルモノハ蓋シ天下ニ少レナルヘシ英國ニ於テハ其國疆ヲ圍繞スル沿岸ニ據テ防禦シ必至ノ場合ニ當テハ木壁ヲ以テ防禦スルカ故ニ重要ノ問題ニ非ス之ニ反シテ日耳



曼ハ古ヨリ歐洲ノ戰場ナリシカ故ニ兵害賠償論ハ夙ニ行ハレタリ既ニ千七百九十八年ニ於テウエーベル氏ノ兵害賠償及負擔分配論ヲルツベルクニ於テ出版セリ其書中ニ各論者ノ異見ヲ列叙シ佛國民法ニ於テハ戰爭ノ行爲ニ關スル賠償ヲ認承セサル者ト斷言シタル場合若クハ之ヲ偶然及天變ノ場合ニ於ケル偶發ノ行爲ト斷定シタル者ヲ歴論セリウエーベルハ之ヲ駁シテ曰ク若シ戰爭ノ行爲ヲ偶然ニ屬スル者ナリトセハ其一地方ハ他ノ地方ヨリ多分ノ災害ヲ受ケ其家屋及田園ハ他ノ家屋田園ヨリ多ク賠償ヲ得ル者ナラム然レモ其賠償ノ事實ハ毫モ偶然ニ屬セサルナリ國家ハ戰爭ヲ希圖シ之ヲ許容セリ之ニ依テ其損害賠償ハ自然ニ且避ケ難キ結果ニシテ是レ亦毫モ豫見シ難キ所ナリ宣戰國ハ此事件ヲ負擔スベキ者ニシテ負擔シ能ハサル各個人ノ爲スベキ所ニ非ズ若茲ニ迅雷ニ因テ類焼ヲ起シ地震ニ因テ家屋

ヲ破壊シ洪水ノ爲ニ敗毀スル時ハ是レ天變ノ一例ニシテ賠償ノ機會ヲ予ヘサル者ナリ蓋シ迅雷地震及洪水損害ハ要償ノ中ニ數ヘラレサレハナリ然リト雖モ砲丸ヲシテ園牆ヲ彈倒セシメ瀛車ヲシテ軌道ヲ誤走セシメハ則チ余ヲシテ賠償ヲ要求セシメ他人ノ訟庭ニ召喚セラレ、ヲ見ルヘシ

次ニアキリア法律ニ於テ己カ正當防禦ヨリ生シタル賠償ハ自己ニ責任ヲ負擔セズトノ法文ヲ引用シテ論スル者ナリ云ク若シ吾家ノ火災ヲ防禦スル爲ニ隣人ノ家屋ヲ燒却スルハ吾權利内ニ在リ之ト均シク國家ハ其國防ノ必要ヨリシテ人民ノ田園ヲ刈リ其森林ヲ伐リ其家屋ヲ毀ツトヲ得ベシトウエーベルハ之ヲ駁シテ曰クアキリア法律ハ私法ニシテ吾論スル所ノ場合ニ適用シ難シ是レ個人間ノ法律問題ニ非ラスシテ國民全躰ノ關係ニ於テ賦課シタル負擔ナレハナリト



茲ニ又ローデア法律ナル者アリ此法律タルヤ佛國商法第四百章其他ニ於テ參見スル所ニシテ船舶ニ於テ生シタル一切ノ損害辨償ハ共同義務ニシテ就中危難ニ際シ船足ヲ輕ムル爲メ海上ニ遺棄シタル貨物損害ハ之ヲ貨物所有主ニ賠償スベシ貨物所有主ハ其幾分ヲ負擔シ其他ノ人モ亦之ヲ分擔スベキ者ナリト斷言セリ此原則ハ駁撃外ニ在リ然レトモ此定例ヲ軍事ニ適用スル時ハ幸福ニ非サルベシ余ハ之ニ應用スベキ近時ノ定例アルガ故ニ之ヲ舍テ論セサルベシ

侵撃地方ニ下賜シタル賠償金ノ最近例ヲ茲ニ摘記スレハ千八百六十六年澳地利亞ノ内閣ハ講和ノ結了スルヤ否ヤ同年八月三日直ニ其損害金額ヲ査定スル爲メ調査委員ヲ指名シ之ニ辨濟及賠償ナル語ヲ使用セリ然レ未タ賠償ノ全額ヲ支辨セス撒遜尼ハ千八百六十七年六月十七日ノ議決ニ據レハ最も多額ナリシ者ノ如シ日耳曼ハ千八百七十

一年十四日ノ法律ヲ以テアルソースコロレイノ殖民ニ悉ク賠償ヲ予ヘ又同日伯林府ニ於テ委員ヲ任命シ戰爭ニ關シタル日耳曼船舶所有主ニ支辨スベキ賠償額ヲ議定セシメタリ之ヲ要スルニ近世ノ賠償法ハ損害ノ全額ヲ國民全體ニ賦課セサルニ至レリ蓋シ被害人民モ亦國民ノ一部ナルガ故ニ又重テ其分擔ヲ負ハサルベカラサレバナリ

### ○間 諜

間諜ニ關シテハ英佛ノ主義ト獨逸ノ主義ト觀念ヲ異ニセリ英佛主義ハ間諜ヲ以テ極メテ卑ムベキ行爲ナリトナセリハレツク曰ク君主ハ此背徳ノ行爲ヲ公然其臣僚ニ命スルコトヲ得ス故ニ之ヲ利用セント欲セハ賞祿ヲ與フルノ外ナシ即チ間諜ハ賞祿ノ爲ニ敵ヲ欺クモノナレバ其罪一身ニ歸スルモノナリト然レトモ獨逸主義ノ學者ハ之ニ反對ヲ表シテ間諜ハ愛國愛君心ノ發動ヨリ行フ所ノ行爲ナルカ故ニ之



ヲ酷待ス可キモノニ非スト云ヘリ、  
 間諜ハ敵ノ地位強弱目的等ニ付キ必要ナル報知ヲ獲得シテ以テ自國  
 ノ戦争ノ効果ヲ收メント欲スルモノニシテ國際公法上不當ノ所爲ニ  
 非ラス何トナレハ敵ノ軍狀ヲ知悉スルハ交戦者ニ取リテ必要歟クハ  
 カラサルモノナレハナリ加之交戦國雙方ハ實ニ此等ノ方法ヲ採ルノ  
 權利ヲ有スレハナリ平時ニ於テモ他國ノ狀況ヲ窺ハンカ爲メニ間諜  
 ヲ派遣スルモノニシテ平時ニ於テハ政事上ノ間諜ト稱シ戰時ニ於テ  
 ハ之ヲ軍事上ノ間諜ト稱ス平時ニ於テ此等ノモノアルハ敢テ妨ケナ  
 キ所且ツ又戰時ニ於テモ學理上ヨリモ承認セラレ實際上ヨリモ普チ  
 ク一般ニ使用セラル此等ノ方法ヲ用フル決シテ廉潔ニ非ラスト雖モ  
 此方法ヲ用フルト否トハ毫モ交戦國ノ權利ヲ侵シ又ハ義務ニ負キタ  
 ルモノニアラス、

秘密ニ偵察ヲナス時ハ之ヲ間諜ト稱シ嚴峻ナル方法ニ依リテ處分セ  
 ラル例ヘハ之ヲ銃殺又ハ縊首シテ之ヲ殺戮スルカ如シ間諜ハ斯カル  
 殘酷ナル結果ヲ受クルモノナルヲ以テ間諜ノ定義ヲ定ムルコト極メ  
 テ必要ナリ故ニアルユツセル宣言ハ明カニ之カ定義ヲ下シテ「秘密又  
 ハ不正ナル口實ヲ設ケテ敵軍ノ或ル場所ニ赴キ敵軍ノ狀況ヲ自國ノ  
 軍隊ニ知ラシメ又ハ知ラシメント試ムルモノヲ間諜ト云フ」ト云ヘリ  
 世人多クハ戰時職務中逮捕セラレタル間諜ハ判決ヲ待スシテ即坐ニ  
 銃殺又ハ絞殺スルノ權アルモノト思料スト雖トモ是レ謬見ノミ間諜  
 ハ前定ノ判決ナクシテ之ヲ殺シ又ハ罰スルヲ得ス間諜ノ告訴タルヤ  
 往々濫リニ提起セラル、モノナルハ人ノ知ルトコロナリ蓋シ國際公  
 法ハ凡テ刑罰ノ執行前必ス犯人ヲ裁判スルノ義務ヲ負ハシメ以テ屢  
 ヲ無實ノ誘惑ヨリ生スル危險ト過酷トヲ豫防スルモノナリ佛國ノ法



律ニ依レハ間諜ハ軍法會議ニ於テ裁判スベキモノトス故ニ凡ソ將校ハ其司令任務ノ如何ヲ問ハス間諜ノ處置ノ現行犯トシテ逮捕セラレ若ハ告訴セラレタル者ノ上ニ簡易ノ手續ヲ以テ執行ヲ命スル權ナシ若シ敢テ之ヲ命セハ職權ノ濫用タルヘク又裁判權限ノ侵奪ト爲ルベシ則チ被告ヲ制縛シ且之ヲ管轄官衙ニ引渡スヲ以テ足レリトス又經忽ナル誤判ノ捕縛ヲ爲ザ、ルコトヲ戒慎スベキナリ間諜ノ重ナル特徴ハ遂行スル目的ヲ陰秘スルニ在リ此目的トハ敵ニ通知スル爲ニ狀報ヲ探求スルヲ謂フ固ヨリ詐陰ナル者ナクレハ間諜ノ所爲ナギナリ是ニ於テ乎制服ノ軍人カ我作戰ニ必要ナル偵察ヲ爲サンカタメニ敵線内ニ公然進入スル者ハ決シテ間諜トシテ遇セラレベキモノニアラス渠等ハ兵力ニヨリ擊退セラレヘク又抗拒スル時ハ殺サルベシ然レトモ其逮捕セラレ又ハ降伏シタル時ハ軍虜ノ特權ヲ享クルノ權利アルナ

リ反之シテ何人ト雖モ敵ニ通知スルノ意思ヲ以テ或ハ陰密ニ或ハ虛偽ノ口實ニ依リ被占領地方ニ於テ狀報ヲ集收シ又ハ集收セントスル者ハ凡テ間諜ト看做サル此犯意ノ有無ハ情狀ニ依リ推測セラル、モノナリ而シテ敵人ニシテ假扮シテ城塞又ハ屯營内ニ進入スル者ハ是レノミニテモ敵對ノ目的ヲ有スルモノト看做サレ依テ處斷セラルヘシ且佛國ノ法律ハ間諜又ハ公然派遣セラレタル敵人ヲ情ヲ知リテ藏匿シ又ハ藏匿セシメタル者ハ間諜ヲ以テ論シ其本刑ニ照シテ處斷スルモノトス

間諜ノ所爲ノ豫備ハ刑法ノ通則ニ從ヒ本刑ニ照シテ處斷セラルヘシ間諜ノ罪ハ死刑トス然レモ其軍人ニ非ルモノニシテ情狀酌量スヘキ時ハ裁判官其刑ヲ減輕スルヲ得國際公法ハ間諜ノ愛國心ニ出テタル者ト利益其他ノ賤劣ナル感情ノ爲ニスル者トヲ區別セス一切之ニ死



刑ヲ適用スヘキモノトス然レトモ情狀酌量スヘキ時ハ裁判官ハ必スシモ常ニ死刑ヲ適用セサルノ職權アリ即チ之ヲ以テ法律ハ忠烈ノ愛國者ト賣心ノ劣奴トヲ同班ニ處罰セサルノ手段ヲ與ヘタリ且又間諜ハ其職務中逮捕セラレタルモノニアラサレハ之ヲ訴追及處罰スルヲ得ス間諜ノ所爲ヲ行ヒタル後所屬軍隊ニ復歸シタル軍人又ハ被侵略地方ヲ偵諜シタル後非占領地ニ歸來シタル通常人ノ孰レタルトテ問ハス後日戰鬪ノ際若ハ住所地ノ占領ト共ニ敵ノ手中ニ落ツルコトアルモ其舊所爲ニ就テ論セラル、コトナシ

間諜ニ關スル國際公法及佛國法律ハ上ニ述ヘタルガ如シト雖モ千八百九十九年七月廿九日ニ至リ同盟諸國ハ和蘭國海牙ニ於テ万国平和會議ヲ開キ陸戰ノ法規慣例條約ヲ締結セリ下文ノ海牙條約ヲ參照ス

## ○ジエ子ヴァ條約

「ジエ子ヴァ」條約トハ該名稱ノ市ニ於テ歐洲十二ヶ國ノ派遣員ニ依リ協定セラレ千八百六十四年八月二十二日調印セラレタルモノナリ、爾後數多ノ邦國之ニ加盟シ我日本皇帝陛下ハ明治十九年十一月十五日ヲ以テ之ニ加盟シ給ヘリ

千八百六十四年八月二十二日ノ「ジエ子ヴァ」條約

佛蘭西皇帝陛下、バード大公殿下、白耳義國王陛下、丁抹國王陛下、西班牙女皇陛下、ヘッス大公殿下、伊太利國王陛下、和蘭國王陛下、葡萄牙及アルガルブ國王陛下、普魯士國王陛下、瑞西聯邦、ヂェルタンベール國王陛下ハ各其力ノ及フ限リ戰爭ノ避クベカラサル害惡ヲ緩和シ無要ノ殘酷ヲ廢止シ且戰場ニテ負傷シタル軍人ノ狀態ヲ改良セント欲シ此レカ爲ニ一ノ條約ヲ締結スルニ決シ各其全權



委員ヲ任命スル左ノ如シ

(全權委員ノ氏名省略)

各全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 移動病院及陸軍病院ハ局外中立ト見做シ患者若ハ負傷者ノ該病院ニ在院ノ間ハ交戦者之ヲ保護シテ侵スコト勿ルヘシ但移動病院及ヒ陸軍病院ハ兵力ヲ以テ之ヲ守ル時ハ其局外中立タルノ資格ヲ失フモノトス

第二條 移動病院及陸軍病院ニ於テ任用スル人員即チ監督員醫員事務員負傷者運搬員並ニ説教者ハ各其本務ニ従事シ且負傷者ノ入院スヘク若ハ救助スヘキ者アル間ハ局外中立ノ利益ヲ享有スルモノトス

第三條 前條ニ掲ケタル各員ノ従事スル移動病院若ハ陸軍病院ハ敵軍ノ占領ニ係ルト雖モ各員ハ依然其本務ヲ行フコトヲ得ヘク其屬スル隊ニ再ヒ加ハル爲退去スルコトヲ得ヘシ前項ノ場合ニ於テ各員其職ヲ罷ル時ハ占領軍隊ヨリ敵軍ノ前哨ニ之ヲ送致スヘシ

第四條 陸軍病院ノ器具什物等ハ交戦條規ニ從テ處置スヘキモノナリ故ニ該病院附屬ノ各員ハ其退去ノ際各自ノ私有品ヲ除クノ外爾餘ノ物品ヲ携帯スルコトヲ得ス

但移動病院ハ前項ノ場合ニ於テモ其器具什物等ヲ保有スルコトヲ得

第五條 負傷者ヲ救助スル土地ノ住民ハ侵スコトヲ得ス且之ヲシテ其自由ヲ得セシメサルヘカラス



交戦國ノ將官ハ住民ニ慈善ノ舉ヲ慫慂シ且慈善ノ舉ニ依テ局外中立タルノ資格ヲ有スルコトヲ得ヘキ旨ヲ豫告スルノ責アルモノトス

家屋内ニ負傷者ヲ接受シ之ヲ看護スル時ハ其家屋ヲ侵スコトヲ得ス又自己ノ家屋ニ負傷者ヲ接受スル者ハ戰時課税ノ一部ヲ免カレ且其家屋ヲ軍隊ノ宿舍ニ供用スルコトヲ免カルヘシ

第六條 負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ論セス之ヲ接受シ看護スヘシ司令長官ハ戰鬥中ニ負傷シタル兵士ヲ速ニ敵軍ノ前哨ニ送致スルコトヲ得但此ノ時ノ狀勢ニ於テ之ヲ送致スルコトヲ得ヘク且兩軍ノ協議ヲ經タル場合ニ限ルモノトス

治療後役兵ニ堪ヘスト認めタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

又其他ノ者ト雖モ戰爭中再セ兵器ヲ帶ヒサル旨盟約シタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

患者負傷者退去スル時ハ其之ヲ率フル人員ト共ニ完全ナル局外中立ノ取扱ヲ受クベシ

第七條 陸軍病院移動病院並ニ患者負傷者退去ノ標章トシテ特定一様ノ旗章ヲ用ヒ且其傍ニ必ス國旗ヲ掲クヘシ

局外中立タル人員ノ爲ニ臂章ヲ裝附スルコトヲ許ス但其交附方ハ陸軍官衙ニ於テ司ルヘシ

旗又ヒ臂章白地ニ赤十字ヲ畫ケルモノタルヘシ

第八條 此條約ノ實施ニ關スル細目ハ交戦軍ノ司令長官ニ於テ其本國政府ノ訓令ニ從ヒ且此條約ニ明示シタル綱領ニ準據シテ之ヲ規定スヘシ



第九條 此締盟各國ハ「ジュネツア」會議ニ全權委員ヲ派遣セザリシ政府ニ此條約ヲ示シ其加盟ヲ請フコトヲ約諾セリ因テ之カ爲議事録中餘白ヲ存ス

第十條 此條約ハ批准ヲ受クヘキモノトス而シテ其批准書ハ「ベルヌ」ニ於テ四月以内若ハ其以前ニ交換スベシ

右證據ノ爲各全權委員ハ條約書ニ署名花押スルモノナリ

千八百六十四年八月二十二日「ジュネツア」ニ於テ之ヲ作ル

此條約ノ批准書ハ千八百六十五年六月二十二日「ベルヌ」ニ於テ交換セラレ佛國ハ翌七月十四日ノ勅令ヲ以之ヲ頒布セリ

故ニ此條約ハ少クモ均シク之カ遵守ヲ諾約シタル諸國ノ間ニハ履行ノ義務アリ今我國トノ間ニ此關係ヲ有スル諸國ヲ舉クレハ左ノ如シ  
澳太利、バアド大公國、バビエール、白耳義、噠馬、西班牙、北米合衆國、大不利

顛、希臘、ヘッス大公國、伊太利、メクレンブウルシユヱラン大公國、モンテツクロ、和蘭、葡萄牙、普魯士、羅馬尼、露西亞、措遜、瑞典、諾耳威、瑞西、土耳其、ツエルタンベール、

凡ソ「ジュネツア」條約ノ條款ニ背クハ公式盟約ノ渝犯ナリ而シテ別ニ制裁無キニ依リ此條約ノ保維セラル、ト否トハ軍隊ノ名譽ニ一任セラル、モノナリ故ニ陸軍官衙ハ遍ク此條款ヲ熟知恪守セシムル様力メサルベカラス

兵力ノ侵害ヲ受ケサル權ヲ有スル者ハ無識ナル兵士ノ爲ニ虐待セラレ又ハ捕縛セララル、ノ虞ナクシテ自由ニ其本務ニ従事スルヲ得セシメサルヘカラス、又何人ト雖モ故ナクシテ「ジュネツア」條約ノ利益ヲ受ケントシ且不當ニ其標章ヲ樹ツルコトナカラシムルヲ要ス、彼ノ輜重車輛若ハ軍事、々務所ヲ赤十字標章ニ依リ保護セントスル如キハ則チ



詐略タルヘシ、其他侵害ヲ受ケサル權ヲ有スル者ハ自己ノ特權アル地位ニ對シテ負擔セル責務ニ背クノ處爲ナキ様深ク注意セサルヘカラス

條約違犯ノ所爲ハ直チニ之ヲ陸軍官衙ニ申告セサルヘカラス而シテ該官衙ハ之ヲ鎮壓シ矯正スル爲ニ必要ノ處置ヲ取ルヘシ

千八百六十四年ノ條約ハ千八百六十八年十月二十日更ニ「ジュネヴア」ニ歐洲諸大國ノ委員ヲ集メテ開キタル新會議ニ於テ協定セル追加條約ヲ以テ補充セリ、但種々ノ原因ニ依リ追加條約ハ記名各國ノ批准ヲ經サルヲ以テ從テ未ダ遵守ノ効力ヲ生セス、然レトモ千八百七十年普佛戰役ノ始メニ當リテハ兩交戰國ハ互ニ其交戰中該條約ヲ履踐センコトヲ約シタリ且該條約ハ深ク慣習ヲ陶成シ特別ノ條約ナキトキハ實際之ヲ適用セサルヲ得サルニ依リテモ明カニ其適實ナルヲ證スル

ニ足レリ、故ニ之カ全文ヲ知ラサルヘカラス

出陣負傷軍人ニ係ル千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ付

千八百六十八年十月二十日「ジュネヴア」ニテ調印セル追加條項

北獨逸、澳太利、バード、パヒエール、白耳義、噠馬、佛蘭西、大不利頓、伊太利、和蘭、瑞典、諾威、瑞西、土耳其、ウユルタンベール、各政府ハ軍隊出陣中ニ於ケル負傷軍人ノ狀態ヲ改良スル件ニ關シ千八百六十四年八月二十二日「ジュネヴア」ニテ締結シタル條約ノ利益ヲ海軍ニ及ホシ且該條約ノ或ル條項ヲ一層精確ナラシメンコトヲ欲シ各其委員トシテ………ヲ任命セリ

之カ爲ニ正當ノ權限ヲ有スル各委員ハ其政府ノ同意ヲ條件トシ左ノ諸條ヲ約諾セリ

第一條 原條約第二條ニ指定セル人員ハ其從事スル移動病院又ハ



病院ノ必要ニ應シ其院敵軍ノ占領ニ係ルト雖モ引續キ在院患者及負傷者ノ看護ニ任スヘシ  
其退去センコトヲ請求スルトキハ占領軍隊ノ司令官之カ出立ノ時ヲ定ムヘシ但軍事上ノ必要アル場合ニ於テ暫時ヲ限ルノ外之ヲ遅延スルコトヲ得ス

第二條 局外中立タル人員敵軍ノ掌裡ニ落チタルトキ中立タル取扱ノ全部ノ享有スル様各交戦國ニ於テ確保スルノ措置ヲ爲スヘシ

第三條 原條約第一條及第四條ニ依ル資格ヲ有スルモノ、中移動病院ノ名稱ハ陣中病院其他患者及負傷者ヲ收容スル爲軍隊ニ從ヒテ戰場ニ在ル所ノ臨時假設院ヲモ含ムヘシ

第四條 軍隊ノ宿舍及戰時ノ賦課ニ係ル負擔ノ配當ハ原條約第五

條ノ主旨及千八百六十四年ノ議事録ニ登載セル除外例ニ準據シ其住民ノ表示シタル慈善心ニ應シ衡平ナル程度マテヲ免除スヘキモノト心得ヘシ

第五條 將校ニシテ其在軍カ軍隊ノ狀勢ニ係ルモノヲ除クノ外凡ソ敵軍ノ掌裡ニ落チタル負傷者ニ就テハ原條約第六條第二項ノ規定ニ從ヒ其ノ役務ニ堪ヘスト認メラル、者ニ非スト雖モ戰爭中其ノ再ヒ兵器ヲ帶ヒサルコトヲ誓約シタル者ハ治愈後若ハ成ルヘク其前ニ之ヲ本國ニ送還スヘキ旨原條約第六條ヲ増補ス  
(第六條以下海戰ニ關スル條規ハ之ヲ略ス)

第十五條 此公約ハ原本一通ヲ作り瑞西聯邦ノ記録局ニ之ヲ保管スヘシ

此公約ノ謄本一通宛ヲ千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ記



名シ又ハ爾後條約ニ加盟シタル各國ニ送致スヘシ

右證據トシテ下名ノ委員ハ此追加條約案ヲ製定シ之ニ調印スルモノナリ

千八百六十八年十月二十日「ジエチヴァ」ニ於テ之ヲ作ル

「ジエチヴァ」條約ノ養成シタル慣例ニ適合セント欲セハ該條約ノ全文ヲ熟知スルノ外其或ル箇條ノ註釋ヲモ知ラサルヘカラス  
其第一條中ニ移動病院及陸軍病院ハ兵力ヲ以テ之ヲ守ル時ハ其局外中立タルノ資格ヲ失フコトヲ言ヘリ然レトモ劫掠者ヲ防ク爲ニ之ニ衛兵ヲ駐在セシムルモ其中立タルノ資格ニ妨ケナシ但此衛兵ニシテ拿捕セラレタルトキハ別ニ特權ヲ有セス通常ノ軍虜ト看倣サルヘシ衛生ノ任務ヲ帶フル者カ兵力ニ依リ侵サレサルノ權ヲ享受スルハ人道ノ本務ヲ行ヒ加フルニ直接ニ敵對ニ與ラサレハナリ故ニ此職ヲ執

ル者ノ戰鬪スルヲ禁ス然レトモ特別ノ狀勢ニ依リ自己ノ生命ヲ防衛スルノ必要ニ遭ヒタルトキハ戰鬪ニ由リテ其資格ヲ害フコトナク又其常ニ兵器ヲ携帶スルモ毫モ妨ケアルコトナシ

「ジエチヴァ」條約(第二條)ハ官命ニテ軍隊ノ衛生勤務ニ任シタル人員ニ就テノミ兵力ニ侵サレサルノ利益ヲ明規シ負傷者救護ヲ目的トスル私社ノコトヲ記サ、ルナリ而カモ尙ホ此等私社ニ同一ノ特權ヲ與フルノ慣習アリ但通常之カ弊害ヲ防ク爲ニ其社員ハ特定ノ徽章ヲ付シ所持人ノ人相書及自署アル身元證明書並管轄官廳ノ認可狀ヲ有スヘキモノナリトス

死者―遺族ノ利益及戶籍ノ整理上交戰者ハ味方ノ權力内ニ委セラレタル死者ノ氏名ヲ互ニ通知スルモノトス故ニ縱令ヒ戰場ニ在リテモ敵ノ死者ヲ埋葬スルニハ必ス其手帳ヲ遺留シ手帳ナキトキハ其聯隊



及中隊ノ番號及其何某ナルヤヲ定ムルニ足ルヘキ一切ノ徵證ヲ收容セサルヘカラス  
右ノ諸證左ハ成ルヘク速カニ之ヲ敵軍ニ通知シ同時ニ死者ノ所持セ  
ル私有物ヲ交付スヘキモノトス

○聖彼得堡宣言

シエチヴア條約訂盟已來未タ幾ナラスシテ同盟諸國ハ露帝陛下ノ發  
議ニ基ゾキ慘烈ナル傷痕ヲ避ケシメント欲シ遂ニ公然ノ協議ヲ以テ  
爆發性發射物ノ使用ヲ禁制スルニ至レリ其條文左ノ如シ

宣言

靈西亞皇帝内閣ノ發議ニ由リテ開明國間ノ戰爭ニ於テ或ル種類ノ發  
射物ノ使用ヲ禁止スルノ適當ナルコトヲ審査スル爲ニ萬國兵事委員  
會ヲ聖彼得堡ニ開キ而シテ此委員會ハ全會一致ヲ以テ人道ノ命スル

範圍内ニ於テ戰爭上ノ必要ヲ控制スヘキ限度ヲ一定シタルニ付キ委  
員ハ各其政府ノ命スル所ニ依リ左ノ如ク宣言スルノ權ヲ有ス  
開明進歩ノ結果ハ成ルヘク戰爭ノ災害ヲ輕カラシムルニ在ルコト戰  
時ニ於ケル各國唯一ノ正當ナル目的ハ敵國ノ兵力ヲ弱ハムルニ在ル  
コト此目的ヲ達スルニハ成ルヘク多數ノ人ノ戰鬥力ヲ奪フヲ以テ充  
分ナルコト既ニ戰鬥力ヲ失ヒタル人ノ苦痛ヲ徒ラニ増加シ若ハ其死  
亡ヲ免ル能ハサラシムルカ如キ兵器ヲ使用スルハ右ノ目的ヲ超過ス  
ル者ナルコト以上ノ理由ナルヲ以テ此類ノ兵器ヲ使用スルハ人道ノ  
法則ニ反スルモノタルヘキコトヲ信スルニ依リ締盟各國ハ彼我ノ間  
ニ戰費ヲ生シタル場合ニ陸地又ハ海上ノ軍隊ヲシテ總テ重量四百ク  
ラムニ滿タサル爆裂彈若ハ爆發性又ハ燃燒性ノ物料ヲ填裝セル各種  
ノ發射物ノ使用ハ相互ニ差控ユヘキコトヲ協約スルモノナリ



締盟各國ハ聖彼得堡ニ開キタル萬國兵事委員ノ會議ニ其委員ヲ派遣セザリシ各國ニ對シ現約定ニ加盟センコトヲ請フヘキモノトス此約定ハ締盟國若ハ加盟相互ノ二ヶ國若ハ數ヶ國間ニ於ケル戰爭ノ場合ニアラサレハ遵守ノ義務ナク從テ締盟者若ハ加盟者ニアラサル國ニ對スル場合ニ於テ適用セラレサルモノトス

此約定ハ締盟國若ハ加盟國間ノ戰爭ニ於テ締盟者若ハ加盟者ニアラサル一國カ交戰國ノ一方ニ加參シタルトキモ亦遵守ヲ停止セラル、モノトス締盟國若ハ加盟國ハ後日科學ノ進歩上軍隊ノ兵具カ改良ヲ經タルニ臨ミ現約定ニ依リ設定シタル原則ヲ維持スル爲及戰爭上ノ必要ト人道ノ法則トヲ調和スル爲ニ精確ナル發議カ提出セラル、トキハ何時ニテモ更ニ協議スヘキコトヲ茲ニ豫メ期シ置クモノナリ

千八百六十八年十二月十一日(露曆十一月廿九日)聖彼得堡ニ於テ之

ヲ作ル

右宣言ハ澳太利匈牙利バビエール白耳義噠馬佛蘭西大不利頓希臘伊太利和蘭波斯葡萄牙普魯士舊日耳曼聯邦北部ノ諸國露西亞瑞典諾威瑞西土耳其ウエルタンベルノ各國ヲ羈束シ從テ該宣言ノ示證セル約束ハ前記諸國中ノ二ヶ國若ハ數ヶ國ノ間ニ起ル一切ノ戰爭中正直ニ遵守セラレサル可カラス蓋シ佛國ニテハ該宣言ハ千八百六十八年十二月卅日ノ勅令ヲ以テ裁可頒布セラレタリ蓋シ戰時法規ニ依リ既ニ禁止セラレタル手段ヲ使用セントスルコトヲ以テ他ヲ脅嚇スヘカラス刑法ニテハ犯罪行爲ヲ加ヘンコトヲ以テ人ヲ脅嚇スルコトハ或ル場合ニ於テ罰スヘキ所爲タルコトアリ戰時法規ニ於テモ亦同シトス法ノ禁止シタル殘酷ノコトヲ擬シテ他ヲ威嚇シ自ラ爲ニスルハ縱令眞ニ之ヲ行フノ意ナキトキト雖モ是レ自己ノ誠意ヲ沒シ又敵人ニ對



シテ信ヲ破ルモノト謂フヘシ

### ○海牙條約

昨年五月和蘭國海牙ニ開會セル萬國平和會議ハ戰爭ノ禍害ヲ避ケ永  
久平和ノ幸福ヲ世界ニ享受セシメントスル露國皇帝陛下至聖至仁ニ  
出デタリトイヘドモ世界ノ現狀ハ終ニ皇帝陛下ノ圓滿ナル理想ヲ實  
現セシムルニ至ラズ其結果ノ其目的ニ副ザリシハ全世界ノ共ニ認ル  
所ナリ然レ共平和會議ハ全部失敗ニアラズシテ戰爭ノ危害ヲ少ナク  
スルニ足ルベキ國際法上ノ原則ニ對シ多少ノ増補修正ヲ與ヘ世界列  
國ノ共同承認ヲ得タル點ニ於テ少カラザル成效ト謂ハザルベカラズ  
我が日本帝國ハ之ニ關スル條約及ビ宣言ニ加入シ今上天皇陛下ノ批  
准ヲ經テ公布セラル、ニ至リタルハ殊ニ國民ノ欣バザルヲ得ザル所  
ナリ而シテ平和會議ノ閉會後恰モ一年ニシテ開始セル北清ノ事變ニ

就テ列國ガ現ニ行ヘル所ト博愛ヲ旨トスル平和會議ノ決議事項トテ  
對照スレバ予輩自ラ一種ノ感ナキヲ得ズトイヘトモ此ノ如キハ日本  
帝國ノ關スル所ニアラズ帝國ガ駭々トシテ平和會議ノ旨トセル所ヲ  
實行ニ現ハセルハ特ニ予輩ノ欣バザルヲ得ザル所ニシテ又實ニ國民  
ノ慶ナリト謂ツヘキナリ

### ○陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約

獨逸國、普魯西國皇帝陛下、奧地利國ボヘミヤ國、洪牙利國皇帝陛下、白耳  
義國皇帝陛下、丁抹國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、并同皇帝陛下ノ名ヲ  
以テスル攝政皇后陛下、亞米利加合衆國大統領、墨西哥合衆國大統領、佛  
蘭西共和國大統領、大不列顛及愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下、希臘國  
皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、盧森堡國大公ナツソノ公  
殿下、モンテテテグロ國公殿下、和蘭國皇帝陛下、波斯國皇帝陛下、葡萄牙國



及アルガルヴ皇帝陛下、羅馬尼亞國皇帝陛下、全露西亞國皇帝陛下、塞爾比亞國皇帝陛下、暹羅國皇帝陛下、瑞典國皇帝陛下、土耳其國皇帝陛下、下及勃爾牙利國公殿下、平和ヲ維持シテ諸國間ノ戰鬪ヲ制止スルノ方法ヲ講ズルト同時ニ其ノ所願ニ反シテ萬避クルコト能ハザル事變ノ爲ニ兵力ニ訴フルルコトアルベキ場合ヲ豫想スルノ必要ナルコトヲ察シ斯ノ如キ非常ノ場合ニ於テモ尙能ク人類ノ福利ト文明ノ駸々止ムコトナキ需要トニ副ハムコトヲ希望シ之ガ爲戰鬪ニ關スル一般ノ法規慣例ハ一層精確ナラシムルヲ目的トシ又ハ成ルベク戰鬪ノ慘苦ヲ減殺スベキ制限ヲ設クルヲ目的トシテ之ヲ修正スルノ必要ヲ認メ二十五年前即チ千八百七十四年比律賓會議ノ當時ニ於ケルガ如ク今日モ亦賢明慈仁ナル先見ヨリ出デタル前記ノ目的ヲ體シ陸戰慣習ヲ明確ニ規定スルヲ目的トスル許多ノ條規ヲ採用セリ

締盟國ノ所見ニテハ右條規ハ軍事上ノ必要ト相容ル、限り努メテ戰鬪ノ慘害ヲ輕減スルノ希望ニ出デタル成案ニシテ交戰國相互間并人民トノ關係ニ於ケル交戰國ノ行動ノ準則タルベキモノトス  
實際ニ發生スル一切ノ場合ニ普ク適用スベキ規定ヲ今ヨリ豫メ協定シ置クコト能ハスト雖モ明文ナキノ故ヲ以テ總テ規定ナキ場合ヲ舉テ軍司令官ノ擅斷ニ放任スルハ締盟國ノ意思ニ非ズ  
締盟國ハ一層完備シタル戰鬪法典ノ編纂セラル、ニ至ル迄ハ其ノ採用シタル條規ニ漏レタル場合ニ於テハ人民及ビ交戰者ガ從來文明國民ノ間ニ存立スル慣習、人情ノ原理并ニ公共良心ノ要求ヨリ生ズル萬民法ノ原則ニ依リテ保護セラレ且之ニ服從スベキモノト宣言スルヲ以テ適當ト認ム

締盟國ハ其ノ採用シタル規則中殊ニ第一條及ビ第二條ハ右ノ趣旨ヲ



以テ解スベキモノナルコトヲ宣言ス  
締盟國ハ之ガ爲條約ヲ締結セムコトヲ欲シ各々左ノ全權委員ヲ任命  
セリ委員氏名省畧

獨逸國普魯西國、奧地利國、ボヘミヤ國、洪利牙國、白耳義國、丁抹國、西班  
牙國、亞米利加合衆國、墨西哥合衆國、佛蘭西共和國、大不列顛及愛蘭聯  
合王國、印度國、希臘國、伊太利國、日本國、盧森堡國、モンテネグロ國、和蘭  
國、波斯國、葡萄牙國及アルガルウ、羅馬尼亞、全露西亞國、塞爾比亞國、暹  
羅國、瑞典、諾威國、土耳其國、勃爾牙利國  
因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ  
以テ左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 締盟國ハ各々其ノ陸軍ニ對シ本約條附屬ノ陸戰ノ法規慣  
例ニ關スル規則ニ遵依スル所ノ訓令ヲ發スベシ

第二條 締盟國中ノ二國又ハ數國ノ間ニ戰ヲ聞キタル場合ニ限り  
締盟國ハ第一條ニ掲ゲタル規則ノ規定ヲ遵守スルノ義務アルモ  
ノトス

右規定ヲ遵守スルノ義務ハ締盟國間ノ戰鬪ニ於テ一ノ非締盟國  
ガ交戰國ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

第三條 本條約ハ成ルベク速ニ批准スベシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作り其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手  
續ニ依リ各締盟國ニ交付スベシ

第四條 非記名國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得ベシ

非記名國ガ其ノ加盟ヲ締盟國ニ通知スルハ書面ヲ以テ和蘭國政  
府ニ通告シ同國政府ヨリ更ニ之ヲ爾餘ノ締盟國ニ通知スベシ